

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 600円



クローズアップ Close-up

**折り図のネーム表現は
説明なのか解説なのか?
(実況なのか?) Part 1**

Relevance of Explanations below Diagrams 1

立石浩一 Tateishi Koichi

折り図 Diagrams

Op. 460 鶴の求愛

Dancing Crane, Opus 460

ロバート・J・ラング Robert J. Lang

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

水瓶座 (2005年版)

Aquarius 2005

北條高史 Hojyo Takashi

イベント情報 Event Information

**第11回折紙探偵団
コンベンション情報**

Information about 11th Origami
Tanteidan Convention

通巻 **90** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、先取権の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies on the preferential right, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

 谷折り線 Line indicating valley fold	 山折り線 Line indicating mountain fold	 手前に折る Fold paper forwards	 後ろへ折る Fold paper backwards	 折り筋をつける Making a crease line	 段折り Pleat fold
 裏返す Turn paper over	 引き出す Pull out	 図の見る位置が変わる Rotation	 図が大きくなる A magnified view	 見えないところ A hidden line	 押す、押しつぶす Push paper in
					 切る Cut

表紙作品解説

水瓶座 (2005年版)
作: 北條高史 (P.34)

Aquarius 2005
by Hojyo Takashi (P.34)

■蛇腹を基調としたひとつの作品の中に、「カドを出すための構造」と「模様を折り出すための構造」を並存させるのは、以前から試してみたかったテーマです。今回の作品では人体と水の区別をテクスチャーの違いで強調できるという効果が得られていますが、今後さらにこの技法の可能性を模索する予定です。

(解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi

ORIGAMI TANTEIDAN
折紙探偵団
 MAGAZINE
 CONTENTS

No. 90



Aquarius 2005: Hojyo Takashi

クローズアップ/Close-up

P.11 折り図のネーム表現は
 説明なのか解説なのか
 (実況なのか)? Part 1

Relevance of Explanations
 below Diagrams 1

立石浩一
 Tateishi Koichi

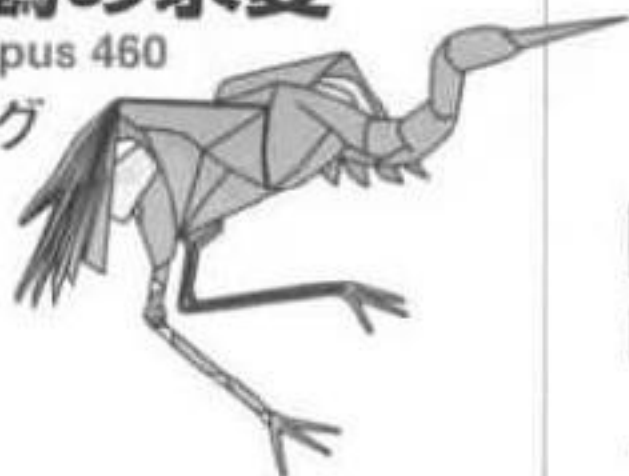
折り図/Diagrams

P.22

Op. 460 鶴の求愛

Dancing Crane, Opus 460

ロバート・J・ラング
 Robert J. Lang



P.34 展開図折りに挑戦!
 Crease Pattern Challenge!

水瓶座 (2005年版)

Aquarius 2005

北條高史
 Hojyo Takashi

カラーページ/Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
 Origami Photo Gallery

解説・北條高史
 Comments: Hojyo Takashi

折り図/Thematic Series with Diagrams

P.4 やわらかユニット物語

The Stories of Mellow Units

川村みゆき
 Kawamura Miyuki

内助の功
 Hidden Help

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

やまぐち真
 Yamaguchi Makoto

おしゃべりくん
 Mr. Gossiper

読み物/Articles

P.14 オリガメトリー

ORIGAMETRY

トム・ハル
 Tom Hull

翻訳: 羽鳥公士郎
 Translator: Hatori Koshiro

折り紙の基本操作
 Basic Origami Operations

P.18 高木 智の折り紙資料館

高木 智

Takagi Satoshi's the Origami Reference Room Takagi Satoshi

鳥居派の折り鶴柄

Oridzuru (Crane) Patterns in Paintings of Torii School

P.18 折紙散歩は健在なり

Origami Sampo is Alive and Well

前川 淳
 Maekawa Jun

折紙に逢える島

The Island to Meet Origami

P.35 ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File

吉澤章さんご逝去

Obituary: Yoshizawa Akira

コラム/Columns

P.7 折り紙ビギナー奮戦記2

Another Origami Beginner's Struggles and Agonies

橘 基

Tachibana Motoi

P.10 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子
 Fuse Tomoko

P.33 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

伊藤 崇
 Ito Takashi

情報/Information

P.31 日本折紙学会15期報告と16期予定

JOAS 2004 (the 15th year) Report and Projects for 2005

P.38 つまみおり Rabbit Ear

第11回折紙探偵団コンベンション案内
 Information about 11th Origami
 Tanteidan Convention



川村みゆき
Kawamura Miyuki

第12話 内助の功

Hidden Help.

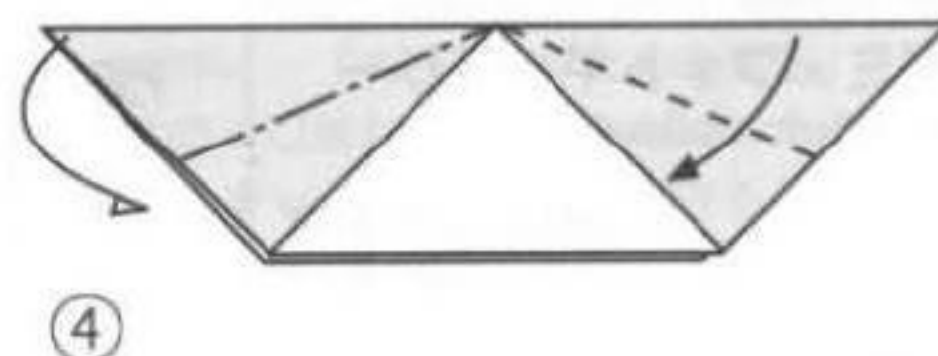
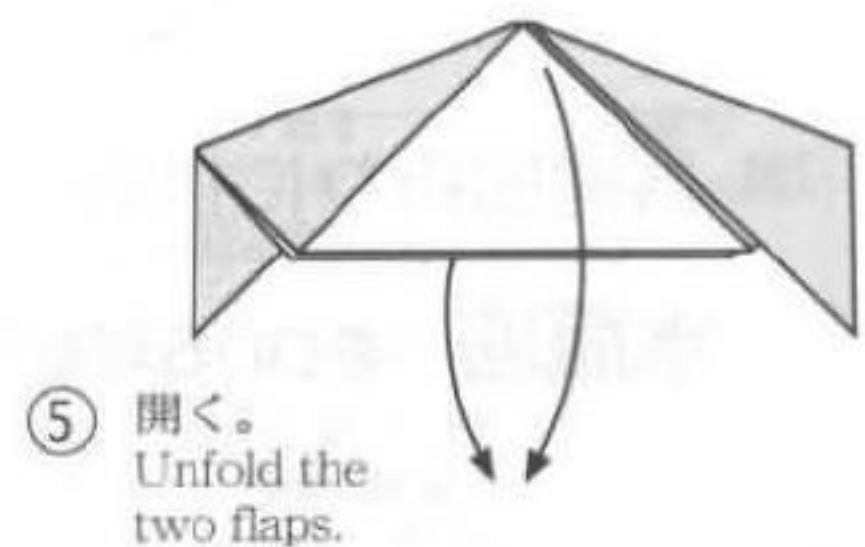
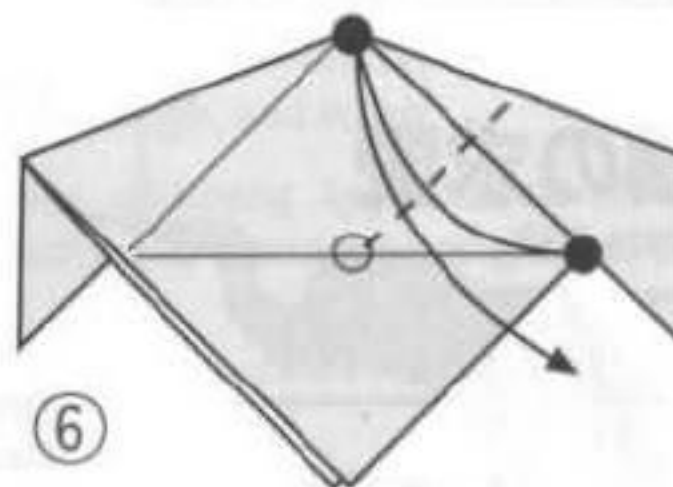
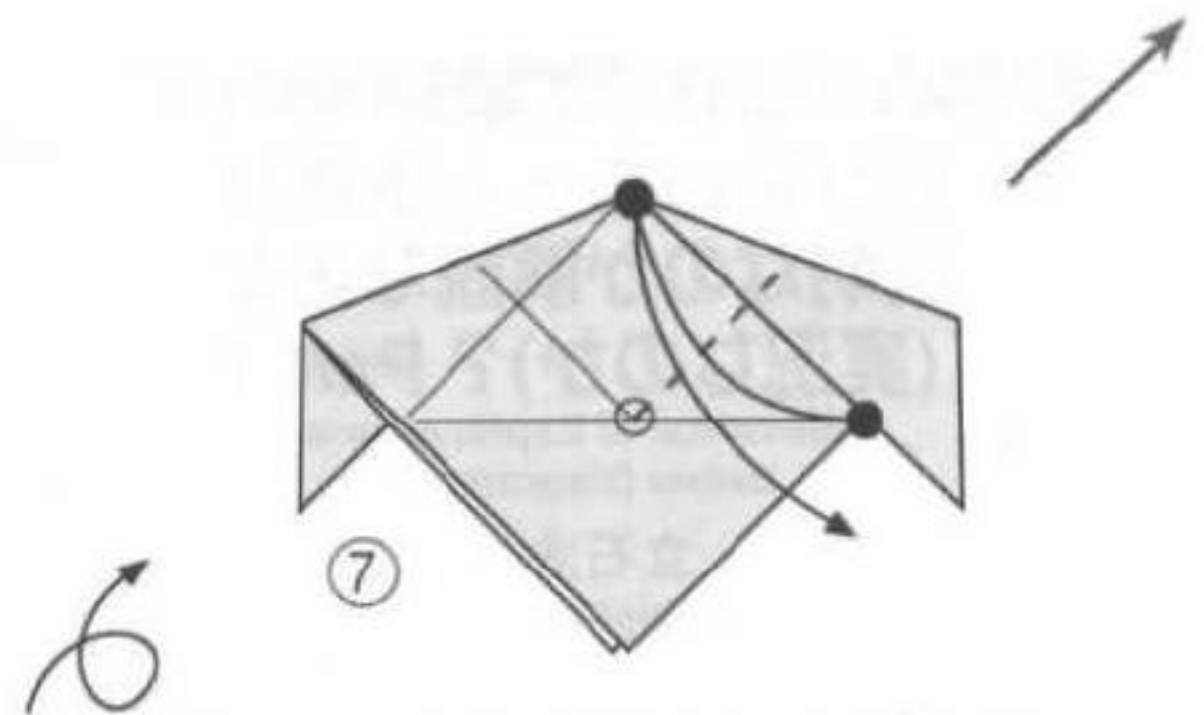
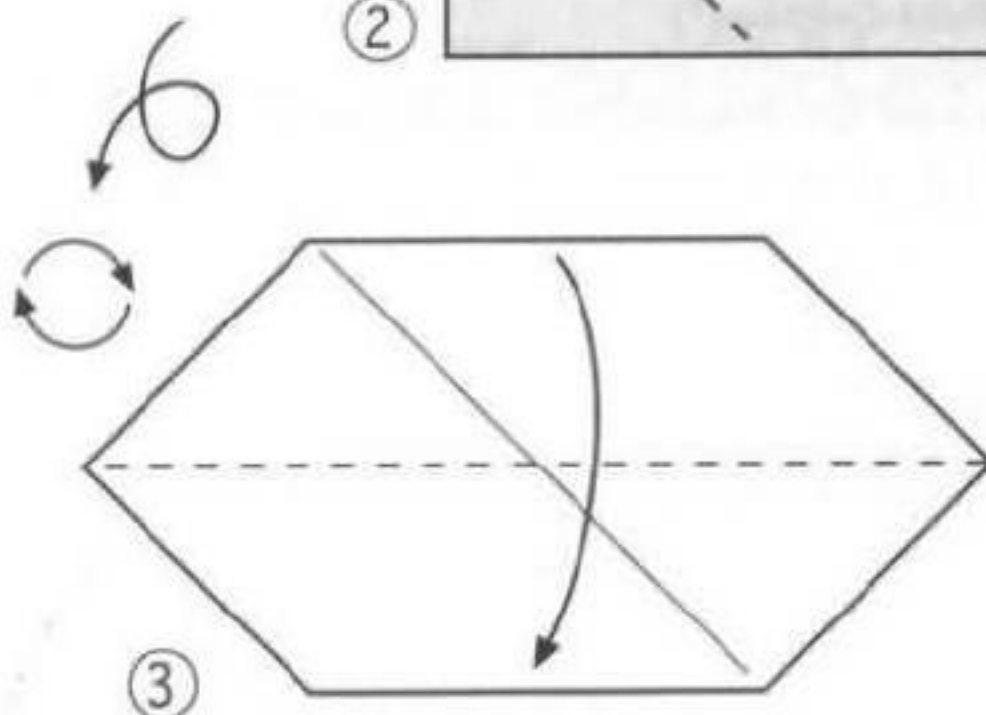
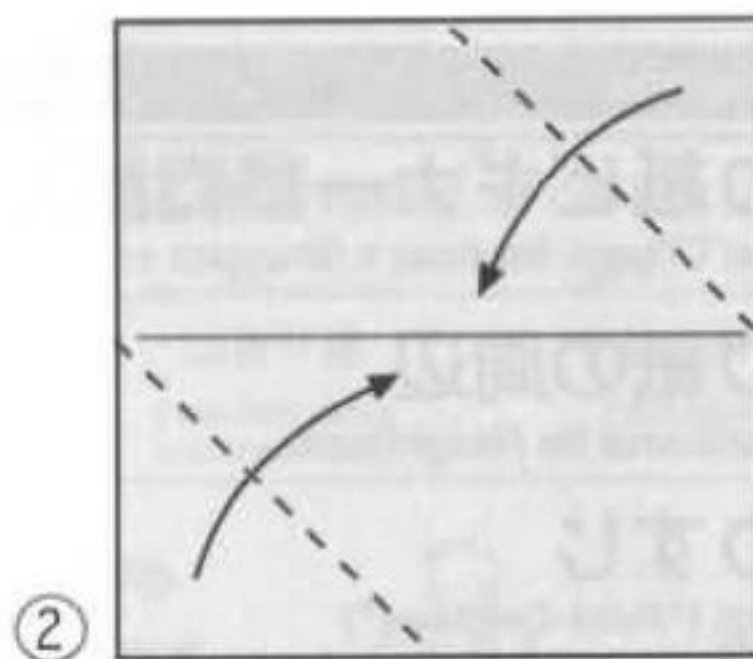
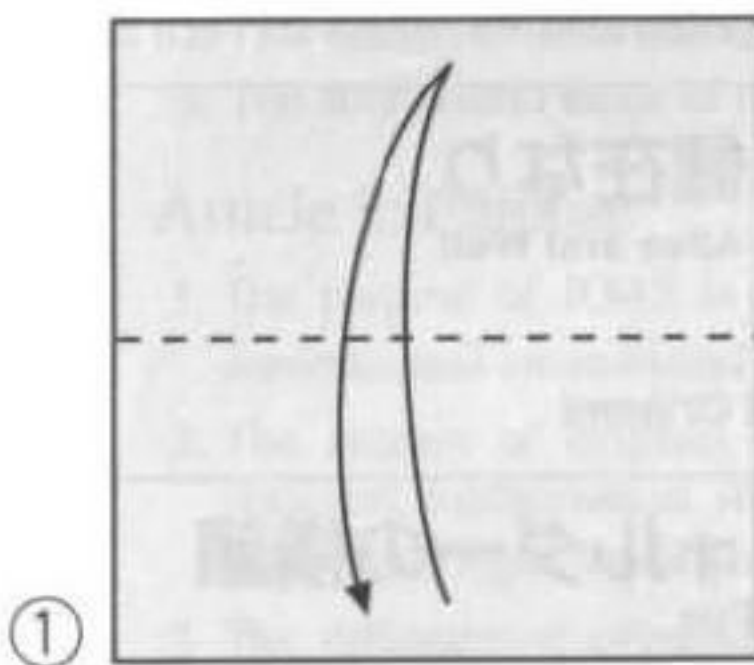
邪魔だからと内側に折り込んだ2つの角が、中で上手く噛み合って三角形を平面に保ちます。外からは見えませんが、作品が成立するためには重要な構造です。

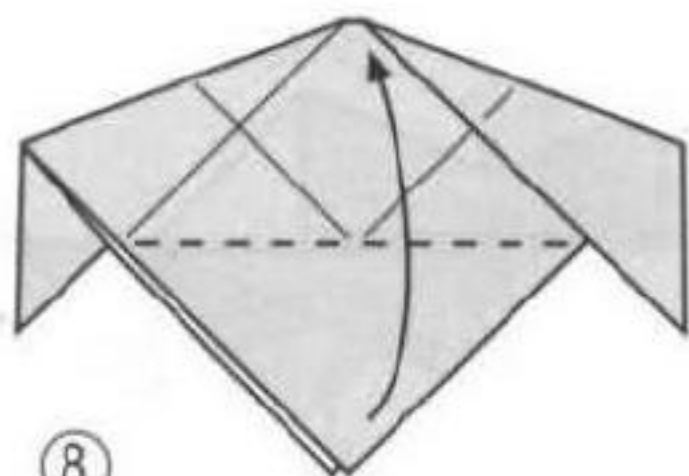
This unit has two extra flaps. These flaps tucked into inside of this model lock each other on the inside and triangular surfaces are kept plane. It is an important structure though it isn't seen from the outside.



かなえ
【鼎】
TRIPOD

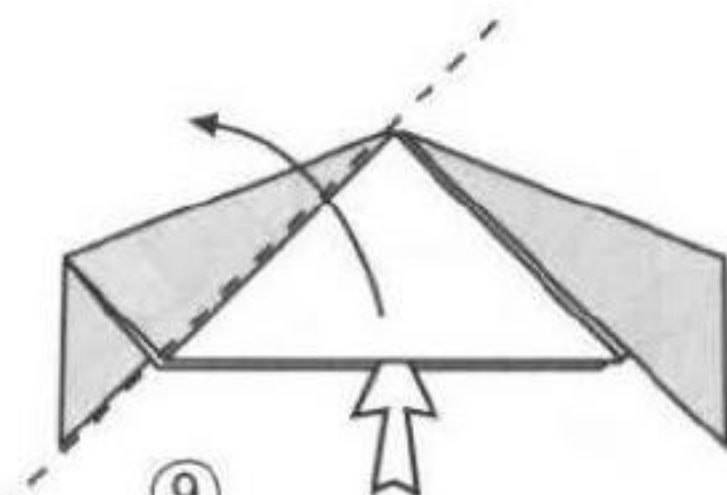
©2005 Miyuki Kawamura
Created 20050114





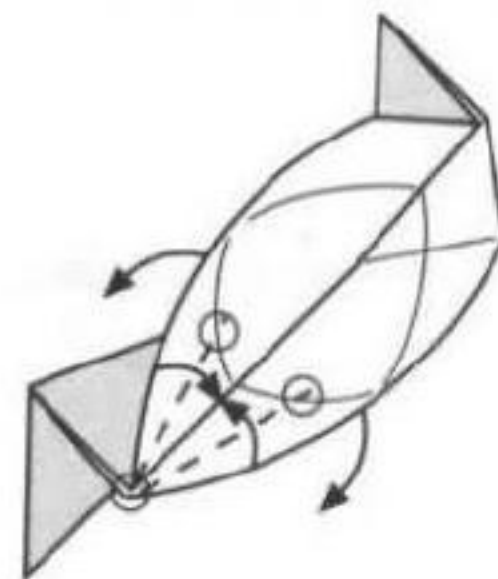
⑧

向こう側も同様に折る。
Do the same on the opposite side.



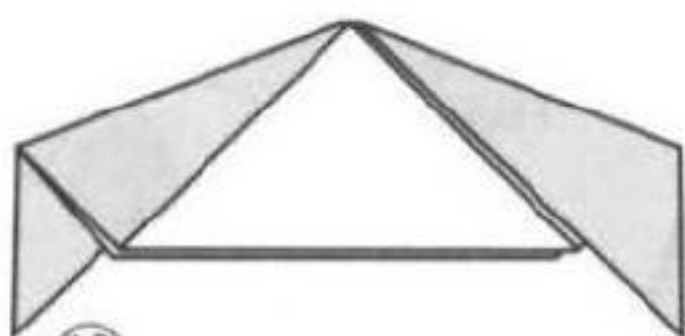
⑨

開く。
Open.



⑩

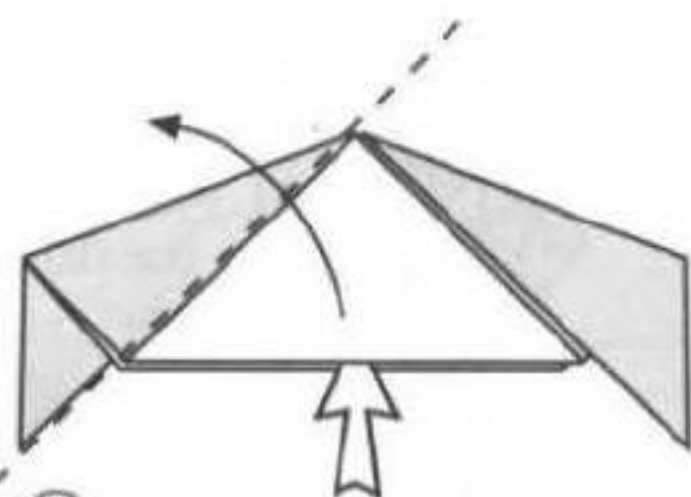
外側の三角は折らない。
Don't fold the two flaps.



⑫

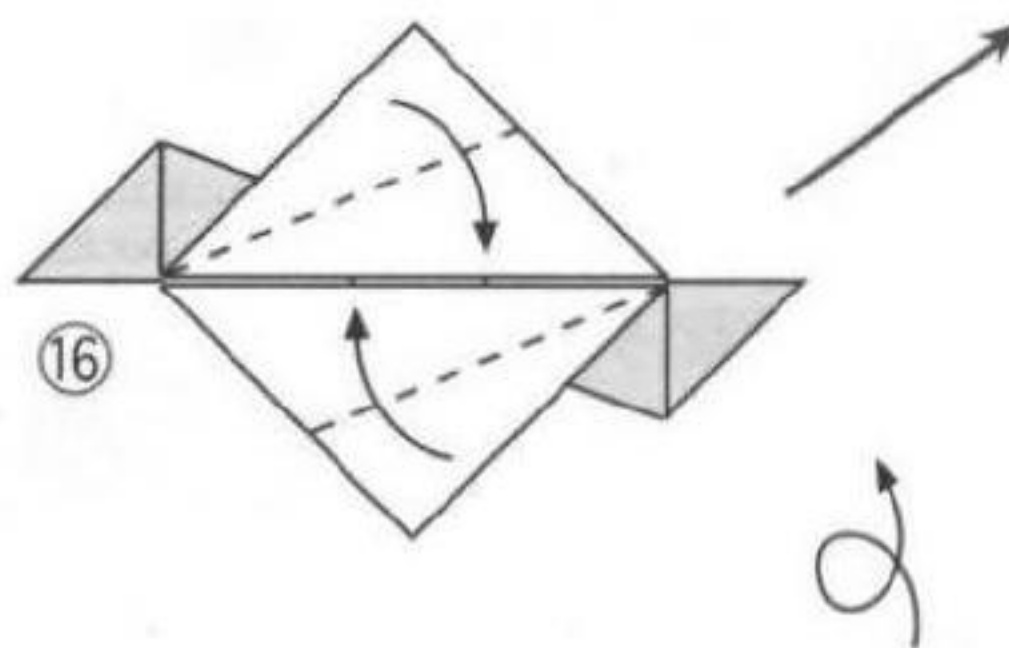
⑪

きちんと折り目をつけたら戻す。
Make two creases clearly and unfold.

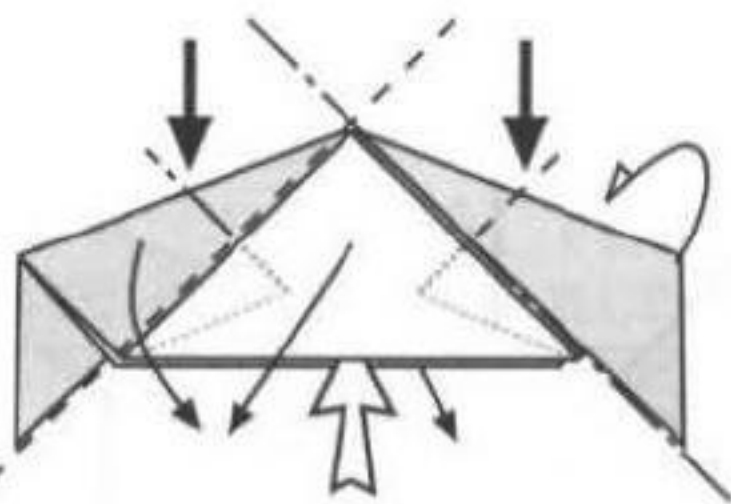


⑬

こちら側も⑨～⑫と同様に折る。
Do the same steps as ⑨ to ⑫.



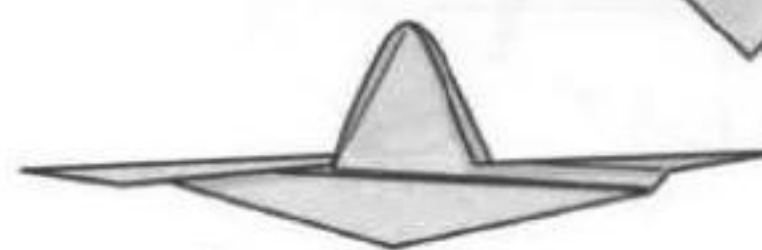
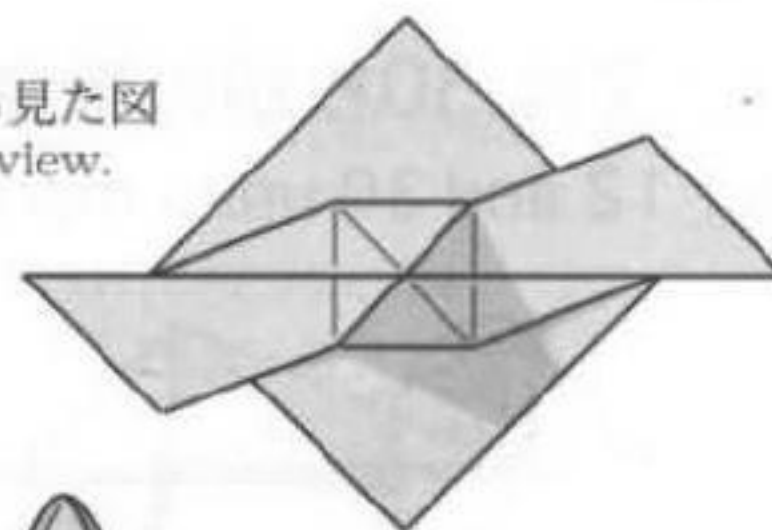
⑬



⑭

左右のフラップをねじりながら倒し、
両端を押しつぶして中央部分を立体化する。
Fold the two flaps into the opposite side,
squash the corner on the top and make a pyramid shape
at the center of the model.

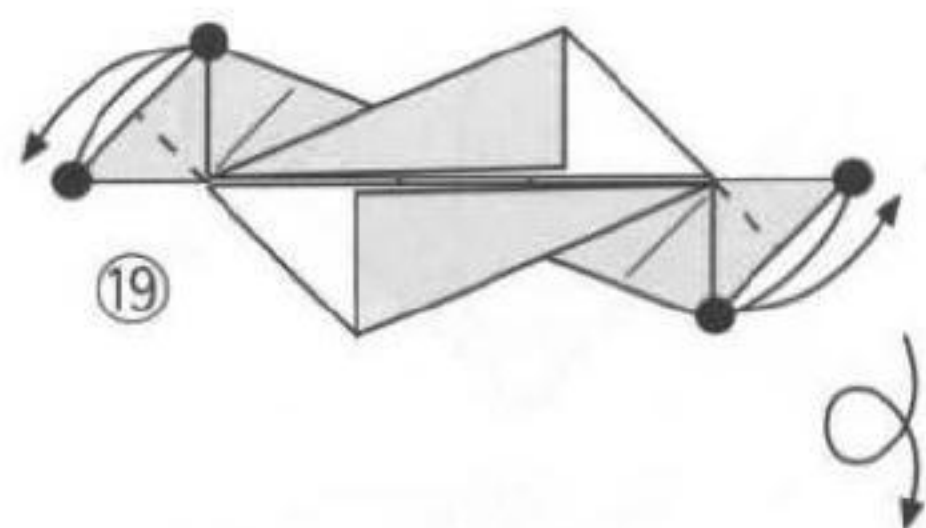
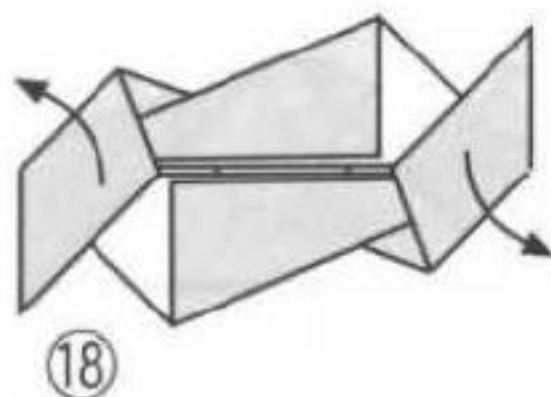
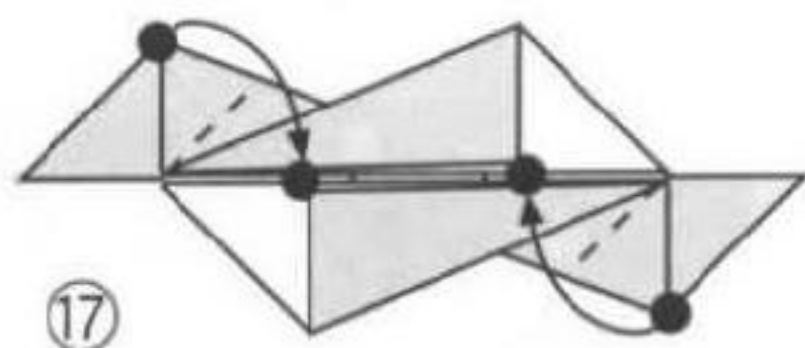
上から見た図
Top view.



⑮

横から見た図
Side view.

6 枚組の場合 for 6 units model

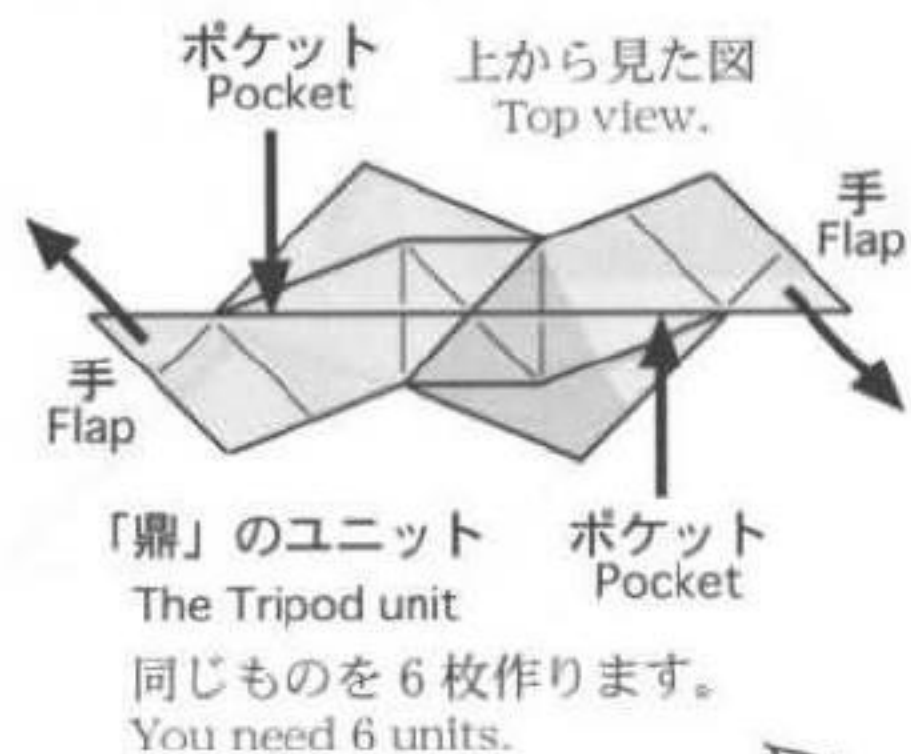
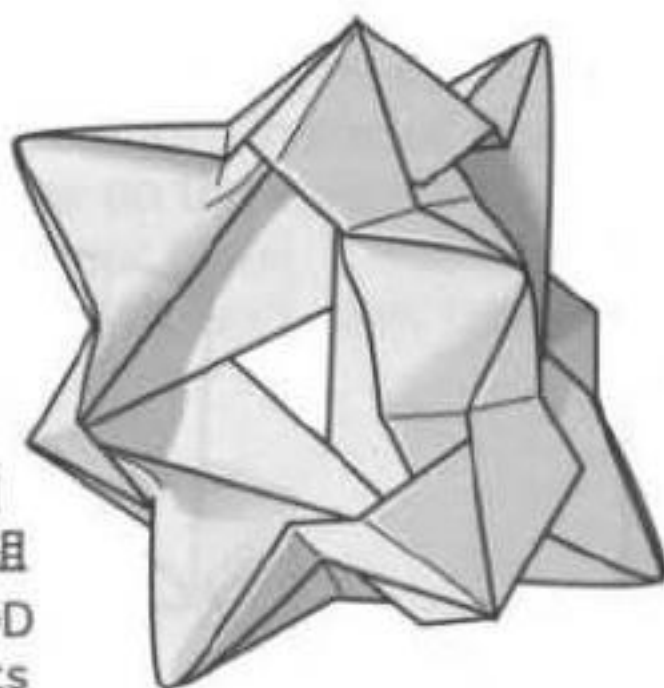


三角形の形を
綺麗に整える。
Do not deform
triangles.

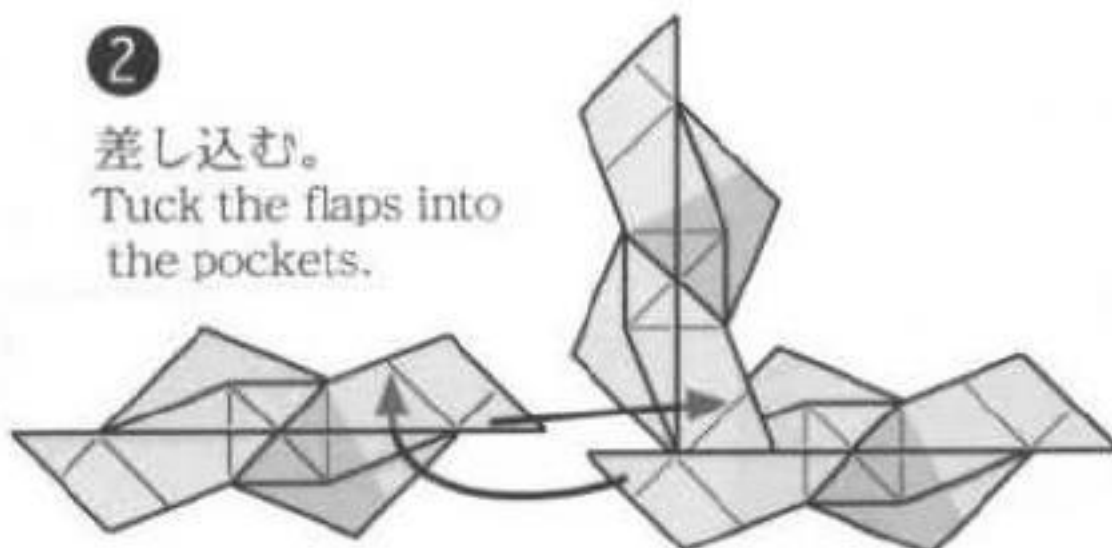


残りのユニットも
同様に組んでいく。
Insert the other units
in the same way.

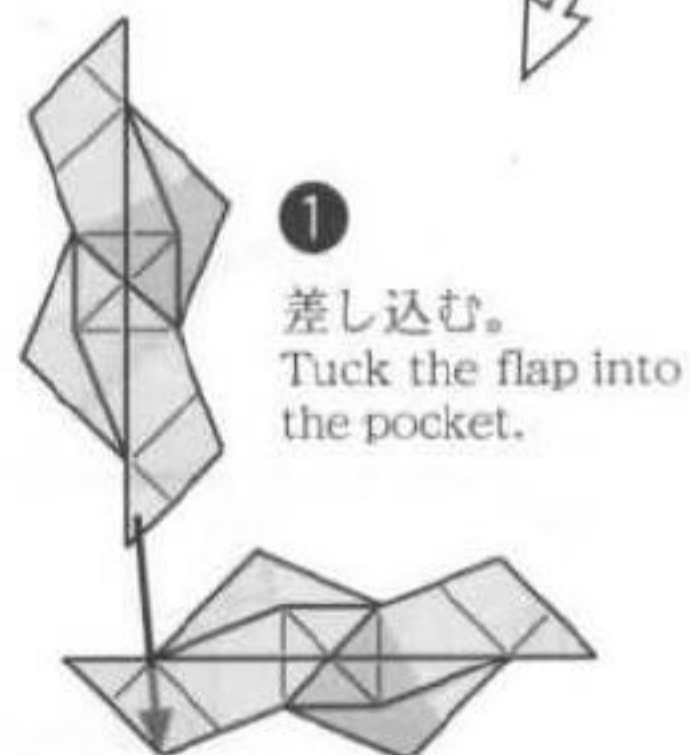
「鼎」
6 枚組
TRIPOD
6 units



組み方 / Assembly

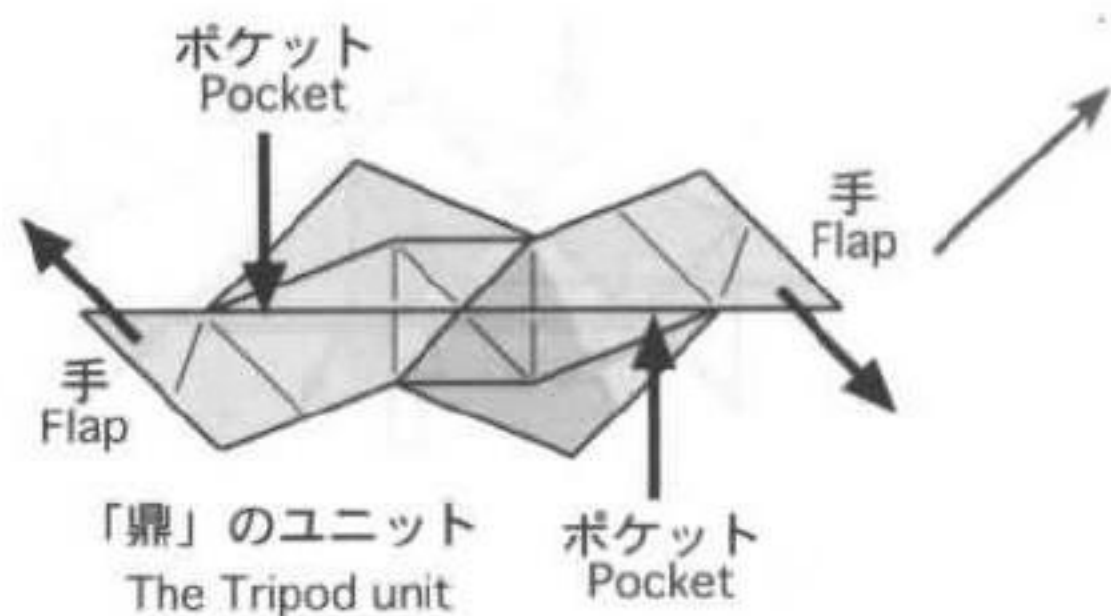
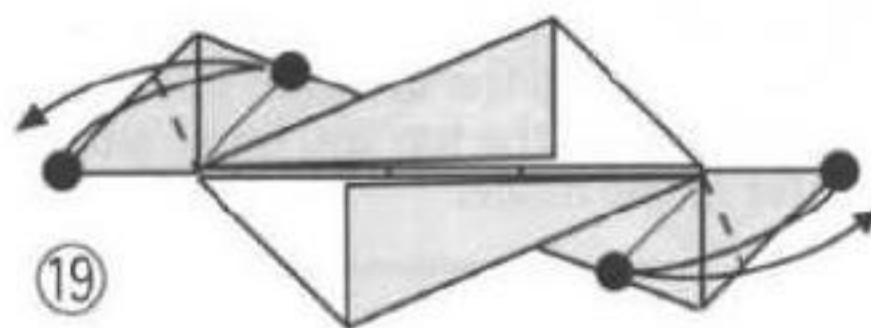
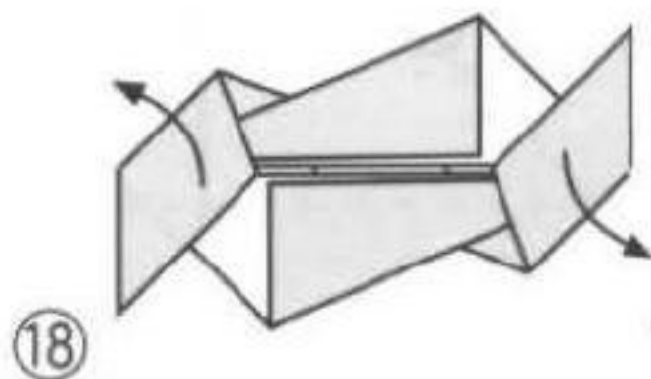
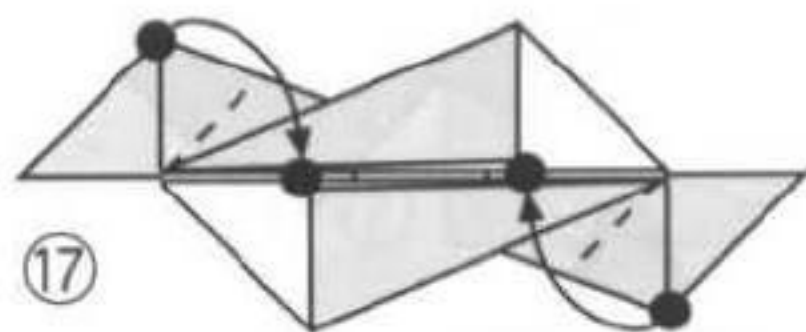


差し込む。
Tuck the flaps into
the pockets.

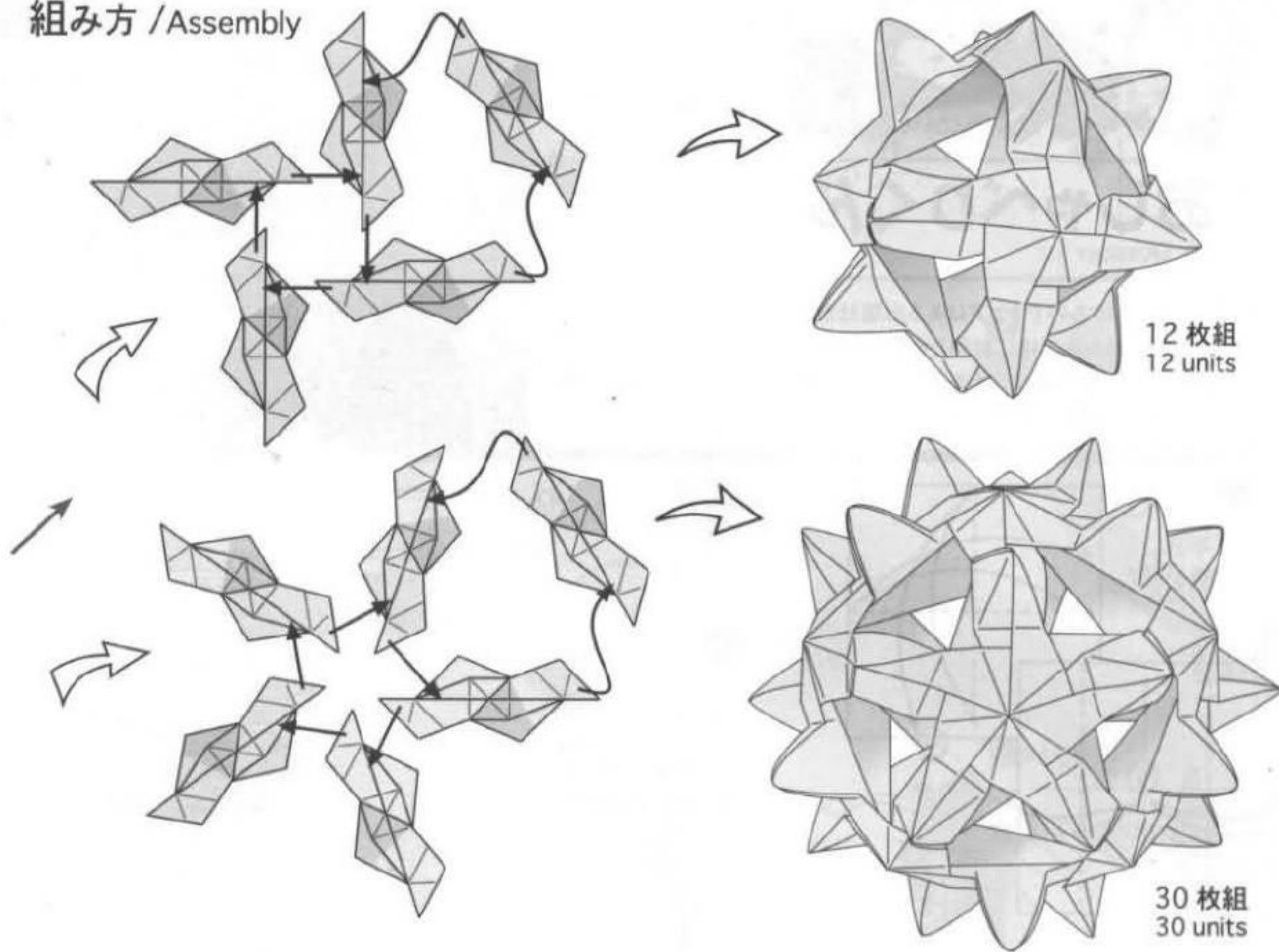


差し込む。
Tuck the flap into
the pocket.

12 又は 30枚組の場合 for 12 and 30 units model



組み方 / Assembly



橘基の Tachibana Motoi 折り紙ビギナー奮戦記2

Another Origami Beginner's
Struggles and Agonies

第11回 卒業制作 (?)

A Graduation (?) Project

突然ではありますが最初にご報告を。2年足らずやらせていただいたこのコーナーですが今回が最後となります。今まで私の餌食(?)になられてきた定例会の講師の方々、おりがみはうすのスタッフの皆様、こんな駄文でも読んで下さっていた読者の方々、本当にありがとうございました。また妻の支えがなければ毎回の原稿が仕上がらなかったのは言うまでもありません。そして何より山口さんからこの企画の話が出なければ今の自分(って大したことないけど)はなかったことを思うと本当に感謝の気持ちでいっぱいです。何だか湿っぽくなりました。さっそくで

すが報告いってみましょう!

今回の講師は高井さん、お一人の予定だったのが急遽Joan Sallasさんが加わって豪華なダブル講師となった。これも初体験。まずはSallasさんがトイレットペーパーの芯を使ったユニークな折紙作品を紹介。靴(Two Shoes)というシンプルな作りのものだが素材がいつもと違うせいで折る感触が異なり、個人的にすごく堪能した。後で聞いて知ったのだがSallasさんは帽子作品で有名な方だそうです。今回はぜひそれを折ってみたいと思った。

そして高井さんの登場。作品はもちろん恐竜です。前回は背中の中が現れる部分にハッとさせられたが今回はどうか。ビギナーにとって高井さんが講師でありがたいのは必ず折り図を配って下さること。2年足らずやってきて、未だにそれを見ても最後まで行くのはしんどいわけだがそれでもあるとないでは大違い。この2

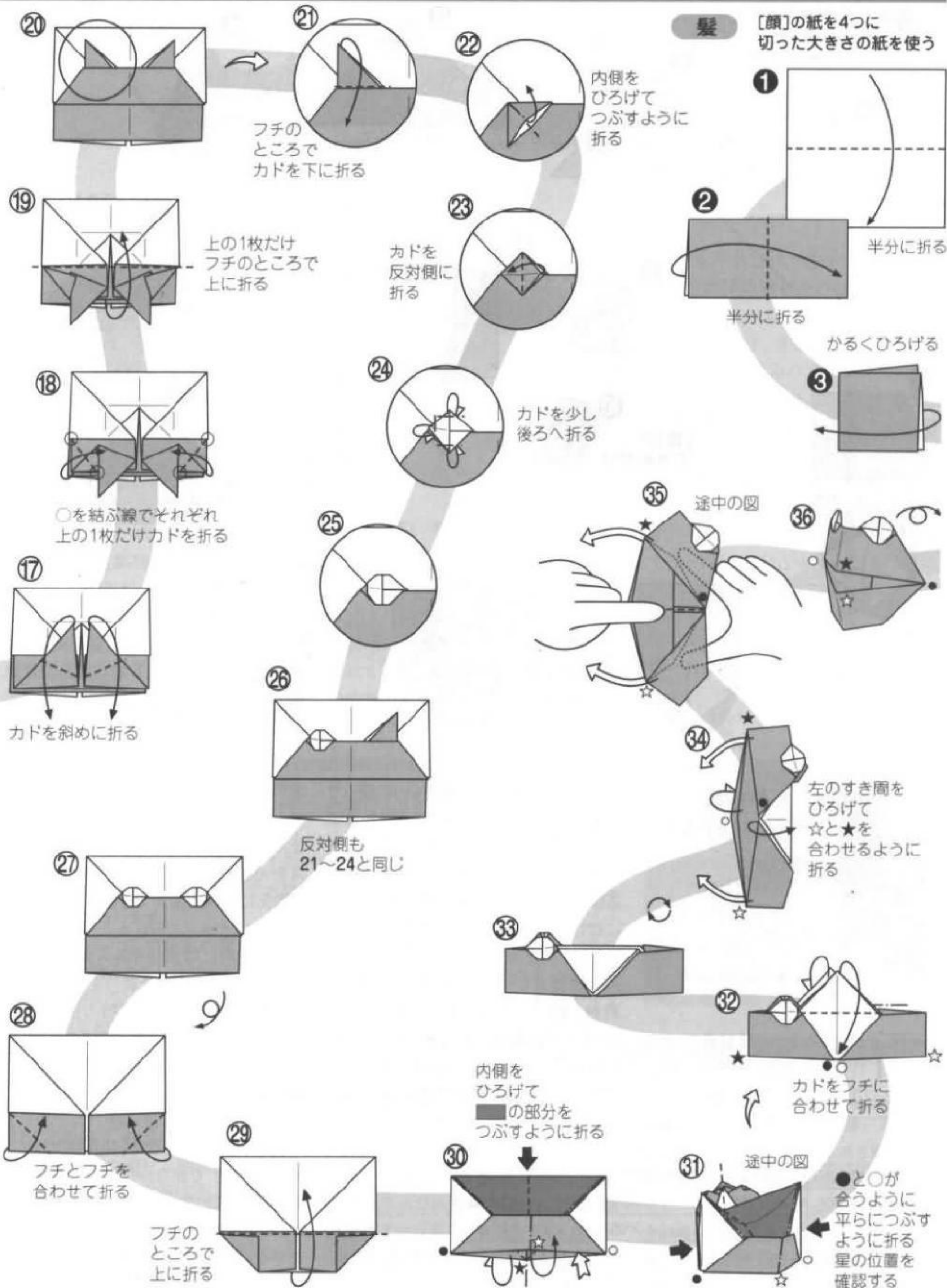
年で大きく変化したこと、それは出来上がった作品が少しでも綺麗に見えるよう努力するようになった点。以前ならとにかく折ればいいみたいなところがあった。良い意味で欲が出てきたんだと思う。折り図を見ながら折るのは何度かやっていて自分ではそれなりに自信があったつもりだが、今回もかなり苦戦して、やはりビギナーはビギナーと実感。修行が足りないなあ。

それにしても変化したといえば会場の雰囲気。以前に比べ格段に子供、特に小学生やそれより年下の子供の数が増えた。しかも教わりに来ているというよりはむしろ自分の作品を見せたいという人も少なくない。若者にとって自由な発表の場は何より嬉しい、というのは自分にも良く分かる。

何だかとりとめない感じだがこの辺で。またどこかでお会いしましょう!

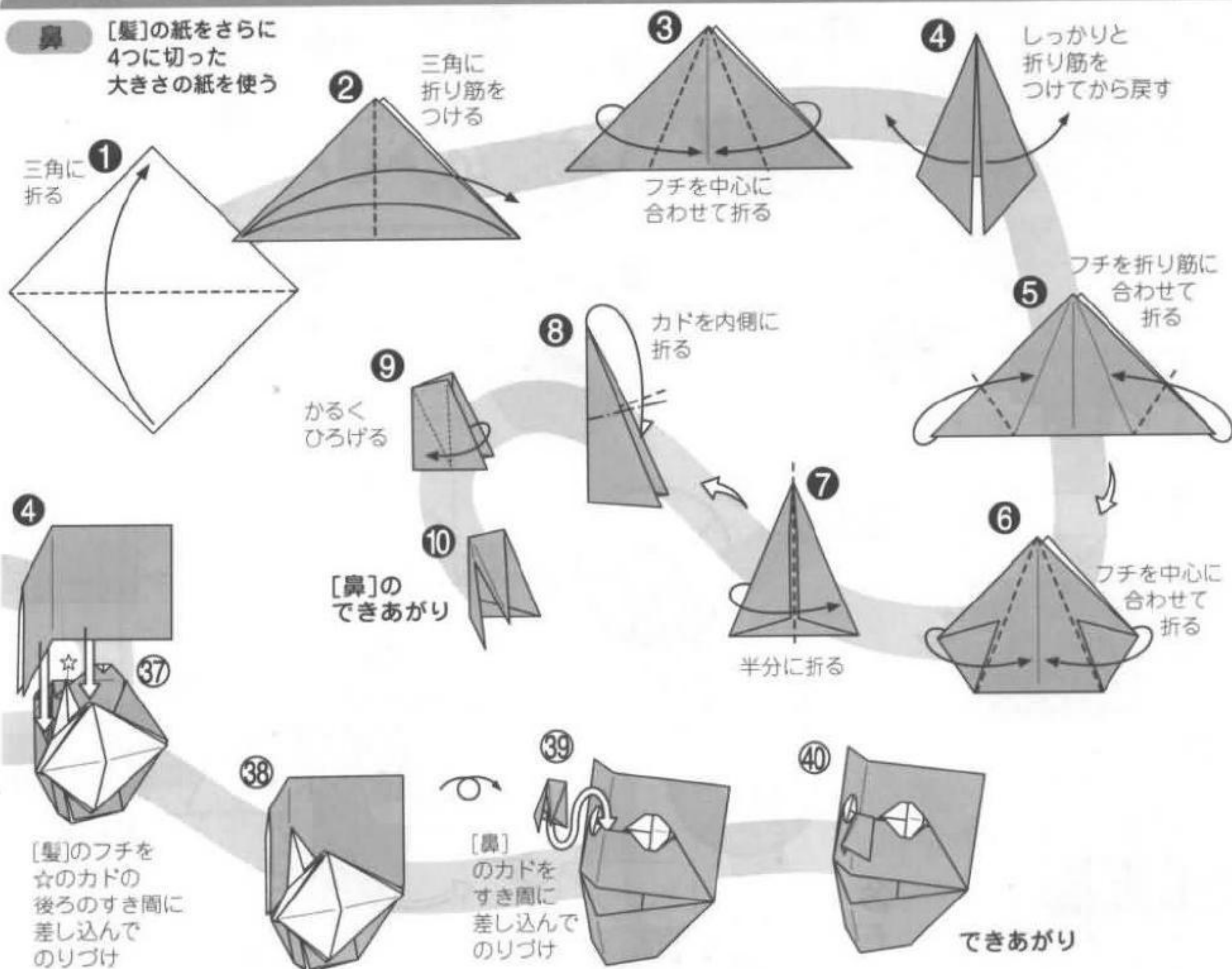
髪

[顔]の紙を4つに切った大きさの紙を使う



鼻

[髪]の紙をさらに
4つに切った
大きさの紙を使う



折り紙の 周辺

第10回 虫は好き？ Buggy about Bugs

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

雪がとけるまでには目鼻を、と毎日折り図書きにいそしんでいる。というのは、春になると虫がわき出し、落ち着いて机に座ってられないと予想されるからだ。ちょっとでも時間があれば、事情が許せば、長靴を履いて外にでるぞ。

2003年5月6日に私は新しい趣味を見つけた。昆虫をデジタルカメラで撮

ること。この家の周りに来るものに限っている。その日の朝、土間にミネラルを吸いに來たゴマダラチョウを、たまたま近くにあったデジカメで撮って、簡単に撮れるものと思っていたのに、すさまじいまでにぼけぼけだった。その瞬間に何かはじけ、昆虫撮影道楽にはまった。ほとんど知識がないから見るものすべてが新鮮。楽しい。ただただ楽しいおもしろい興味深い驚きの連続だぞあたらしいものをゲットすればうれしいなあ。

はじめてこの家に來た19年前、きれいなのでないの、あまりの虫の多さに、虫好きがこんな所に住んだらさぞ冥利だろうと想像した。しかし自分でそれを追っかけようとはつゆ思わなんだ。パソコンやカメラや、素人でも楽しめる機器が進化してきたことが大きな要因。色、形、

毛の生えよう、テカリぐあい、それだけでもびっくりの生命体が、さらに、あんなてこった、動きまわる！マクロレンズが可能にしてくれた世界。動き回りがゆえに簡単に撮影できないところにも、意欲をかき立てられる。

折り紙界には虫折り名人が多くいらっしゃる。はなやかな競作を眺め「ひやあ！」と驚くことしきり。実物の虫にも、折り紙の虫にも、のけぞってばかり。前号「ペーパーフォルダーの横顔」のManuel Sirgoさんもすばらしかった。折り紙と虫に対する愛情を感じた。ところで、じゃ、そろそろあなたも虫折りをはじめるかって？ なかなかどうも。どちらの世界も奥が深く折り紙界の虫も鑑賞にとどめておきます。どっちの虫ももっと見たいなあ！あなたは虫が好き？

折り図のネーム表現は説明なのか解説なのか(実況なのか)?

Part 1

Relevance of Explanations below Diagrams 1

立石 浩一

Tateishi Koichi

はじめに

ここ数年、「折紙探偵団」の一部の翻訳から始まって、現在ではおりがみはうすを中心として折紙関連書籍のバイリンガル化に関わっております。今回は、その中でいろいろと考えたことをお話ししようと思っています。二回にわたって、果たして読んでくださるかどうか、不安ではありますが、「一度書いてしまったものはしょうがないのである。」(とり・みき氏の自身の全集物のあとがきの定番のセリフ)、「原稿は、一番最初に書いたのがいつも一番面白い」(唐沢俊一「笑う雑学」廣済堂文庫)という私の尊敬する両氏の言葉にはげまされつつ、お話ししていきたいと思ひます。

内容的には、「折紙探偵団」78号(2003年)の小松英夫さんの折り図についての大変分析的な論文、「折り図表現について」を受けてのものとなりますが、視点をどちらかというと折り図そのものでなく、折り図のネーム(図の下言葉による説明)に焦点を置いてお話しすることになります。

また、もう一つこの記事の視点として小松論文と違うかもしれないのは、この記事は、「折り図を読む側からみて折り図が判読可能であるかどうか」に焦点を置いていることです。ただ、これは、小松さんご自身が読み手の側から見ても折り図描きの名手であることは皆さん認めるところなので、蛇足かもしれません。先にも言いました通り二回にわたりますが、前半では、「なぜ折り図に言葉が必要なのか?」を考え、後半では、「いつでも折り図に言葉は必要か?」を検討していこうと思います。

いつでも説明があると思うなよ

時々、図1のようなネーム付き折り図を見かけます。

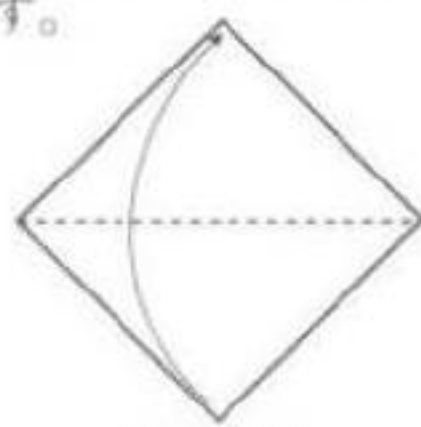


図1 情報過多の折り図

何となく、この折り図って、しつこくありませんか? 「分かってるよ。」って、言いたくなりませんか?

実は、この折り図には、三重の情報の無駄があります。第一に、矢印とネームの情報の重なり。矢印から上向きに折ることは分かるのに、「上へ」と書かれています。こんなことを書くより、「カドとカドを合わせる。」と書いた方が、情報としての価値はありますよね(クイズ: どちらも図にある情報を言葉にしているのに、なぜ情報量は「カドと〜」の方が多いのでしょうか? (正解者に何かあげることは出来ませんが、考えがあったら立石までご一報下さいませ(ね、小松さん)))。第二に、折り線とネームの情報の重なり。谷線があるのに、「谷折り」って、無駄ですよ

ね。でも、これだけではないんですよ。

第三に、何と谷線そのものも無駄なのです。この三つ目については説明がいるかと思ひます。普通、折り図というのはこの図だけを見るのではなく、次の図と照らし合わせながら、作者の意図を読み取るものです。仮に、次の図に、色面が表の上がとがった三角形があったら、読み手(折り手)は、「あ、谷折りで三角に折るのね。」となるわけで、「切って裏返す。」とはあまり考えません(クイズ: 何故でしょう? (このくらいにしとこ))。つまり、実は谷線ですら必ずしも必要なものではないのです(写真折り図などにそういうのがありますよね)。ですから、図2のような方法でも十分に情報は伝わってしまいます。

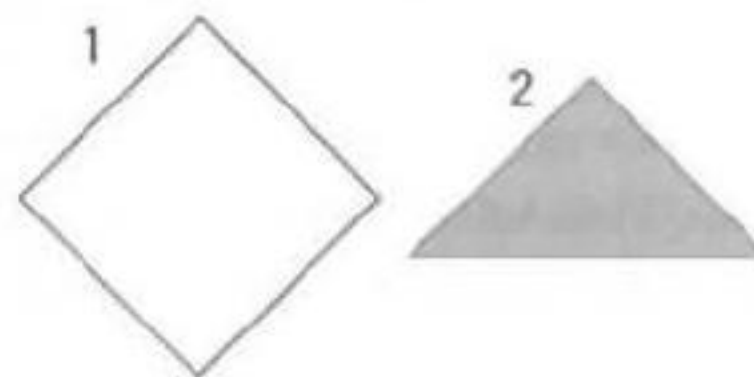


図2 これでも十分伝わりますよね?

つまり、折り図の下説明、ネームというのは、時と場合によってはまったく必要が無いことになります。

このことを確かめるべく、ちょっとした

	ネーム率平均	上位25%の値	中間値	下位25%の値
アメリカ人	88.86%	100%	100%	75%
非アメリカ人	56.35%	100%	84.12%	3.81%

表1 ネーム率調査1

	ネーム率平均	上位25%の値	中間値	下位25%の値
日本人	62.23%	82.86%	66.15%	46.15%
アメリカ人	78.98%	100%	100%	79.33%
その他	46.48%	84.07%	62.22%	30.05%

表2 ネーム率調査2

折り図のネーム表現は 説明なのか解説なのか(実況なのか)? Part 1

立石 浩一
Tateishi Koichi

調査をしました。OrigamiUSA Origami Collection 2004 (OrigamiUSA Convention 2004の折り図集)の全折り図について、図の何パーセントにネームが付いているのかを、アメリカ人対非アメリカ人(いろんな折り図を見ていて、何となくこのグループ分けで差が出るだろうと思ったものですから)で比較してみましたところ、表1のような結果が出ました(図の数はほぼ同じです)。「ネーム率」とは、一つの作品の折り図中の、(ネーム付き図の数)÷(図の総数)×100、つまり、ネーム付き折り図の割合です。アメリカ人が尋常でなくネームを使用していることが明確に分かりますね。半数以上(中間値(順番に並べたときの真ん中の物の値)で分かります)が全部の図にネームを使い、75%以上(下位25%の値で分かります)が75%以上の図でネームを使っているのですから。一方で、アメリカ人以外の人のネームの使い方はばらばらです。ほとんど使わない人もかなり居ます。

次に、日本人はどうなのだろう、と思い立って、「第10回折紙探偵団国際コンベンション折り図集」で同様の調査をしました(図の数は、日本人のものが、他の図の総数の二倍あります)。結果は表に示したように、アメリカ人対非アメリカ人は同様のパターンで、日本人は見事に両者の真ん中でした。実に日本人的で、すばらしいバランス感覚です。ただ、実は、日本人の中でも、コンプレックス系の創作者はネームが多いか少ないか極端な傾向にあるのですが、これはまた別のテーマですね(ひよっとするとラングさんやモンテロールさんの影響かもしれません)。いずれにしても、折り図に

とって、ネームはいつでも必要なものではないのです。

ちえっ、図だけかよ!

しかし、ここで考えてみてください、図をうまく書いたら十分に情報は伝わるはずなのに、図2のような折り図に対して、私たちは、そこはかたない不安を覚えますか? イタリアやスペインの方はほとんど折り図にネームを入れませんから、ひよっとしたらそんなことは無いのかもしれませんが、矢印か谷線、あるいは、「三角に折る」というネームが無いと、何か座り心地が悪いというか、足りない感じがしますよね(でも全部あるとしつこいんですね;この点については、後半で)? この座りの悪さは、いったいどこから来るのかについて、考えてみましょう。

先に紹介しました小松論文では、折り図記号の融通の利かなさについて述べられています。詳細は小松論文を見ていただきたいのですが、具体的には、例えば中割り折りという一つの折りについて、そのことを、紙を開いてカドを内側へ折り込むものとしてとらえるのか、紙の背中からカドを押し込むものとしてとらえるのか、といったことです。その視点の違いによって、折り図に使われる記号が違ふ、ということが有り得る訳です。この点に関して、小松さんは、折り感覚をいくら言葉で補っても、「ネームは海外の人には通じませんから、出来る限り記号を用いて表現できればそれに越したことはありません。」(p. 12)、と述べています。確かにその通りなのですが、問題は、「記号のみを用いて表現できるのか?」ということではなからうかと思ひます。

例えば、仮にある人が中割り折りについて、「紙の背中側からカドを押し込む折り」と考え、逆にかぶせ折りを「紙の背中側から折り線になるところを押し込んで、カドを裏返す折り」ととらえているとします(かぶせ折りをする時は紙をカドの背中側から押し込みませんか?)。つまり、この人にとっては、どちらの折りも、「カドを押し込む」ことであって、たまたまその結果が異なるものなのです。さて、この区別をするために、この人が図3のようなものを考案したとします。

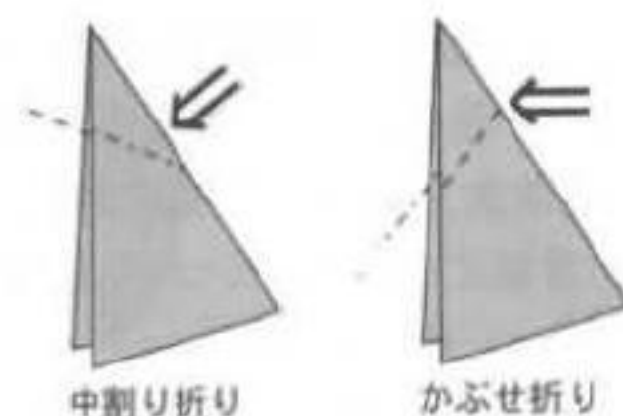


図3 記号は同じで逆向きの折り
これは、この人の折り図の世界では、正解です。何の矛盾もありません。矢印の位置・角度と折り線パターンの違いから、読者は次第に中割り折りとかぶせ折りの区別が出来るようになってくるでしょう。この人の論理では、矢印は、彼あるいは彼女の折りの特徴づけにおいて最も重要な、「押し込む」ことなのです(ここで、小松論文で紹介されていたラングさんの記号体系を思い出した方もいらっしゃると思います)。さて、ここで、この人が、図4を描いたとします。



図4 あいまいな折り図

立石浩一(たていし・こういち)＝新宿生まれ千葉育ちで神戸市在住。某お嬢様学校の英文科の教師(専門は言語学らしい)をしつつ、折紙本を英語にしたり、最初の意図とは明らかに異なるウェブページを管理したり、歌ったりの日々。Tulip、中島みゆきファン歴30年。折紙探偵団関西友の会運営事務担当使い走り。



さて、これはどういう折りでしょうか？ まっすぐに背の縁に沿って中割り折り？ もちろん、その可能性もあります。しかし、よく見ると、カドの向こう側の紙は色面です。つまり、カドの内側に紙が折り込まれているのですから、この場合は沈め折りの解釈も可能です。次の図は参考になるでしょうか？ どちらの折りをして、カドの先端が隠れた図になってしまい、内側が見えませんが、次の図は参考になりません。もちろん、親切な折り図描きの方は、内側を開いた図などで違いを示してくれます。でも、すべての折り図を描く方がそうするわけではありません。折りの流れを大事にして、あえて流れから外れる解説のための図を示さない方も居られると思います。折り図描きの巧拙も問題になるかもしれません。上のように、論理的であっても、分かりにくい折り図もあれば、下手な図でも、分かる折り図もあるのです。

言葉のみならず、記号に対する感覚も文化や民族、あるいは個人によって激しく、あるときはまったく逆向きになるくらい異なります。言語も、記号の一種です。「こちらたぬきうどんになります。」と言う人にとっては、本当に今自分がお客さんに出したたぬきうどんはたぬきうどんに「なる」のです。もっと記号的な言語表現を例にとってみると、「今行きます。」が英語で「I'm coming.」になるような方向感覚の視点の違いはいかんともしがたいものがあります。動作でも、「こっちにおいで。」の手招きが、日本語圏では下向きに手を振って、英語圏では上向きだ、なんていうのもそうですね。こんなの、直せませんよね？

折紙というのは、特に作家の方に

としては、かなりの部分主観による判断から成り立つアートでしょうから、折りの感覚のような、主観そのものであるようなものについて、純粋に主観の入り込む余地の無い客観的な記号化、というのは、もともと無理があるように思えます。そのような場合に、折りの感覚を伝える手段は、言葉しかないと考えています。言葉による説明、ネームは、少なくとも折りの感覚を伝えるメディアの一つとして、キープしておかなければならないのです。先ほど述べた、図2に対する不安感の正体は、図に示された、折りの感覚が確認できないところにあるのです。何か一つ、繰り返しの情報(「余剰的情報」といいます)があることによって、人は、自分の進んできた道(折り?)が、間違っていないことを確認し、安心して眠りにつく事が出来るのです(眠っちゃ駄目か…)。

ここまでのまとめと次回予告

以上、前半では、折り図におけるネームの必要性の重要な部分として、「折りの感覚の確認」というのがあることを指摘しました。後半では、ネームという言語による表現の限界について考え、「ほどよいネームと折り図のバランス」について見ていきたいと思っています。どのようなことについて話をするかという、例えば、もし折り図などというものが世の中に無くて、料理本のように折紙本が活字だけで成り立っているメディアだったらどのようなことになるか、といったことです。また、もし折りの感覚を確認するためにネームが必要なのだしたら、なぜ老若男女国籍を問わず、すべての図にネー

ムを添えないのでしょうか？ そこには、言葉というものの持つ、落とし穴があるのです。乞うご期待(してないか…)。

This article is about verbal explanations below diagrams. The first question we must ask about them is: Do we really need them? Verbal expressions sometimes tell us too much information. For example, as Figure 1 shows, too many redundancies in explanations must be avoided. In this diagram, verbal explanations just copy information expressed by iconic symbols. The same effect can be achieved with Figure 2 with no language.

Statistics show that how often creators use explanations below diagrams seems to depend on nationalities of them. Americans tend to use many verbal explanations, while Italians and Spanish hardly use them. However, even if Figure 2 is enough, we feel that it is unkind and we even feel insecure about it. Why?

This perhaps is because symbols, when used as sole medium of folding processes, create ambiguity. Even though iconic symbols in Figure 3 unambiguously instruct us to push in the corners when inside and outside reversing, the same symbol in Figure 4 shows ambiguity. Is this step inside reverse folding aligning edges, or a case of an open sink? The following diagram may not show us which is correct. Verbal explanations, even if they are sometimes redundant, exist because they let us confirm the sense of folding.

Tom Hull トム・ハル

第6回

折り紙の基本操作

Basic Origami Operations

Dr. Thomas Hull (トーマス・ハル博士) = 生徒も驚くことに、テクノミュージックを聴き、ゴスクラブで踊っている。ロードアイランド大学の大学院生時代は、大学のラジオ局で人気のDJだった。



1 はじめに

折り紙の幾何学においてもっとも根本的な問題の1つに、もっとも基本的な折り方を分類するということがあります。1989年に、藤田とスキメミ[2]が、6つの基本的な折り方のリストを提案しました。

O1: 2つの点 p_1 と p_2 があるとき、その2点を結ぶ直線を折る。

O2: 2つの点 p_1 と p_2 があるとき、 p_1 が p_2 と重なるように折る。

O3: 2本の直線 L_1 と L_2 があるとき、 L_1 が L_2 と重なるように折る。

O4: 1つの点 p と1本の直線 L があるとき、 L に垂直で p を通る直線を折る。

O5: 2つの点 p_1 と p_2 、1本の直線 L があるとき、 p_1 が L の上に重なるようにして、折り目が p_2 を通るように折る。

O6: 2つの点 p_1 と p_2 、2本の直線 L_1 と L_2 があるとき、 p_1 が L_1 の上に重なり、 p_2 が L_2 の上に重なるように折る。

2003年に、羽鳥公士郎が7番目の操作を提案しました(注[1])。

O7: 1つの点 p と、2本の直線 L_1 と L_2 があるとき、 p が L_1 の上に重なるようにして、折り目が L_2 と垂直になるように折る。

この7番目の操作による折り方は、ほかの6つの操作の組み合わせとして実行することが可能です。一方で、羽鳥の操作は、1つの点と2本の直線に基づく折り方としては唯一のものですから、ほかのどれとも根本的に異なった操作であることに違いありません。このことから、何人かの研究者(羽鳥[1]も含め)は、これらの操作すべてが、適切に定式化すれば、操作O6の特別な場合として表現できるということに気がつきました。

では、ほかには、折り紙の基本操作(Basic Origami Operations)は存在しないのでしょうか。最近、ロバート・ラング[3]が、この7つの操作のリストが完全であることを、複雑なベクトル幾何学を使って証明しました。つまり、これ以上の折り方は存在しないのです。今回は、ラングの証明を、より基礎的な(あまり厳密ではない)議論を使って説明しようと思います。

2 BOOを枚挙する

私たちの目標は、以下を証明することです。

定理: 1度に1折りだけしかしないこととし、すべての折り線が直線だとするとき、可能な折り操作は上記のO1からO7だけである。

証明の背後にある考えは、次のようなものです。私たちが折り紙を折るとき、2種類のものだけを互いに重ねて折ります。つまり、点と直線です。1つのものを別のものに重ねて折ったとき、1つの点をもう1つの点に重ねるときのように、折りが一意に定まるときもあれば、1つの点を1本の直線に重ねるときのように、「自由度」が残って、折りを特定するには自由度を取り除かなければならないときもあります。

点と直線について、それぞれをそれぞれに重ねて折るとき、可能なすべての場合と、そのときに残る自由度を調べてみましょう。

場合1: 1つの点をもう1つの点に重ねて折る。自由度なし。

場合2: 1つの点をそれ自身に重ねて折る。自由度1(その点を通る折り線の角度)。

場合3: 1つの点を1本の直線に重ねて折る。自由度1(点が直線の上に載ったときの位置)。

場合4: 1本の直線をもう1本の直線に重ねて折る。自由度なし。

場合5: 1本の直線をそれ自身に重ねて折る。自由度1(図1参照)。

場合1と場合4は、それぞれ操作O2とO3です。ほかの場合はすべて、自由度が1あるので、どのような折り方になるかを決定するには、その自由度を取り除かなければなりません。

場合2: 1つの点 p_1 をそれ自身に重ねて折る。1つの点 p_1 をそれ自身に重ねて折るときにできる折り線は、 p_1 を通るものだけですが、そのような折り方は無数にあります。折り線を一意に定めるには、もう1つ、自由度1の操作と組み合わせなければなりません。それには、図2に示すように、3通りの可能性があります。

場合2a: もう1つの点 p_2 もそれ自身に重ねて折る。これは操作O1になる。

場合2b: 1本の直線 L もそれ自身に重ねて折る。この垂直な直線は操作

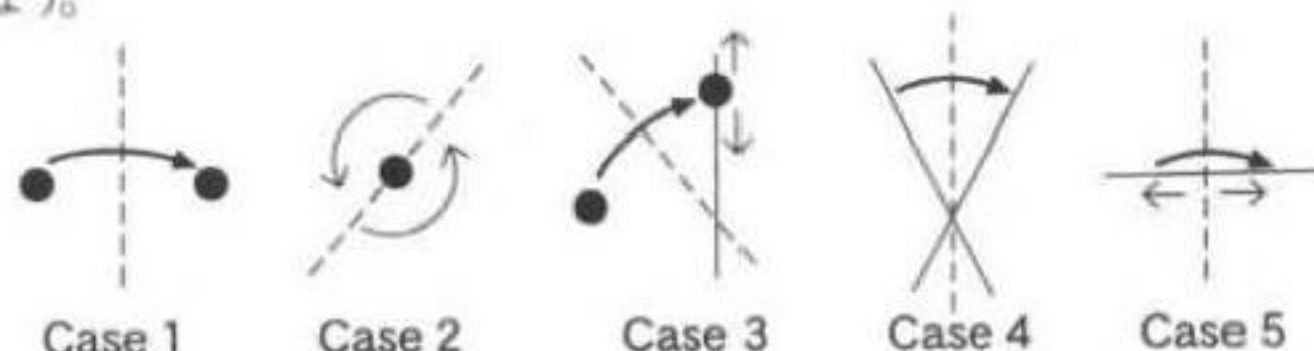


図1: 点と直線をそれぞれに重ねて折るときの5通りの場合

Figure 1: The five cases of points/lines being folded to each other.

O4になる。

場合2c: もう1つの点 p_2 を直線 L に重ねて折る。これは操作O5になる(ただし、O5の点 p_1 と p_2 の役割が入れ替わっている)。

場合3: 1つの点 p_1 を1本の直線 L_1 に重ねて折る。この場合でも、点は直線の上のどこで重なってもよいので、自由度が1あります。したがって、もう1つの自由度と組み合わせる必要があります(図3)。

場合3a: もう1つの点 p_2 をそれ自身に重ねて折る。これも操作O5になる。

場合3b: もう1本の直線 L_2 をそれ自身に重

ねて折る。これは羽鳥の操作O7になる。

場合3c: もう1つの点 p_2 をもう1本の直線 L_2 に重ねて折る。これはもっとも複雑な操作(折り紙で角の3等分などを可能にする操作)O6になる。

ここまででBOOの7つの操作をすべて網羅しましたが、これ以上の操作がないことを確認するため、最後の場合についても見てみましょう。

場合5: 1本の直線 L_2 をそれ自身に重ねて折る。1本の直線 L_2 をそれ自身に重ねて折ると、実際には L_1 に垂直な直線を折

ることになります。この折り線は L_1 とどこで交わっていてもよいので、自由度が1あります。ほかの操作と組み合わせると、図4で示すようになります。

場合5a: 点 p もそれ自身に重ねて折る。これは再び操作O4になる。

場合5b: 点 p をもう1本の直線 L_2 に重ねて折る。これは羽鳥の操作O7になる。

場合5c: もう1本の直線 L_2 もそれ自身に重ねて折る。2本の直線が交わる時は、両方に垂直な直線は存在しないから、この操作は不可能。したがって、2本の直線は平行でなければならないが、これではまだ自由度が1残っている! 折り線を一意に決めるには、もう1つの操作を組み合わせる必要があって、場合5aか5bのどちらかになる。

これですべての可能性を調べ尽くしました。操作O1からO7のすべてを網羅した一方で、新しい操作は見つかりませんでした。これで証明ができたことになります。

3 | これからの課題

折り紙の作図については、まだまだ研究しなければならないことがあります。曲線折りを加えたら何が起こるかは、全く手付かずです。また、何人かの研究者は、同時に複数の折り線で折る可能性を探求しています。やるべきことはまだまだたくさんあるのです。

References

- [1] K. Hatori, Origami construction, web page: <http://origami.ousaan.com/library/constr.html>
- [2] H. Huzita and B. Scimemi, The algebra of paper-folding (origami), *Proceedings of the First International Meeting of Origami Science and Technology*, H. Huzita ed., 1989, 215-222.
- [3] R.J. Lang, Origami and geometric construction, unpublished manuscript.

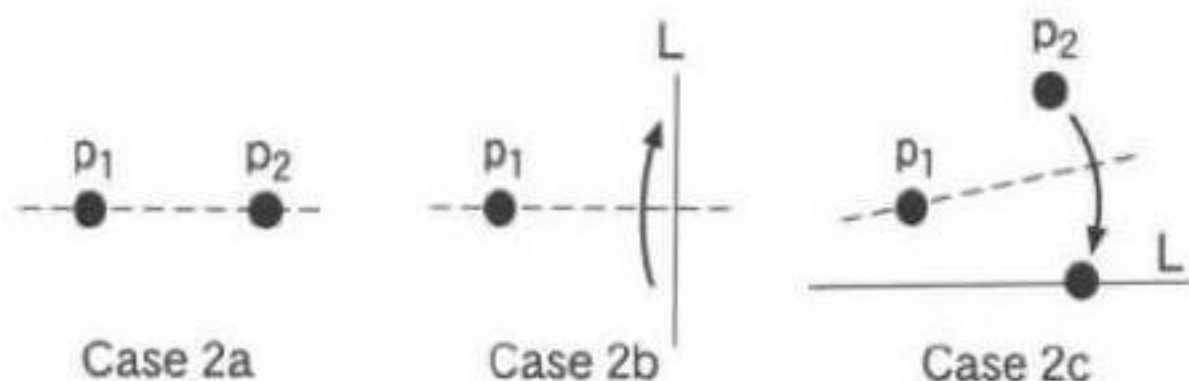


図2: 1つの点 p_1 をそれ自身に重ねて折る場合
Figure 2: The subcases of folding a point p_1 to itself.

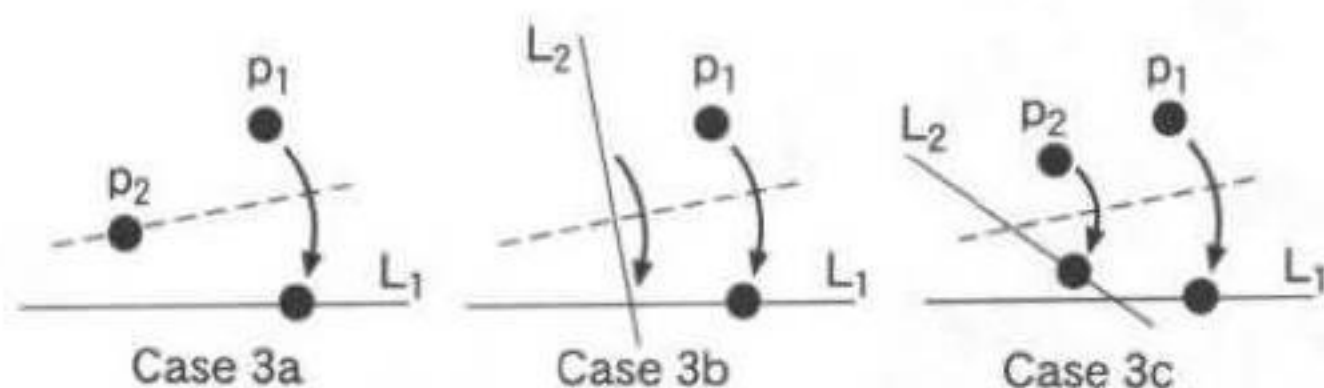


図3: 1つの点 p_1 を1本の直線 L_1 に重ねて折る場合
Figure 3: The subcases of folding a point p_1 to a line L_1 .

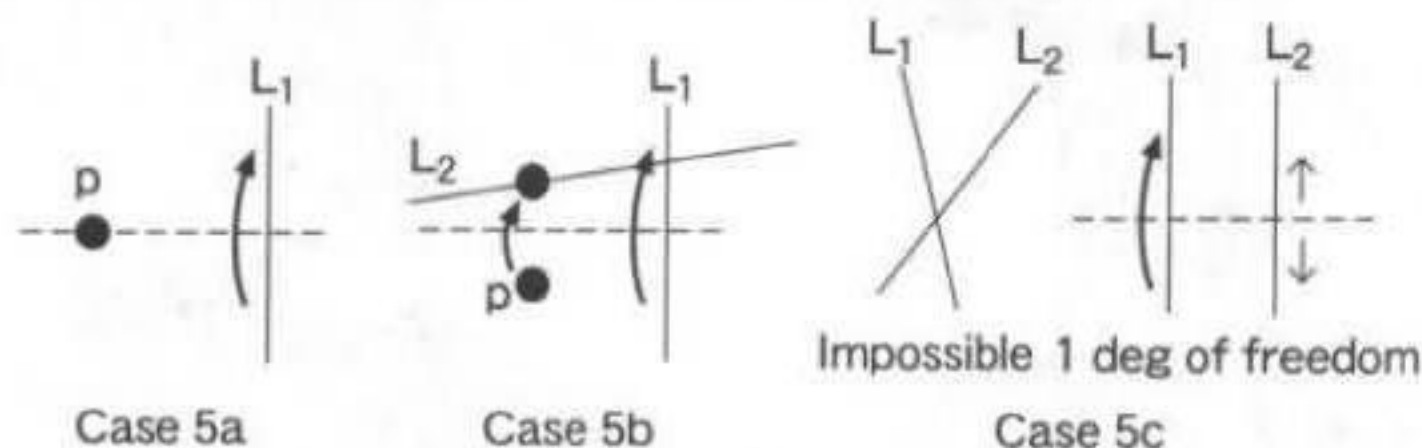


図4: 1本の直線 L_1 をそれ自身に重ねて折る場合
Figure 4: The subcases of folding a line L_1 to itself.

折り紙資料館

12

Takagi Satoshi's the Origami Reference Room

高木 智

Takagi Satoshi

鳥居派の折り鶴柄

Oridzuru (Crane) Patterns in Paintings of Torii School

鳥居派のおりがみ資料について、これまで「舟柄」についてのみ、第五回の「舟」のおりがみから2、において指摘しておいた。「折り鶴」について書く機会がなかったのは、これまで図録等では知るものの、それらの原典を入手しえなかったからである。そのことは、わたしの資料提供にもかかわらず「折るころ」においても発表されなかったことと基を一にする。しかし、これまではまことに僥倖にも恵まれてきたが、わたしの収集能力が限界に達しつつある現在、これ以上の資料を望むべくもない。しかし、おりがみの初期資料として現実に存在する以上は、本稿に一応の終止符を打つに当たって、手許に原典を所持することとは別に、知り得たもののあらましを報告しておく必要がある。

菱川師宣(ひしかわもろのぶ)の活躍の後、江戸で浮世絵の中心的存在となった鳥居清信(とりいきよのぶ)は、寛文4年(1644)生まれで、幼少の頃京都の吉田半兵衛に絵を学んだともいわれる。貞享4年(1687)父清元とともに江戸難波町に移り住み、のち歌舞伎の看板

絵や番付絵を描いた。以来芝居の看板絵や番付絵は鳥居家の専業として世襲され、清信は鳥居家初代、父清元は開祖となった(以上、北辰堂編『浮世絵人名価格事典』による)。

彼の作品では、まず、「勘太郎のお七と竹之丞の吉三郎」という大大判縦絵(享保3年=1718、小松屋刊)のお七の着物の袖や裾に、黒と茶の2色で、紅色の梅の花とからませて「折り鶴柄」が描かれている(図1)。その絵柄は、平板な胴の3角から、それぞれ2本もしくは3本の直線を1点に結んだ、2等辺三角形の羽と尾が出ており、残りの1角に折りを見せて首とすることによって折り鶴としているという、図案化されたものである。このような図は、一般の雛形本(着物の図案集)に描かれた折り鶴とは異質のものである。なお、不思議なことに、『浮世絵聚華

1』所収のボストン美術館蔵のこの絵には、鳥居清信のサインの下に清倍(きよます)の押印がある。あるいは二人の共同製作、たとえば清信のデザインに、清倍が着色したということであろうか(『古典にみる折り紙』12ページ参照)。

清信の「折り鶴」柄で最も著明なのは、かつて中西康夫氏(現小柳氏)が「東京と京都」に連載された、「千羽鶴折形・私考14」に発表されている「両巴唇言(りょうはしげん)」(図は同17に掲載)の遊女(格子)のものであろう(図2)。立ち姿を示すため、大きな鶴の部分が、見えかくれする形に描かれている。もっとも、この絵は初代清信のなくなった享保13年頃の製作とされ、初代ではなく、2代目清信の作品とのことである。2代目清信は初代の3男といわれ、作画期は父の没後から宝暦元年(1751)迄とされる。家業は姉婿の2代目清倍が継いだことから、この作品が、歌舞伎の看板にかかわる一枚刷りではなく、遊廓の案内書の挿し絵であった理由が想像されておもしろい。

なお、後に十返舎一九がこの図を「倡売往来」に転写した時には「清経画」と記している。



図1「勘太郎のお七と竹之丞の吉三郎」(部分)



図2「両巴唇言」より「格子」



図3「野郎帽子」より(部分)

○高木 智(たかぎ・さとし)=昭和10年6月10日
京都市生まれ。京都大学教育学部卒。昭和42年頃
荒木京子に師事、折り紙を始める。現在日本折紙協
会理事。著書に『古典にみる折り紙』他実用書多数。



ところで、清信には更に古い作品があった。元禄15年(1702)頃刊とみられる「野郎帽子(やろうぼうし)」「(仮)」という墨刷の春画組物で、その1枚の、介添えをする若衆の着物の柄が、なんと「お七」の着物と同じ折り鶴柄なのである(図3)。もし、この絵の成立年代が正しいとすれば、元禄時代にすでに江戸にも折り鶴は伝えられていたということが可能になる。役者の着物(たとえば「お七」の着物)なら、上方から取り寄せて着ているところを写したとも考えられるが、春画を描くにあたって、モデルを使って、その着物の柄まで写したとも思えないからである。言い換えれば、この絵こそ、鳥居派の折り鶴の原点である。そして、「お七」の着物の柄も、清信の創作ということになる。

考えてみれば、彼は、井原西鶴が『好色一代男』に「折居」を扱ったところ京都にいたわけで、早くから折り鶴の存在を知っていた可能性がある。『好色一代男』の刊行から20年後の事であり、元禄12.3年頃から雛形本に折り鶴柄が描か

れる様になったのと呼応して、したがって折り鶴図の初出からわずかに両三年にして、清信も着物の柄に描いてみたわけであろう。

鳥居派の2代目は、清信の女婿、2代目清倍である。初代清倍は清信の長男であったが夭逝し、享保9年、清信の長女と結婚して2代目清倍を襲名した。先述の「お七」の図に彼の印があるように、清信を師とし父として傍に仕え、看板を書き、また浮世絵を描いた。彼の享保頃に描いた中判横絵丹絵の「七夕遊びに興じる遊女と若衆」の若衆の着物の柄にも、同じ折り鶴柄を描いている(図4)。

2代目清倍には、折り鶴柄の着物の絵がもう一点確認されている。それは細判紅絵3枚続きの「三都美人三幅対(さんとびじんさんぶくつい)」の「右」(江戸)の絵で、もとはま町伊賀屋から刊行された(図5)。刊行時期は、やはり享保の頃となっている。『両巴唇言』の絵と同様、立ち姿の内着に4羽ほどの首や部分が描かれているものである。思えば、いずれも遊廓の宣伝物であり、ともに江戸の

遊女を描いているので、いずれが先か即断できないが、その相互関連は深いとみることもできよう。

鳥居派3代目の清満(きよみつ)には、現在迄折り鶴の図を確認できていないが、4代目の清長となると、俄然その作品の数が増す。①「東風俗略十種香(あずまふうぞくやつしじしゅこう)」②「四条河原夕涼躰(しじょうかわらゆうすずみのてい)」③「新吉原江戸町二町目丁字屋之図」(「折るころ」19ページ参照)④「雪月花美通の色取(せつげつかみつのいろどり)花」⑤「当世遊里美人合・又江涼(とうせいゆうりびじんあわせなかすのすすみ)」⑥「初夢」⑦「風俗東之錦」といった具合である。このうち①②⑥⑦は着物の柄になっているが、③は縁起棚(神棚)の千羽鶴、④は折り鶴紋、⑤は暖簾に折り鶴柄というように、変化させて扱われている。特に③などは連鶴の製作年代をぐっと引き上げたものである。今回は、近代彫りを家蔵するので、「四条河原夕涼躰」をカラーでお目にかける(図6、20ページ)。



図4「七夕遊びに興じる遊女と若衆」(部分)



図5「三都美人三幅対」(部分)



図6
「四条河原夕涼躰」
(部分)

折紙散歩は健在なり

Origami Sampo is Alive and Well

遠き島より

エンジンを震わせた連絡船の小さな船体は、サザエ島、庖丁島、竹ノ子島、多々良島など、名前だけからも旅情を誘う島々の間を縫うようにして、青い海に白い航跡を残しながら進み、目指す久賀島(ヒサカジマ)の田ノ浦港に到着した。古文文献にもその名を残す港のたたずまいは、往時を思わせるもので、水は美しく澄み、桟橋からは青い金属光沢の小さな魚の泳ぐ様が見て取れた。

と、孤島を舞台にしたミステリーの冒頭みたいだが、2005年2月某日、わたしは長崎県五島列島の久賀島にいた。島に渡ったのはほかでもない。『折紙探偵団』74号(2002年7月)でも紹介したように、折紙という地名があるから、という一点による。

「孤島を舞台にした」など書いたが、久賀島は絶海の孤島などではない。約4万人の人口がある福江島から指呼の距離にあり、大きさも東京の杉並区とほぼ同じである。平坦な土地は少ないが、水に困らないため、見事な棚田もあり稲作も盛んだ。ただ、最盛期には4000人あったという人口は、昭和30年代以降に急速に過疎が進み、現在は600人足らずになってしまっている。時の流れということを感じさせるが、このことはまた強く、島に刻まれた歴史をも考えさせる。そう、久賀島は

歴史と伝説の島でもある。港、森、集落のそこかしこに、遣唐使船やキリシタンの歴史、一夜にして沈んだ島からの移住伝説など、様々な物語が秘められている。そして、その伝説のひとつが「折紙」なのである。

流れ寄る

島への訪問は、特産である椿を目玉にした「つばき祭り」というイベントに合わせた。事前に連絡したところ、急速、椿の折紙の講習会もすることにもなった。折紙神社(その名の神社がある)を村社とする島で折紙の講習会をするというのは、またとない経験だった。

いま、村社という言葉を使った。これは、国家神道による神社の系列化に関係する用語だが、つまりは、村落の中心となる神社ということである。折紙神社は、まさにそのような神社なのだ。創立年代も古く、社名は少なくとも1600年代から記録に残っている。なお、島にある折紙集落、折紙鼻、折紙神社は、どれもオリガミではなく、オリカミと発音する。「折紙つき」の語源として有名な、文書の形式である「折紙」の発音もまた、古くは清音のオリカミだ。興味深い符合である。そして、以前も紹介したように、折紙神社には、次のような、紙を折ることに関係する縁起がある。

第6回

折紙に逢える島

The Island to Meet Origami

I visited Hisaka Island in Nagasaki prefecture. In this island, there are Orikami colony, Orikami Bana(cape), and Orikami Shrine that have been there at least for 400 years. A legend tells that the names of shrine and cape were after paper folding in Shinto ceremonies. Moreover, in Ikitsuki Island in the same area are cross-shaped origamish talismans handed down from crypto-Christians ("Kakure Kirisitan" in Japanese : camouflaged Christians under the oppress by the Tokugawa Shogunate).

久賀島・折紙展望台にて。



前川 淳(まえかわ・じゅん)＝東京生まれ。折紙紙創作・研究家。折鶴モノコレクター。「一足めのわらじ」は科学技術計算。阪神タイガースの熱狂的なファン。

かつて、神社の宮司が近隣の寺の住職との間に刃傷騒ぎを起こし、ご神体を持って出奔した。宮司は、岬で紙を折って祭祀し、海に身を投じた。以来、その岬を折紙鼻と称するようになり、神社を折紙神社と呼ぶようになった。

地名伝説・社名伝説にはこじつけも多い。が、じっさいに折紙に関係している可能性はある。要点は、時代を遡っても、神社と岬が離れていること、および、「慶長元年、再び伊勢の国より神札を勧請した」という文献があることだ。岬と神社が離れていることは、神社の名前が土地の名からついたものではないことと、岬そのものがご神体ではないことを示唆する。一方、「再び神札を勧請した」という記述は、神社が一時期神札を紛失したと解される。よって、たとえば、以下のような話が考えられる。

宮司とともに消えた当時のご神体は、それ自体がそもそも紙の札であった。村人の搜索により、札そのものかどうかは明らかではないが、それらしき紙が岬で見つかった。村人は当座のご神体としてそれを祀った。以来、岬を折紙鼻、神社を折紙神社と呼ぶようになった。

なお、慶長元年は、年代的には、西北九州におけるキリスト教の布教と、それに続く禁教弾圧の時期に重なる。その意味では、伝説がある種の宗教間のトラブルを語っているのは興味深い。そこに、まったく別の物語が隠されているという想像もしたくなる。

以前、折り畳んだ紙の折り目に十字架が隠されているという話を書いたことがある。トンデモ説と確信してのことだった。ただ、興味深い事実はなくもない。五島列

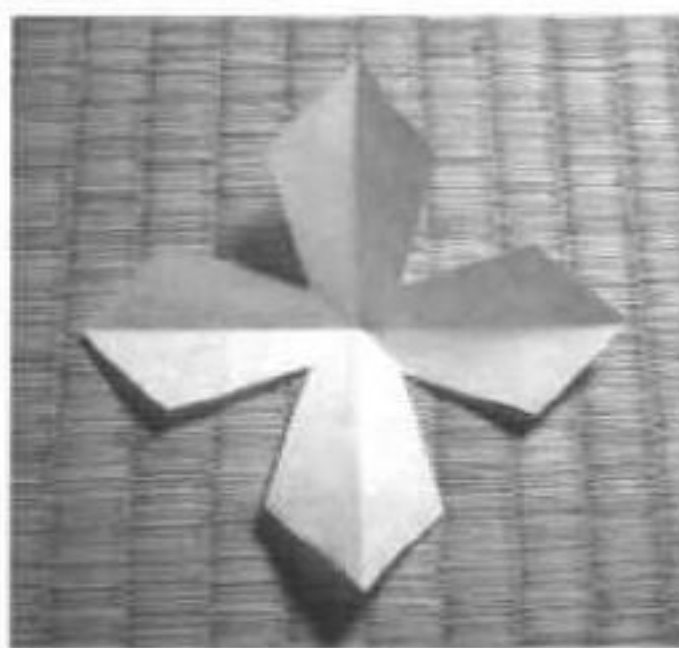


久賀島の案内地図に記述された折紙
A land name Orikami on the information map of Hisaka Island



久賀島の折紙神社／参道に正方形が並んでいる。
Orikami Shrine in Hisaka Island / Square flagstones are lined on the approach.

島北端から東北25kmに位置する生月島に、紙を折って切ることでつくるオマブリと称する隠れキリシタンの十字の護符があるということだ。十字を切り出そうとすれば、似たような技法になるだろうから、それを折紙や折形と結びつけるのは短絡的な考えで、じっさいに関係があるとは、わたしも思っていないのではあるが...



生月島のオマブリ(カクレキリシタンの護符)のレプリカ
"Omaburi" (talisman of crypto Christians) of Ikitsuki Island

なお、別の意味では、「折紙」とキリシタンは無関係ではない。18世紀から19世紀、まだ禁教下ではあるが、比較的キリシタンに寛容な五島の島々に移住したキリシタンによって拓かれた集落のひとつが、ほかならぬ折紙集落らしいのである。その名は、既にあった折紙鼻に因んでつけられたものと考えられる。

島という地理的条件を思えば、オリカミの語源の別の可能性として、「寄神」(ヨリガミ、ヨリカミ)も考えられる。寄神とは、海辺の民俗として知られる、漂着物としてやってくる神のことだ。流木(寄木:ヨリキ)や弱った鯨(寄鯨:ヨリクジラ)のほか、水難者も含まれる。上記の伝説は、それをほかに表現したものなのかもしれ



ない。つまり、岬で見つかったのは「折った紙」ではなく、聖職者の遺体であり、それを祀ったということである。

いずれにせよ400年以上前のことで、真相を確かめる術はほとんどない。今日、キリスト教と仏教と神道が仲良く共存する島で、折り紙を愛する者が、能天気な折り紙の神社として祈念することの幸福を思い、伝説に思いを馳せるばかりである。

椿の実ひとつ

以上の話も充分穿ったものだが、さらにマニアックな事実もある。

事実その1。折紙神社の参道の敷石は対角線に並んだ正方形である。折紙者の琴線に触れるかたちだ。もっとも、同島の他の小さい神社のものもそうだったが。

事実その2。実測の結果、現在の折紙神社の拝殿から本殿の方向が、やや東よりの東北を向いていることがわかったのだが、これは、驚くべきことに、折紙鼻の方向ではなく、青森県の折紙山の方角にほとんどぴたりと一致していた。紙幅がないので紹介できないが、東北と西北九州の奇妙なつながりはけっこう多い。偶然を楽しむという心境で調べたのだが、逆に戸惑ってしまうような話が続々とあった。

島での折り紙教室や交流のことを書く紙幅もなくなってしまった。椿の折り紙の講習会は好評で、お世話になった公民館のかたが、「島で流行らせます」と言ってくれた。わたしの訪問が小さな実になって小さな花を咲かせてくれれば、これに勝る喜びはない。もしかしたら、それは、久賀島のもうひとつの折紙伝説の種になるかもしれない。

■ 気候が不安定な今日この頃、一気に暖くなるのも多分もうすぐです。まさにこの季節にぴったりの、生命感にあふれて「動き出す」というイメージの作品群をお楽しみください。



「鼎／6枚組み（黄色）、12枚組み（ブルー）、30枚組み（ピンク）」

作：川村みゆき (P.4)

Tripod (6 sheets (yellow), 12 sheets (blue), 30 sheets (pink))

Kawamura Miyuki (P.4)

遊星から飛来した未確認植物種子？ はち切れんばかり、というよりは、なにか大事なものをゆったりと包んで守る殻のようなイメージでしょうか。どこから見てもとげとげしているはずなのに、なぜかほのぼのとした印象があります。

「四条河原夕涼躰（しじょうがわらゆうすずみのてい）」大判錦絵3枚続き
鳥居清長・画 高木 智・蔵 (P.16)

Shijo-Gawara Yu-Suzumi-no Tei (Cooling off at Shijo-Gawara),
A Series of Three Nishikie Paintings by Torii Kiyonaga
(from Takagi Satoshi Archives) (P.16)

以下、高木氏による解説です。

清長は、大判錦絵に、3美女を1枚にまとめて描く構図法を編み出した。それを3枚続きで描くと、人物の様々な動きが表現できて、変化に富んだ図柄となる。左の図の中央の女の着物の裾に10羽ほどの折り鶴柄が見える。天明4年(1784)刊。本図は画文堂より入手の近代彫り。



「おしゃべりくんブラザーズ」

作：やまぐち真 (P.8)

Gossiping Brothers :
Yamaguchi Makoto (P.8)

簡単そうな作品と侮るなかれ。口を閉じるとカスタンネットのように鳴り、力を抜くとパッと開く絶妙なスプリング具合。一度遊んだら、きっとやみつきになります。騙されたと思って、というのも作者に失礼な話ですが(笑)、ぜひ実際に折って体験してほしい!



※写真は「おりがみパペットを100倍楽しむ本」(山口真・著/いかだ社刊)より抜粋。
体の作り方やバリエーションの説明はこの本に掲載されています。

顔だけ作るとカエルになる



髪型はいろいろ工夫できるのでためしてみよう!



体つきの「おしゃべりくん」を
後ろから見たところ。
体は顔と同じ35cm。
切り込みを入れて作ってあります。

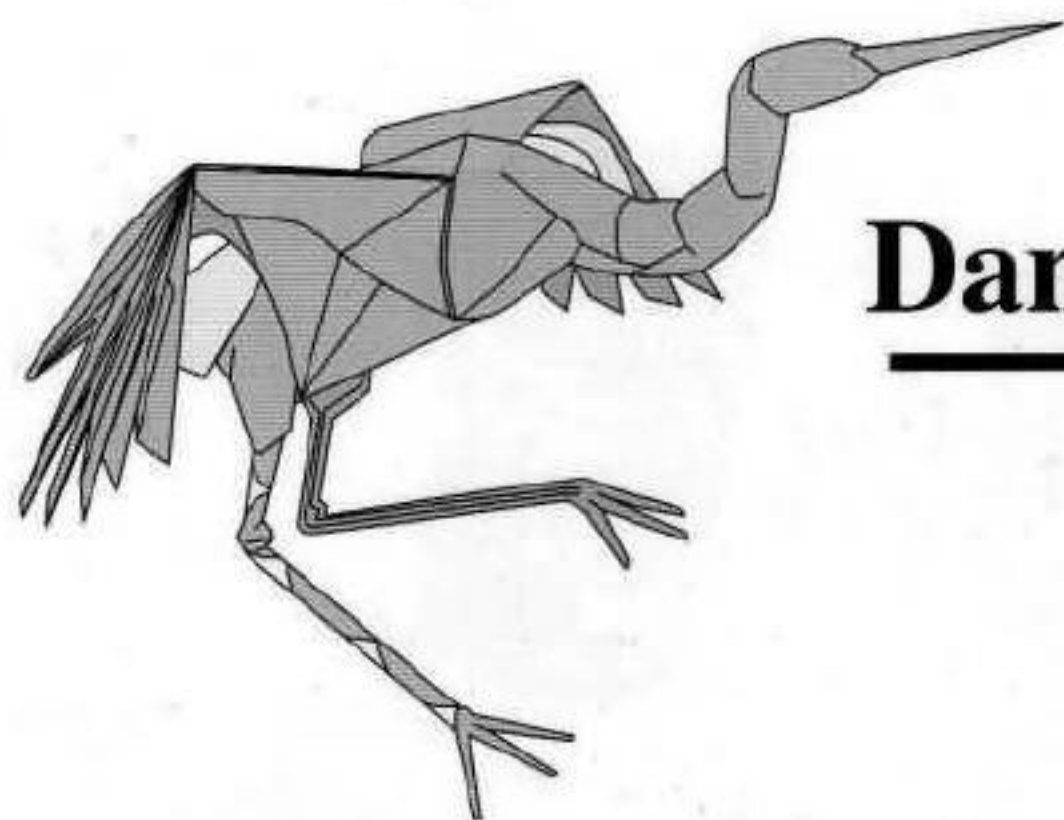
「Op.460 鶴の求愛」

作：ロバート・J・ラング (P.22)

Dancing Crane, Opus 460 :
Robert J. Lang (P.22)

ラング氏の折り技術力が遺憾なく発揮された作例。鶴特有のスリムな体型にまず驚きますが、全身の複雑なポーズ付けも非常に魅力的。この迫力の再現を目指して、ぜひ薄い大きな紙を使って、ひとつひとつの工程を丁寧に進めてみてください。



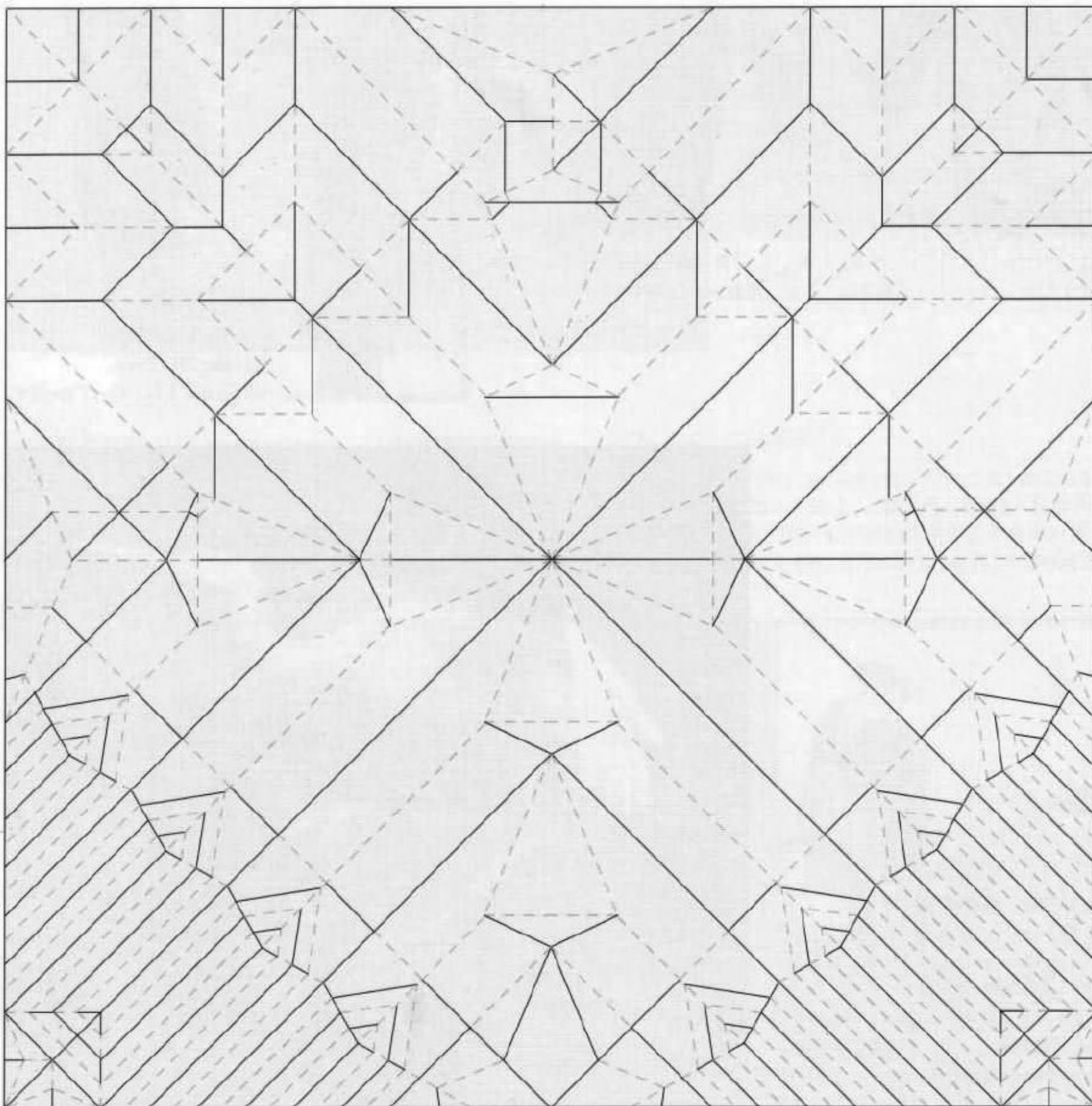


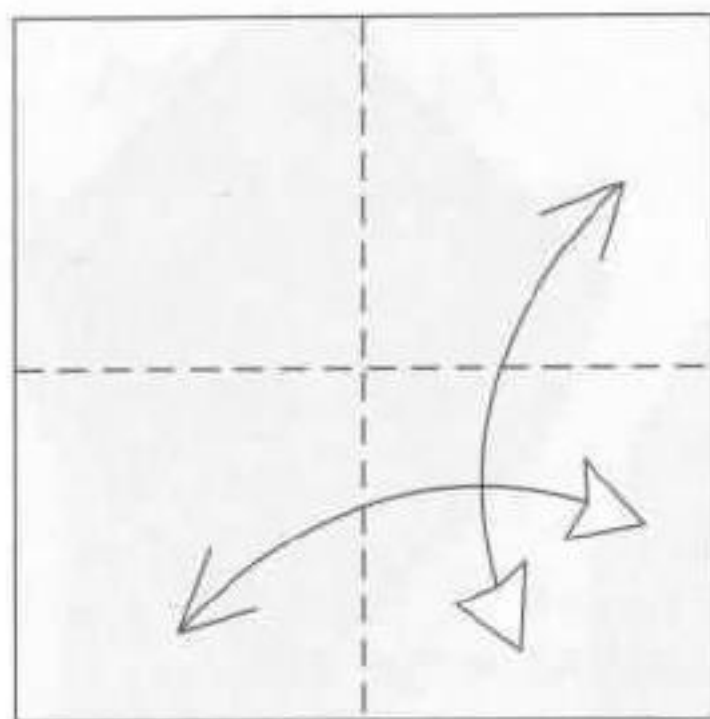
Dancing Crane, Opus 460

「Op. 460 鶴の求愛」

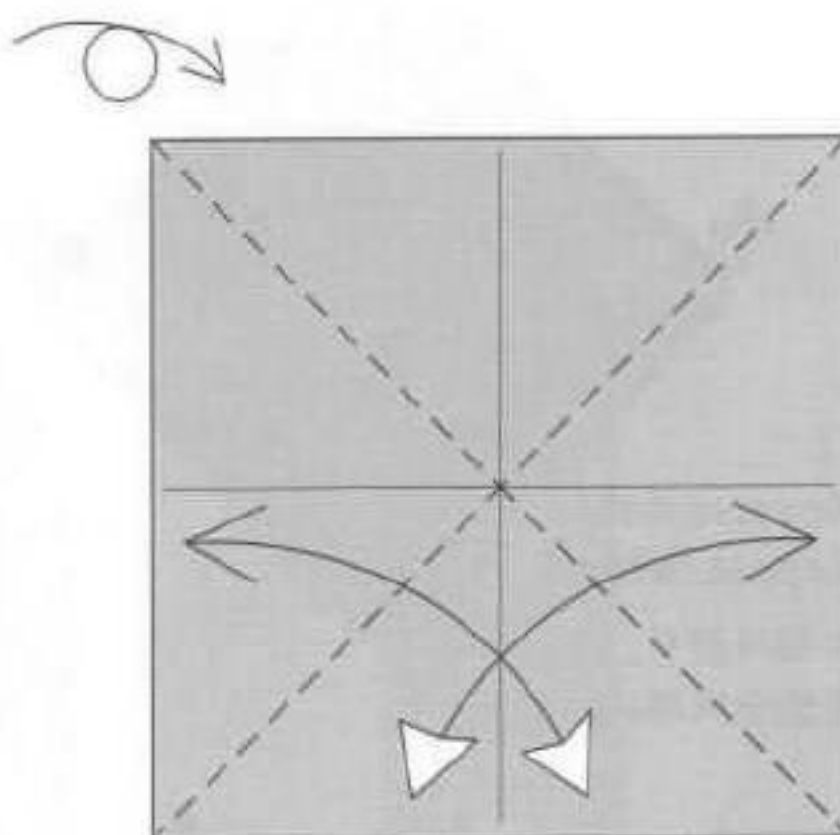
Designed by Robert J. Lang

Copyright ©2005. All Rights Reserved.

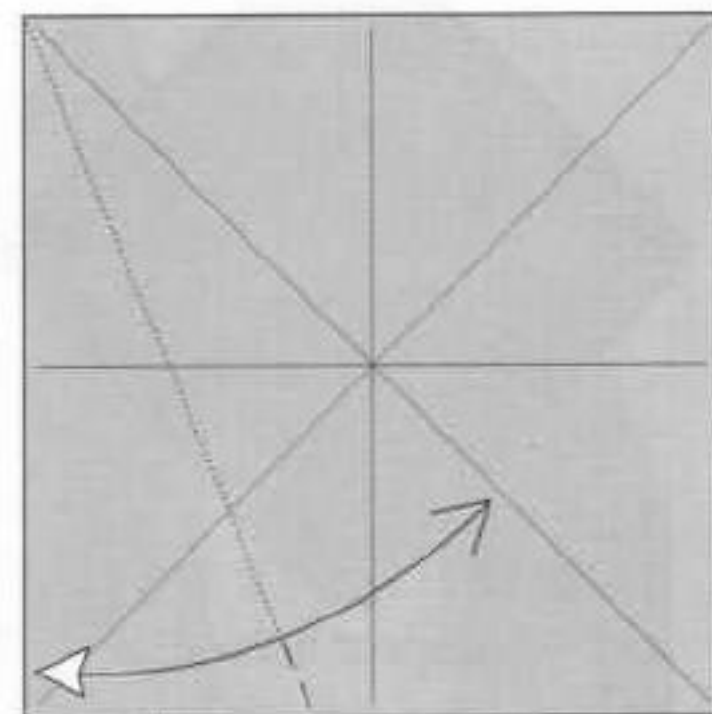




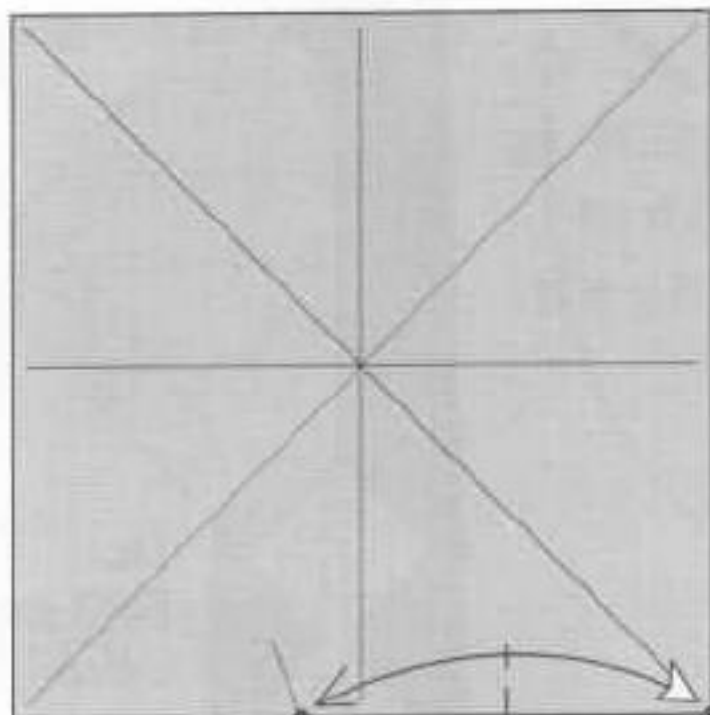
1. Begin with a square, white side up. Fold and unfold in half vertically and horizontally. Then turn the paper over.
 正方形を白い面を上。たて横半分に折り筋をつける。裏返す。



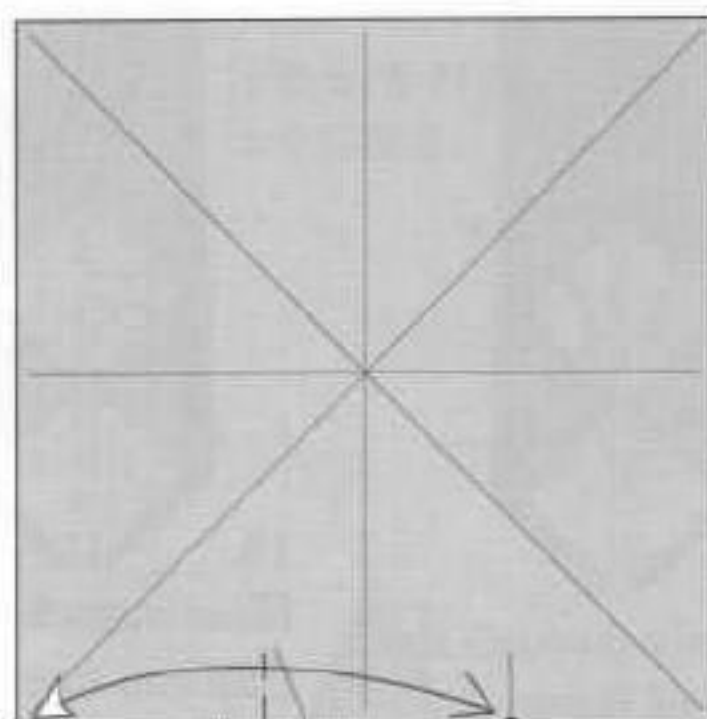
2. Fold and unfold along both diagonals.
 対角線にそれぞれ折り筋をつける。



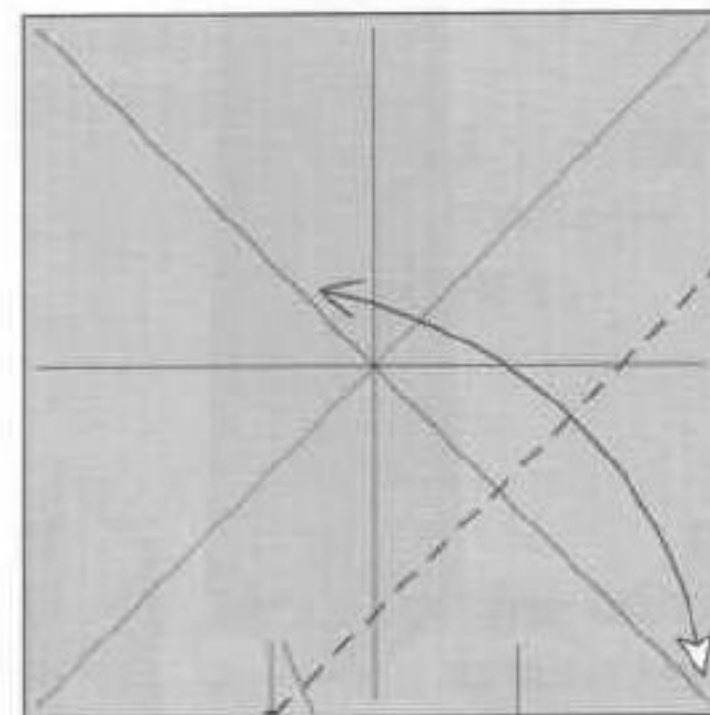
3. Fold and unfold along an angle bisector.
 対角線とカドを合わせて縁に印をつける。



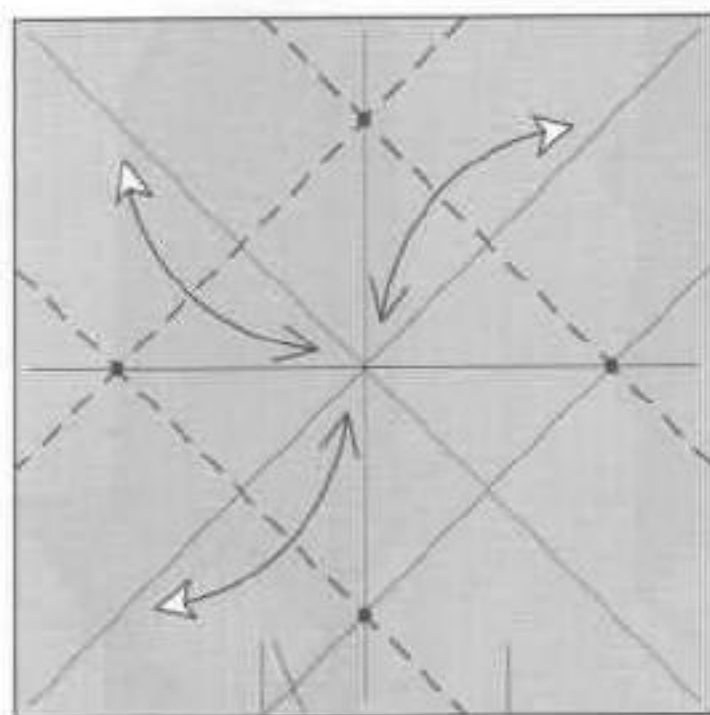
4. Fold and unfold.
 印にカドを合わせて縁に印をつける。



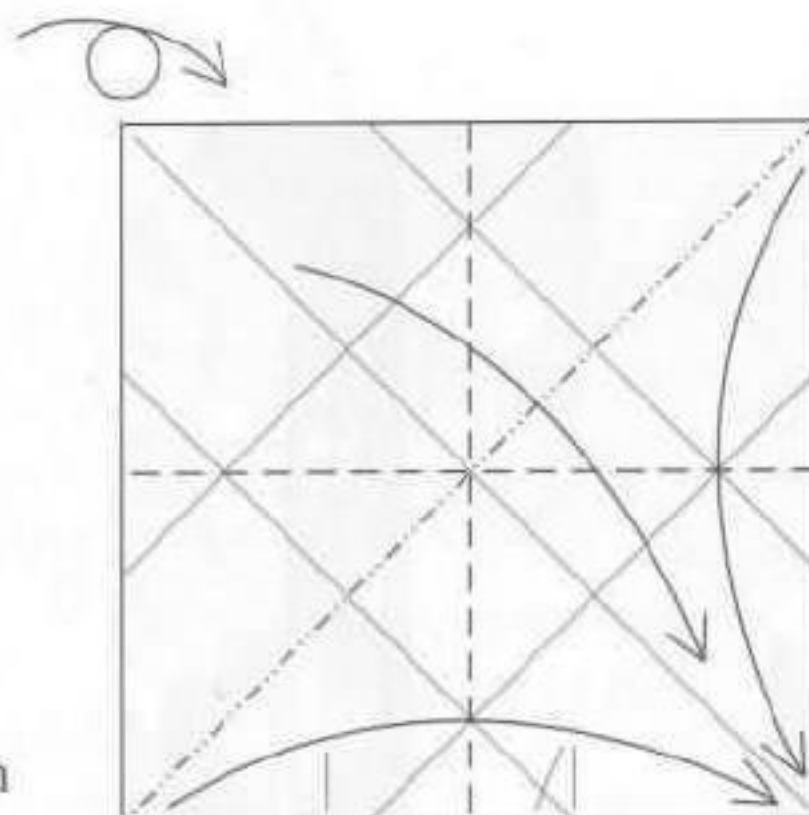
5. Fold and unfold.
 印にカドを合わせて縁に印をつける。



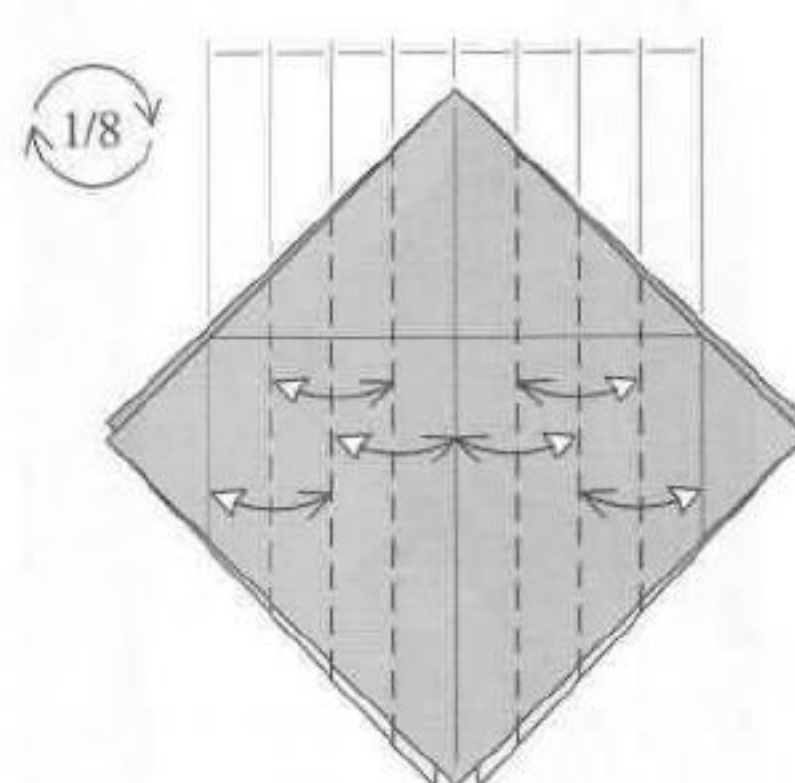
6. Fold and unfold.
 印のところからカドを対角線上に折り、折り筋をつける。



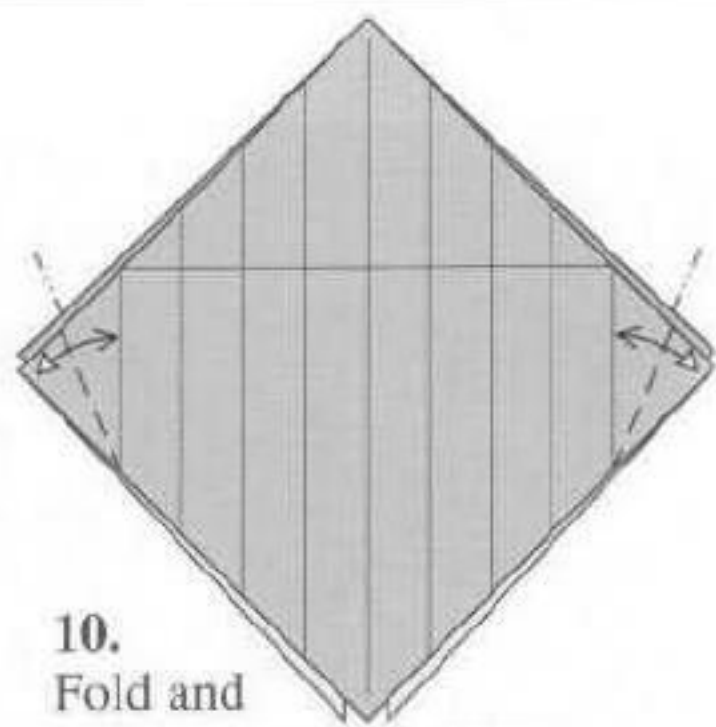
7. Add three more creases through the indicated intersections. Turn the paper over.
 6の折り筋と中心線の交点からはじめて、図のようにカドを折り折り筋をつける。裏返す。



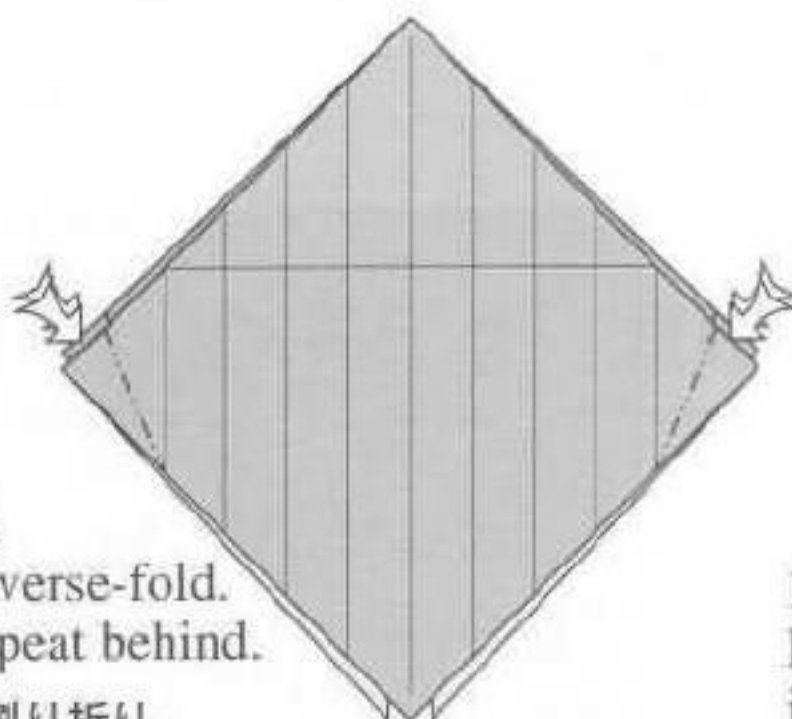
8. Form a Preliminary Fold. Rotate 1/8 turn.
 正方基本形を折る。中心のカドを上にする。



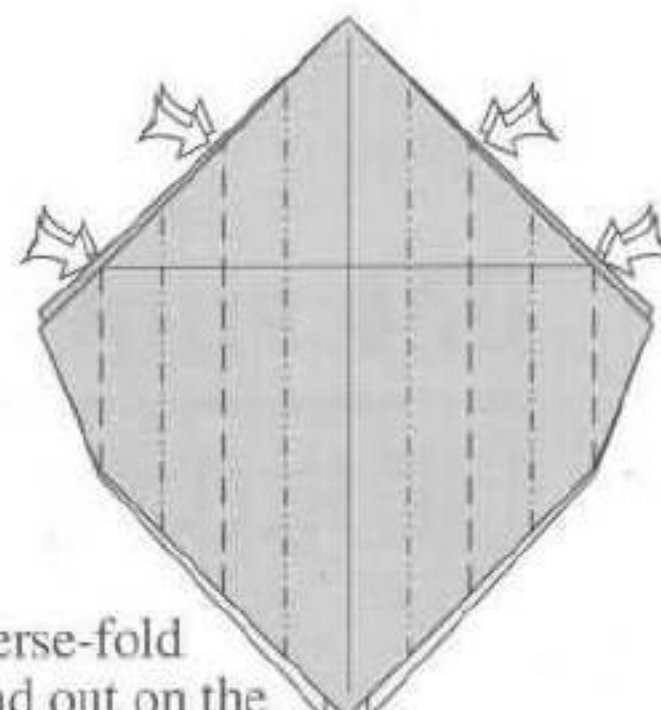
9. Divide into fourths with vertical creases. Repeat behind.
 折り筋から対角線の幅を四等分する折り筋をつける。裏側も同様に。



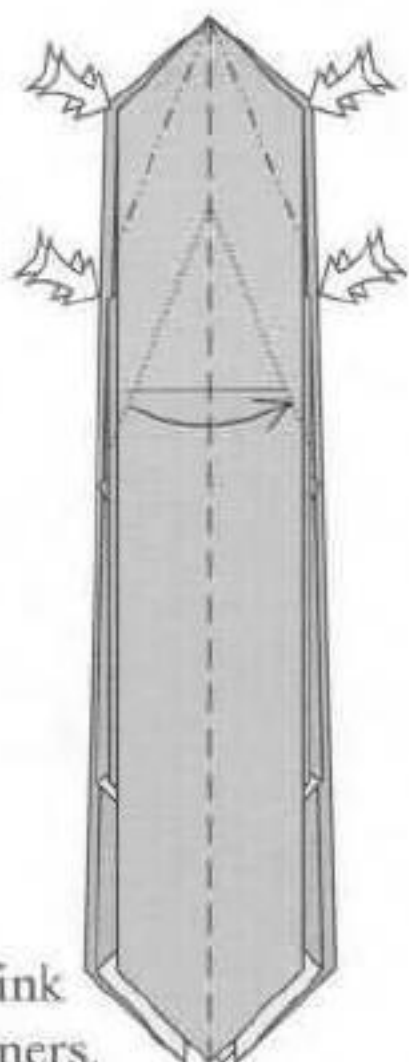
10. Fold and unfold. Repeat behind.
縁を折り筋に合わせて折り筋をつける。裏側も同様に。



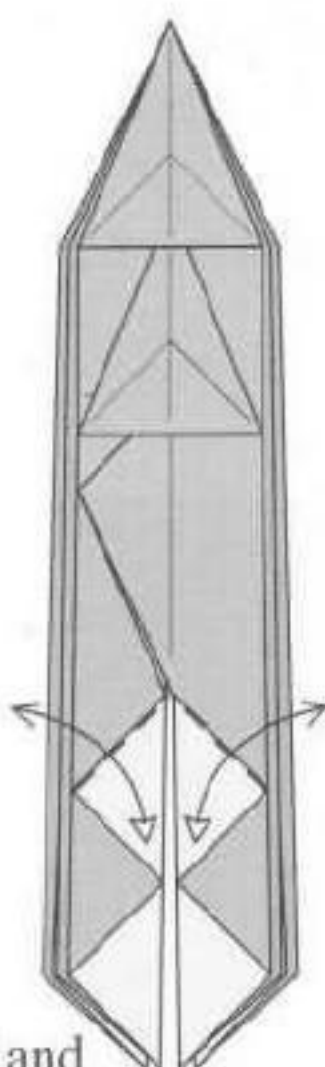
11. Reverse-fold. Repeat behind.
中割り折り。裏側も同様に。



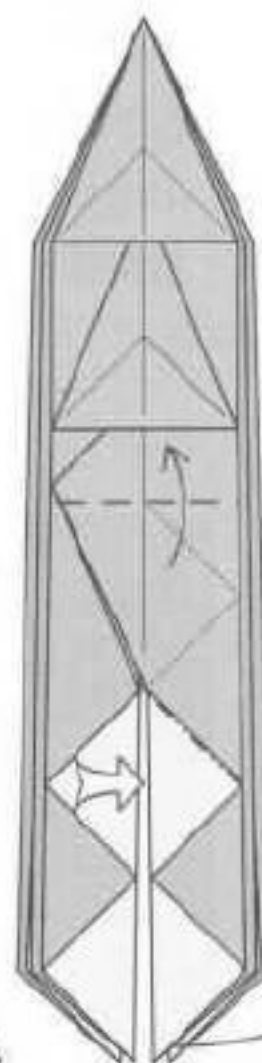
12. Reverse-fold in and out on the existing creases. Repeat behind.
ついている折り筋を使って沈め段折り。裏側も同様に。



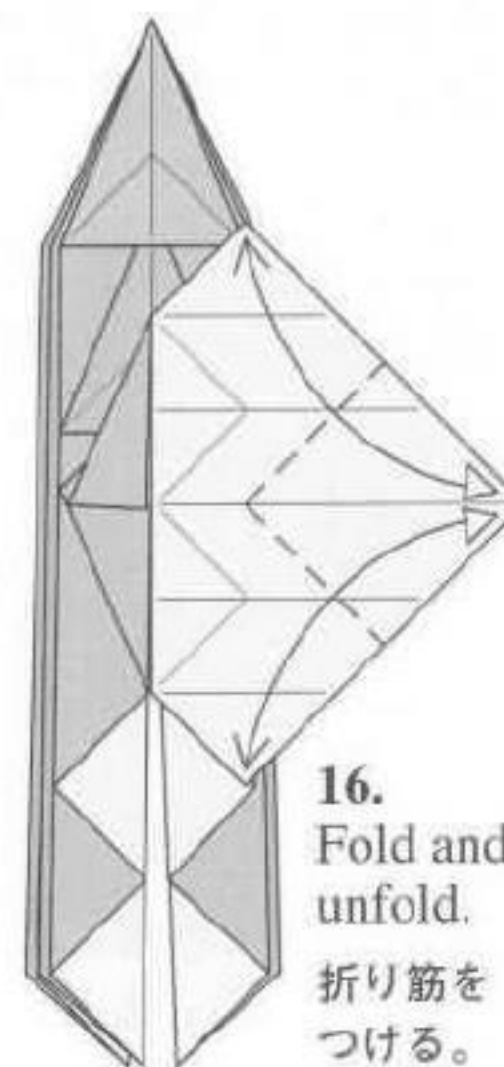
13. Spread-sink eight corners.
カドをつぶすように1枚めくる。すべてのカド(八箇所)をつぶすまで繰り返す。



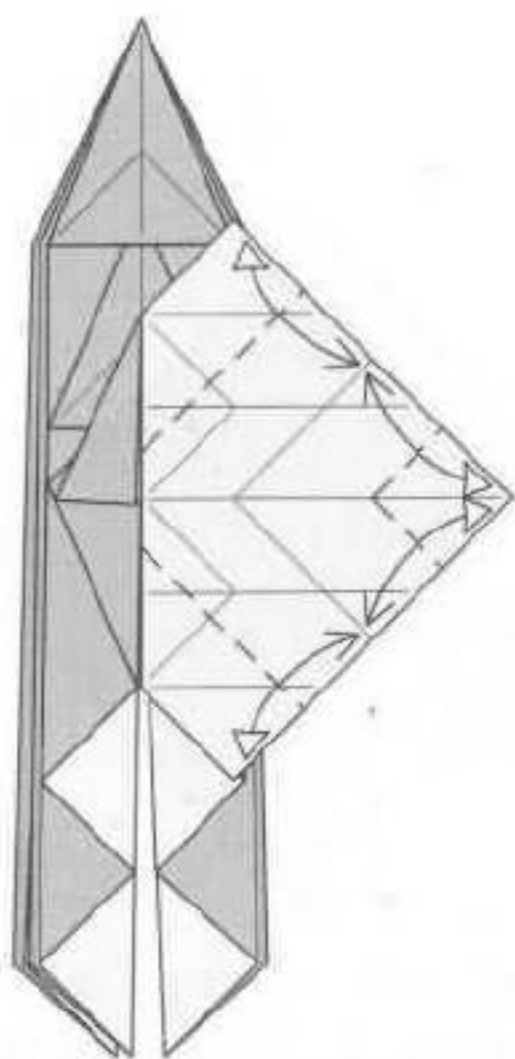
14. Fold and unfold only through the near pair of flaps.
手前のまとまりのみに縁に合わせて折り筋をつける。



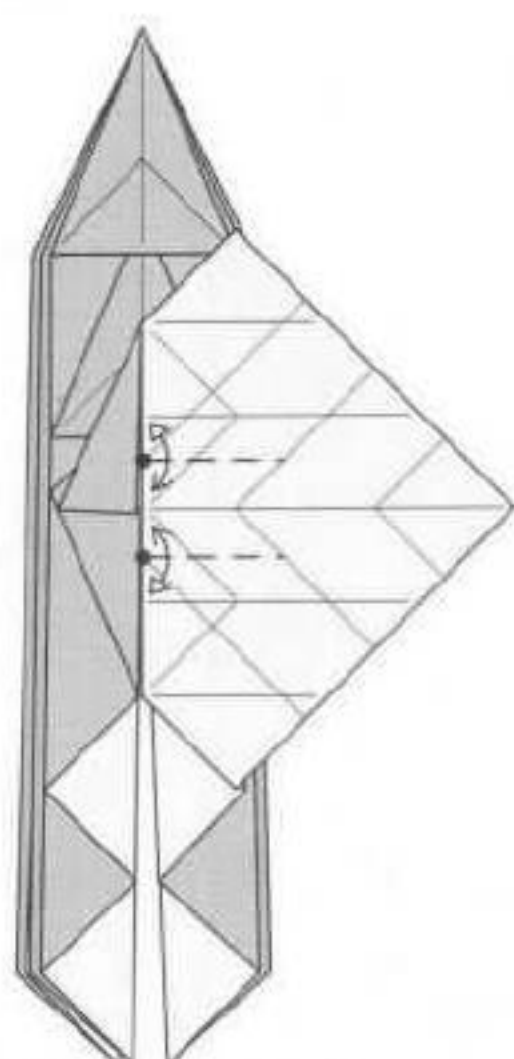
15. Elias-stretch the flap and open it out.
カドを上へ折りながら開く。このとき内側の紙を蛇腹状に広げてつぶすように折る。



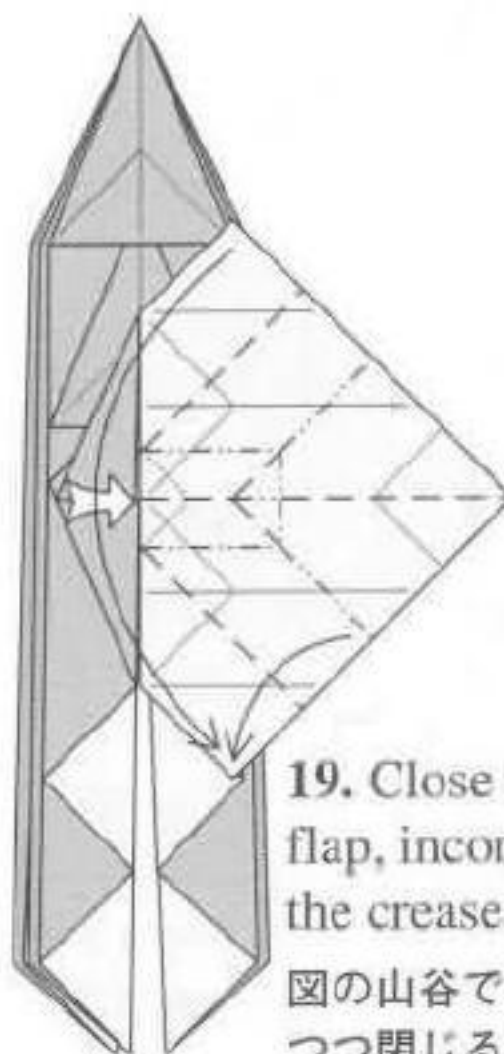
16. Fold and unfold. 折り筋をつける。



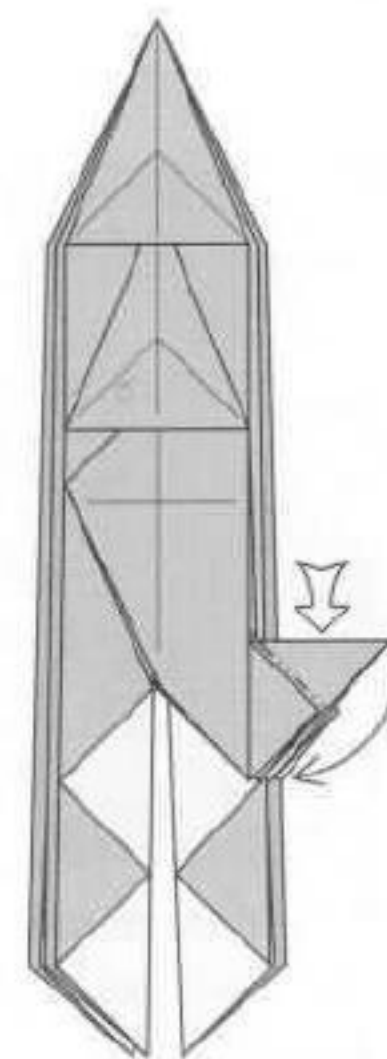
17. Fold and unfold.
16の折り筋に合わせて折り筋をつける。



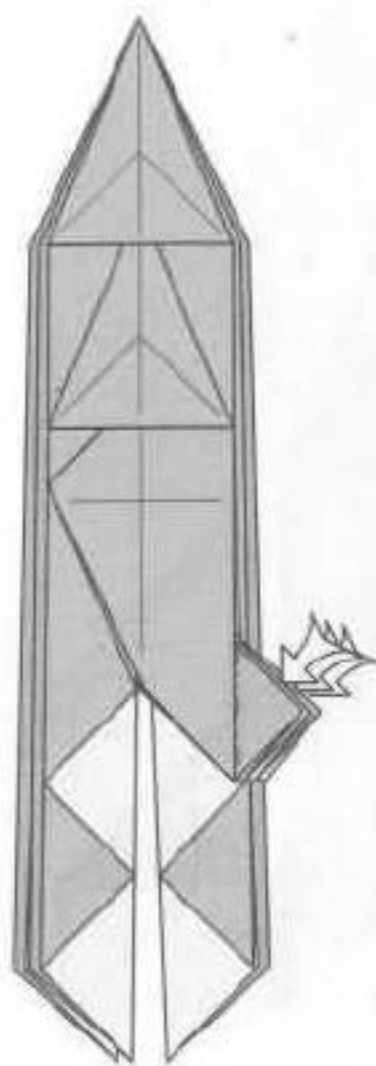
18. Fold and unfold.
印のところから折り筋をつける。



19. Close up the flap, incorporating the creases shown.
図の山谷でまとめつつ閉じる。



20. Reverse-fold the corner.
中割り折り。

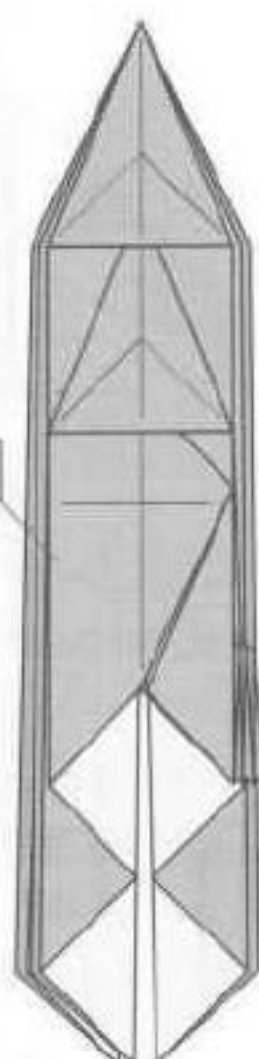


21. Reverse-fold three corners.
四箇所中割り折り。

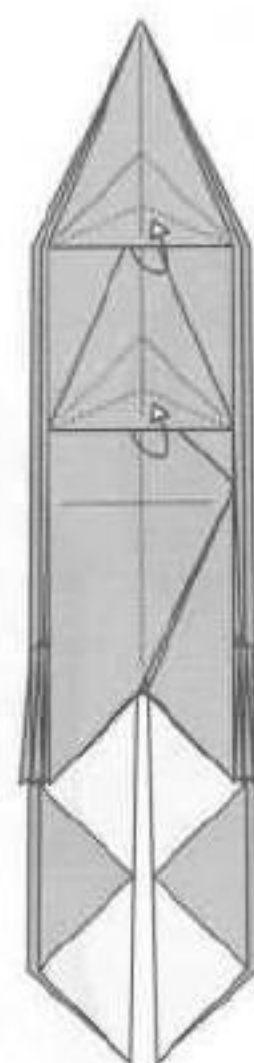


22. Fold one flap to the right.
1枚めくる。

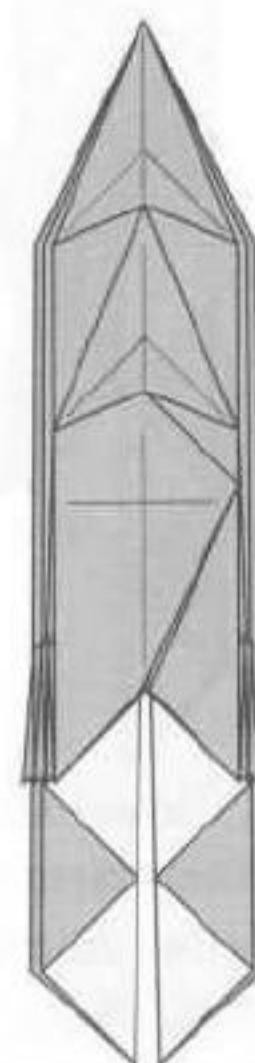
15-21



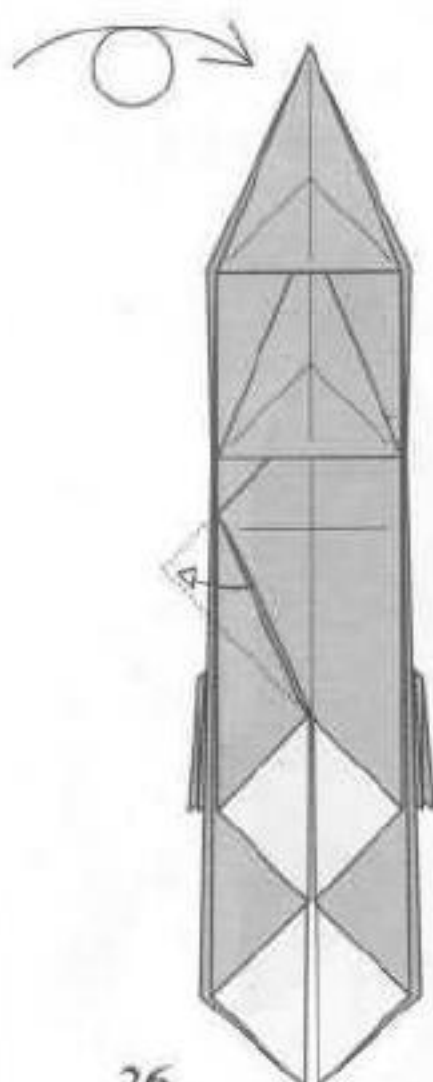
23. Repeat on the left.
左側も15-21のように折る。



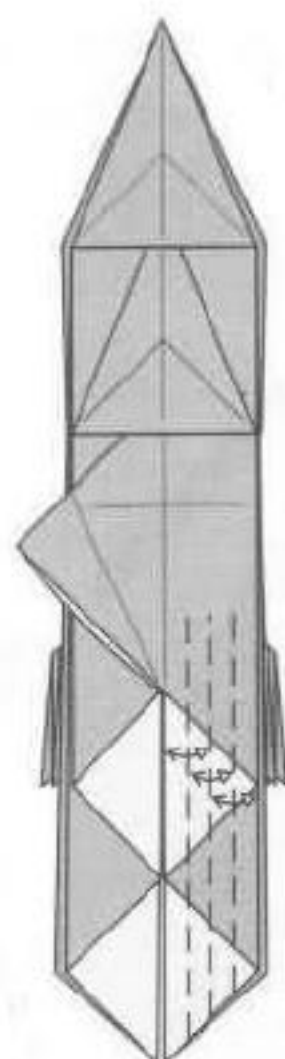
24. Bring two corners to the front.
隠れているカドを引き出し平にする。



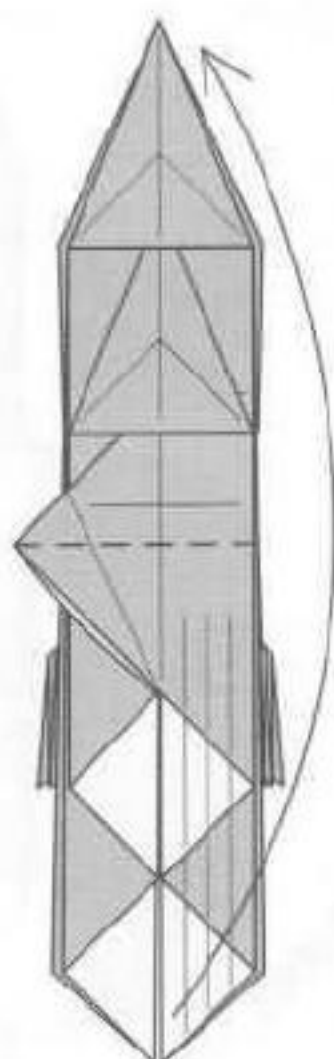
25. Turn the model over.
裏返す。



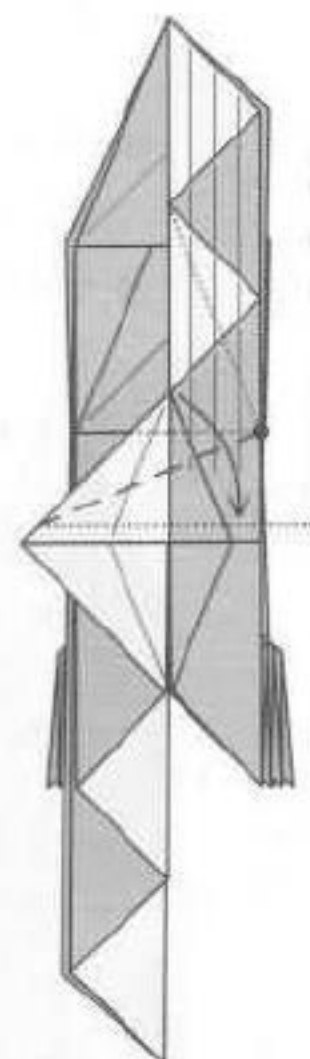
26. Unfold a layer.
紙を引き出す。



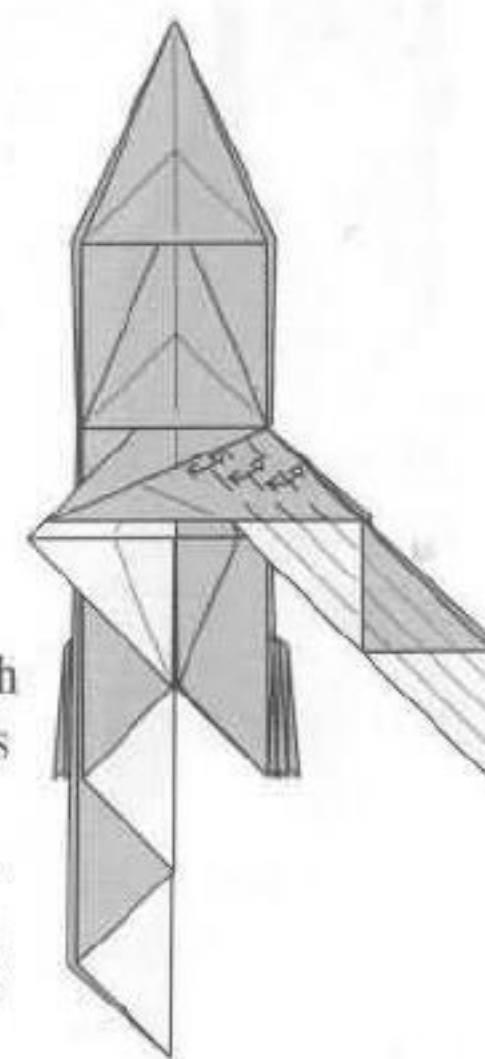
27. Fold and unfold through all layers of the near flap.
四等分する折り筋をつける。



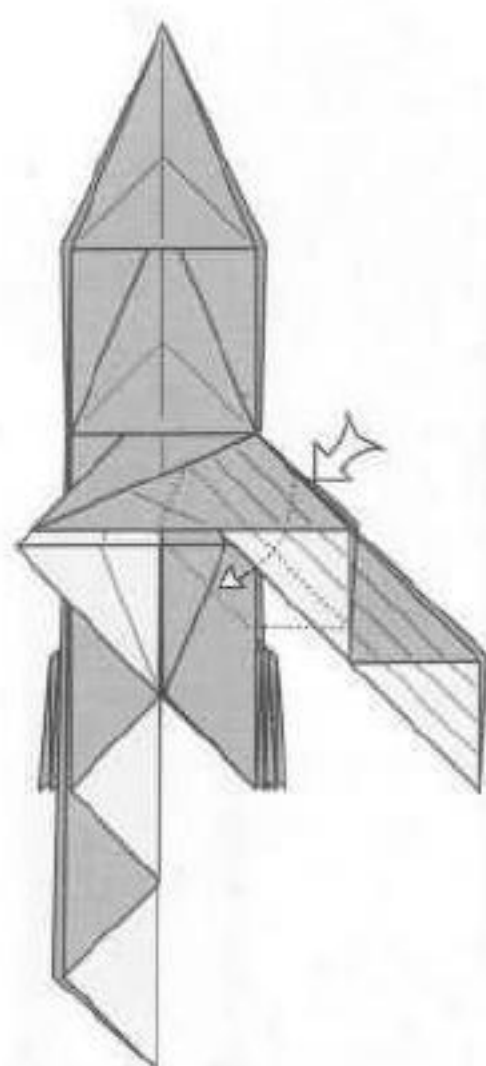
28. Fold the flap to the top of the model.
カドを上へ折る。



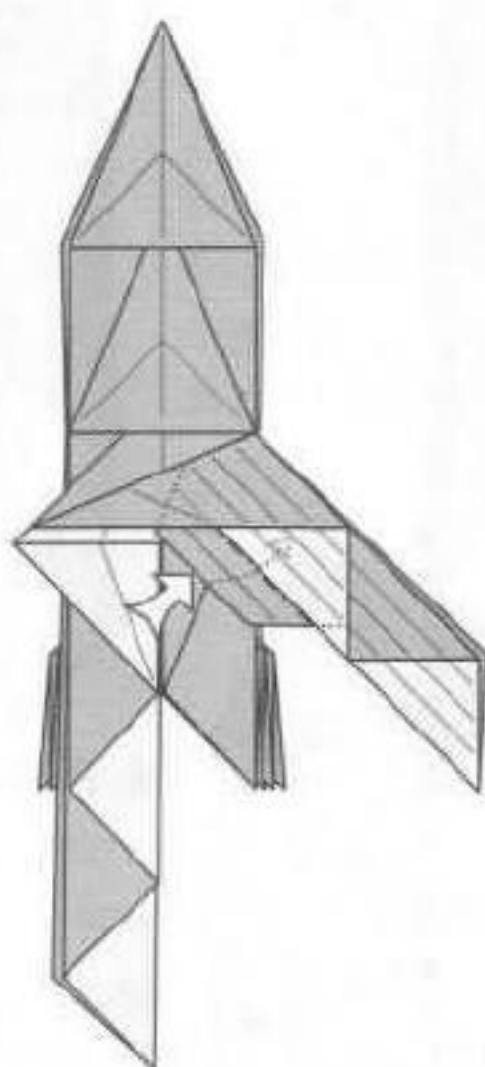
29. Fold the flap down and out to the right.
カドを右下へ折る。
角度に注意。



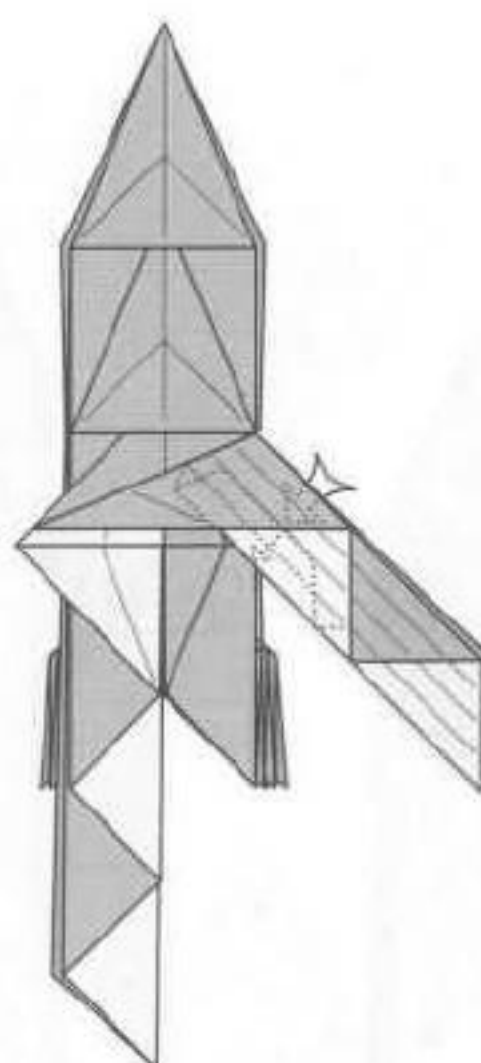
30. Fold and unfold through all thicknesses of the flap.
折り筋が隠れてしまった部分に折り筋をすべての層でつける。



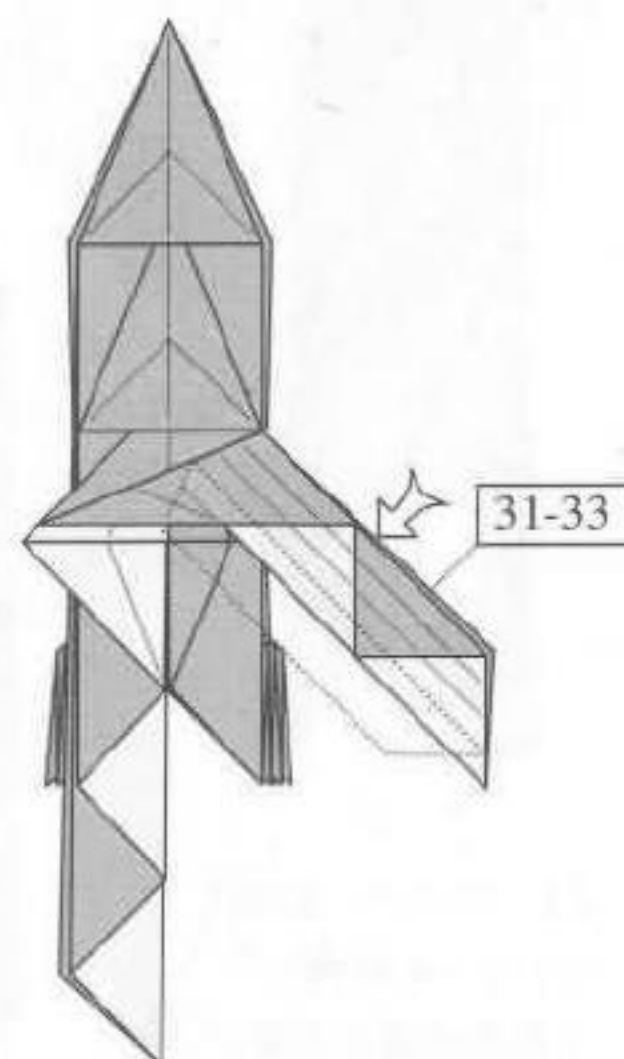
31. Closed-sink the farthest layer on the existing creases.
一番向こう側の層を沈め折り(closed sink)。



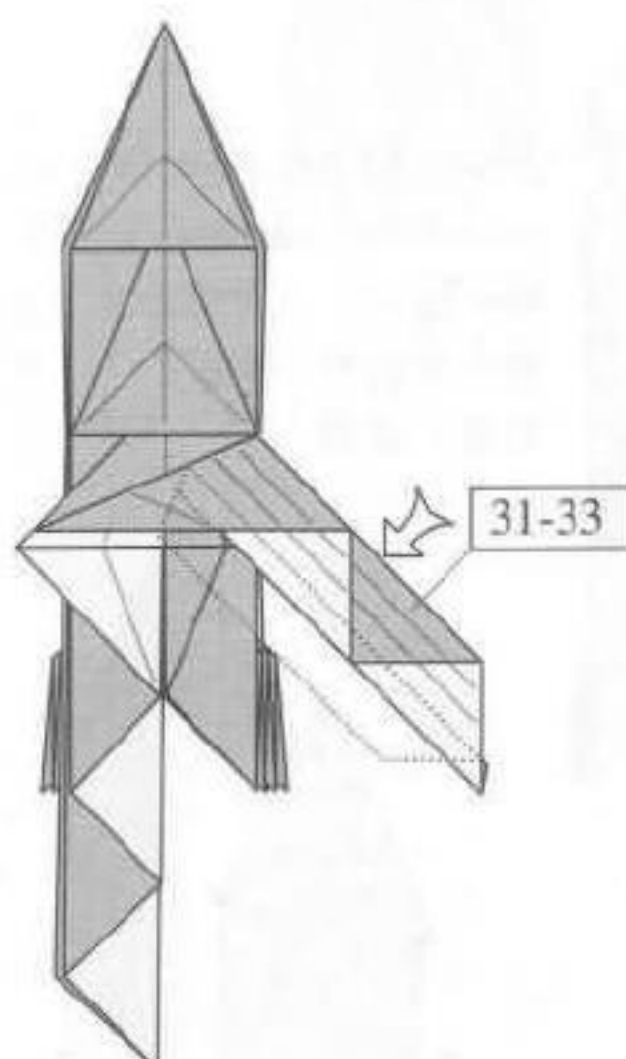
32. Closed-sink the layer back upward.
反対方向に沈め折り。



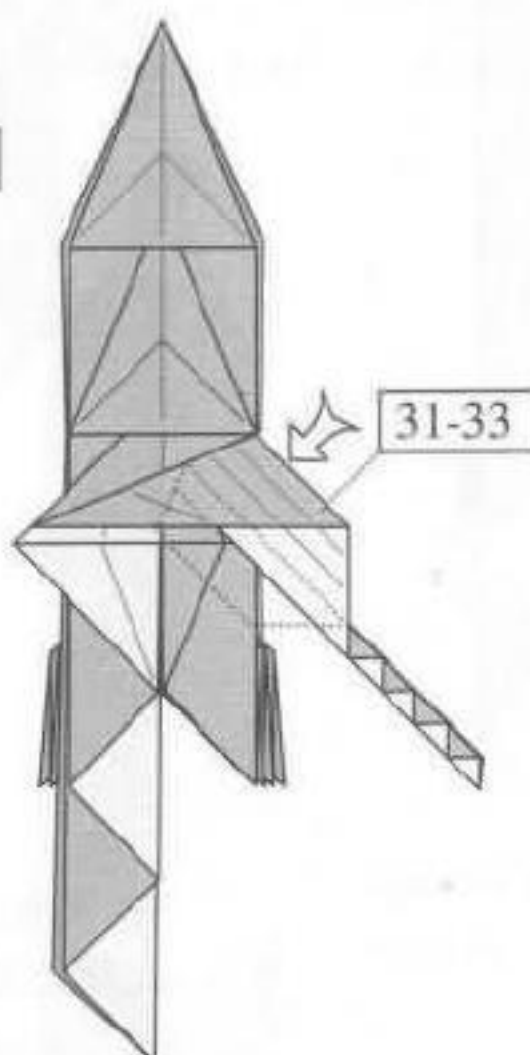
33. Closed-sink the layer one last time.
さらに反対方向に沈め折り。



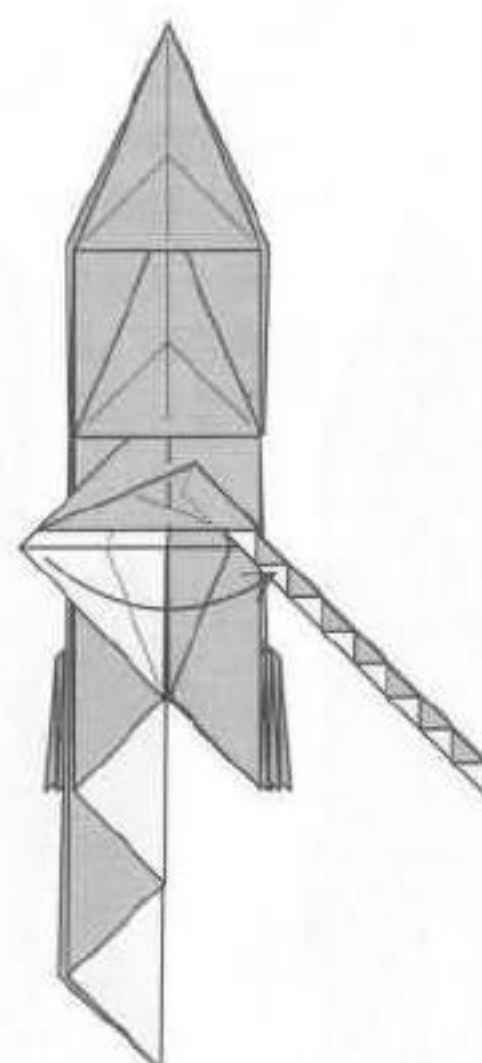
34. Repeat on the next farthest layer.
一つ手前の層でも同じように沈め折りを繰り返す。



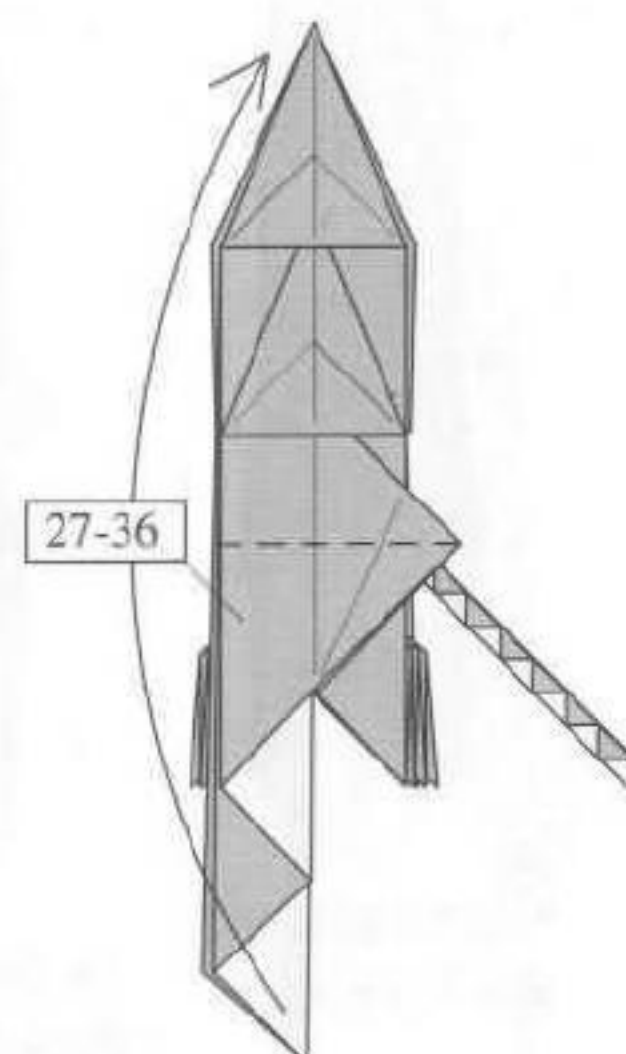
35. Repeat on the next layer.
一つ手前の層でも同じように沈め折りを繰り返す。



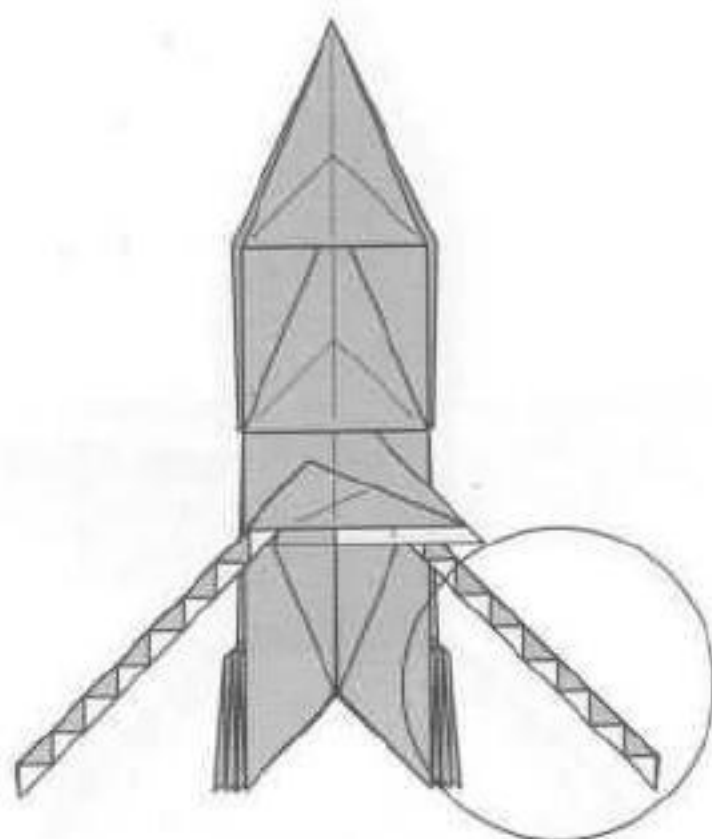
36. Repeat on the remaining layer.
一番手前の層でも同じように沈め折りを繰り返す。



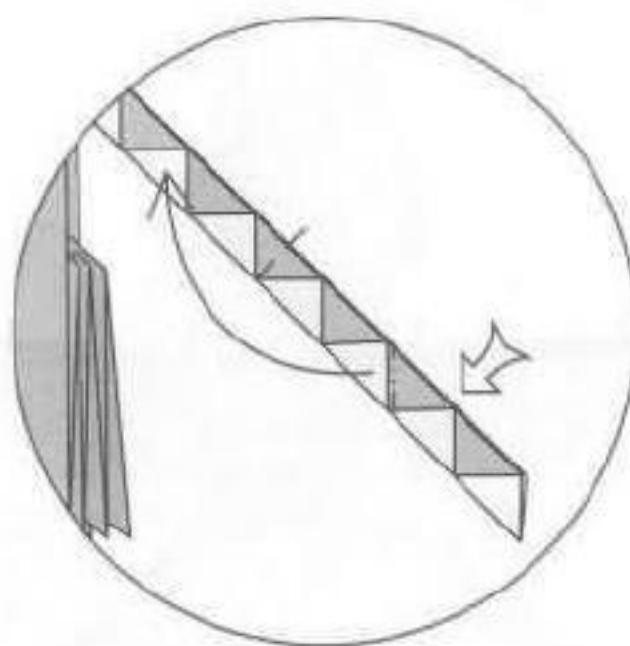
37. Fold the flap to the right.
1枚右へ折る。



38. Repeat on the left.
左側も27-36と同様に折る。

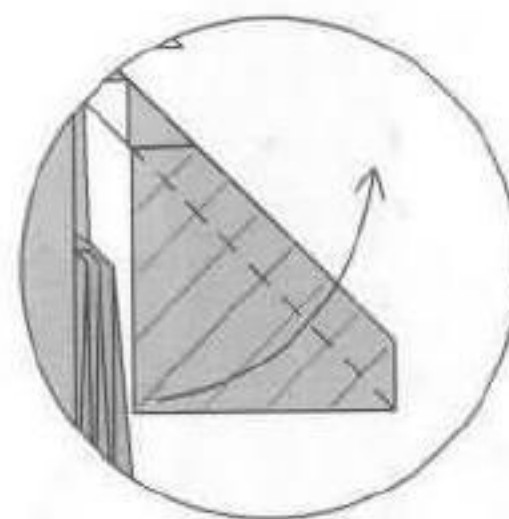


39. The next few steps will focus on the foot.
次からは足を折る。

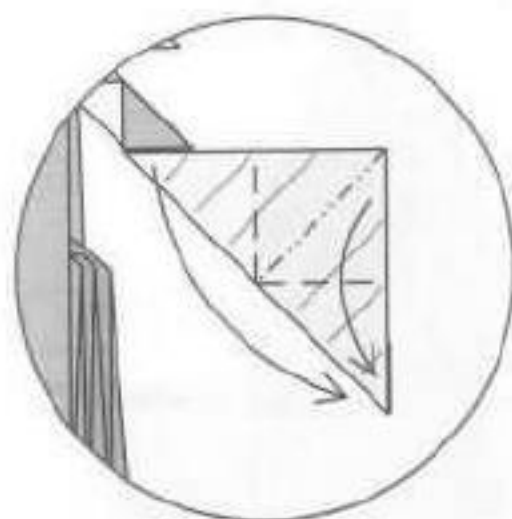


40. Elias-stretch the pleated section.

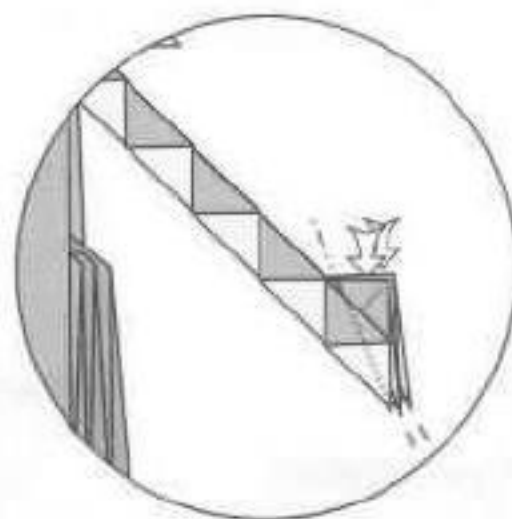
蛇腹状の層を広げるように折り、内側から蛇腹状につぶすように平らにまとめる(15と同じように)。



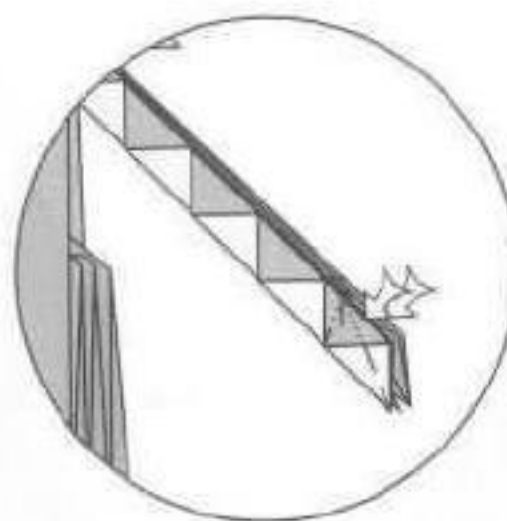
41. Fold the flap up.
カドを反対側へ折る。



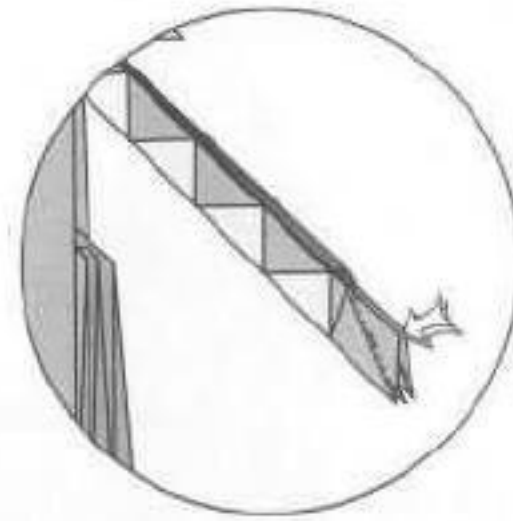
42. Close the flap.
中割り折りをするようにカドを閉じる。



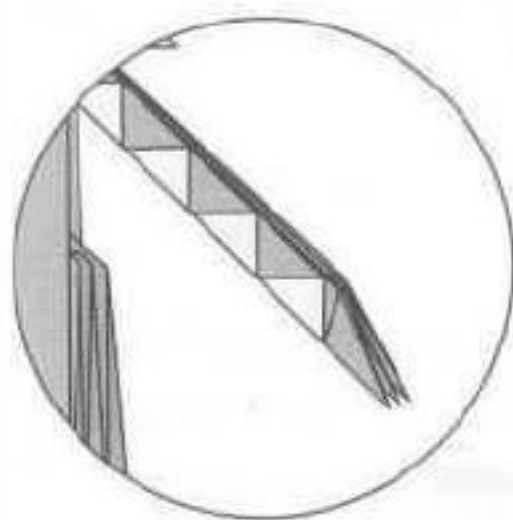
43. Reverse-fold two corners.
内側の二箇所を中割り折り。



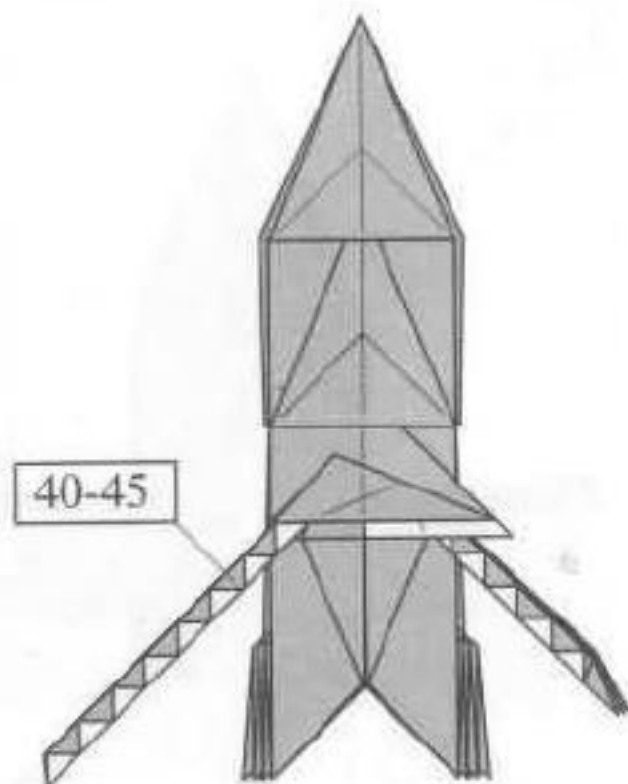
44. Reverse-fold the near and far edges.
手前と向こうのカドを中割り折り。



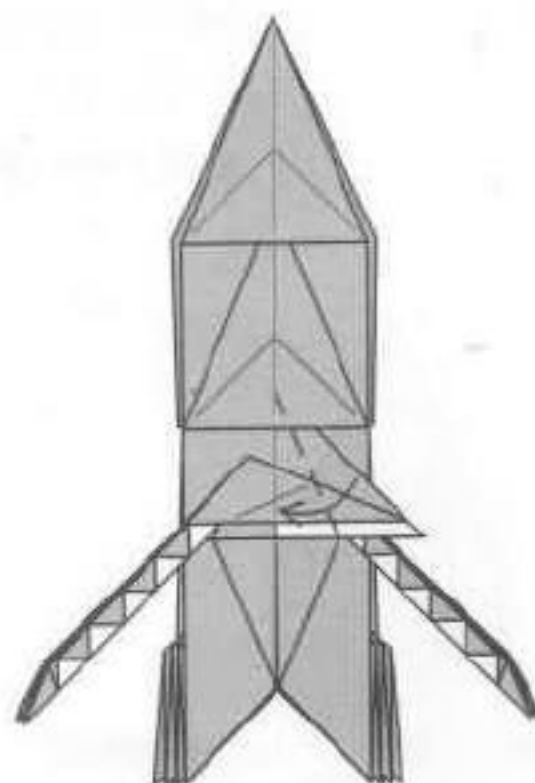
45. Sink the remaining pair of corners. All the folded edges should be aligned.
残った角を沈め折り。これで縁がすべて揃う。



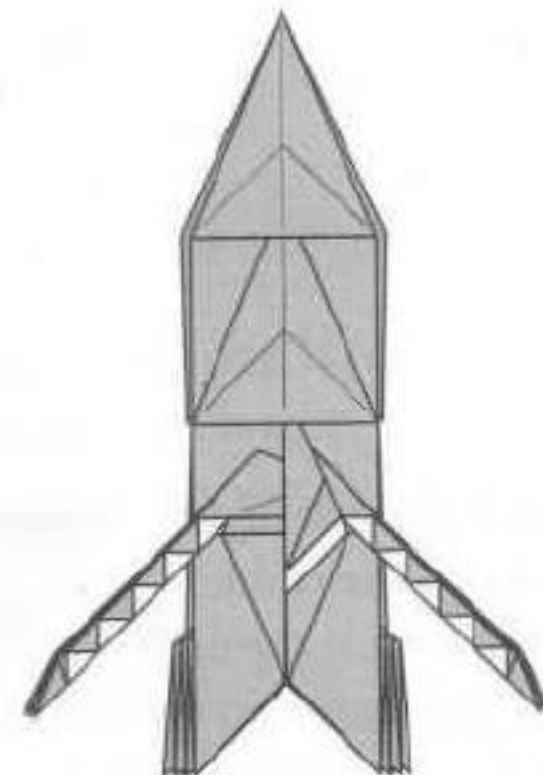
46. Like this.
完成図。



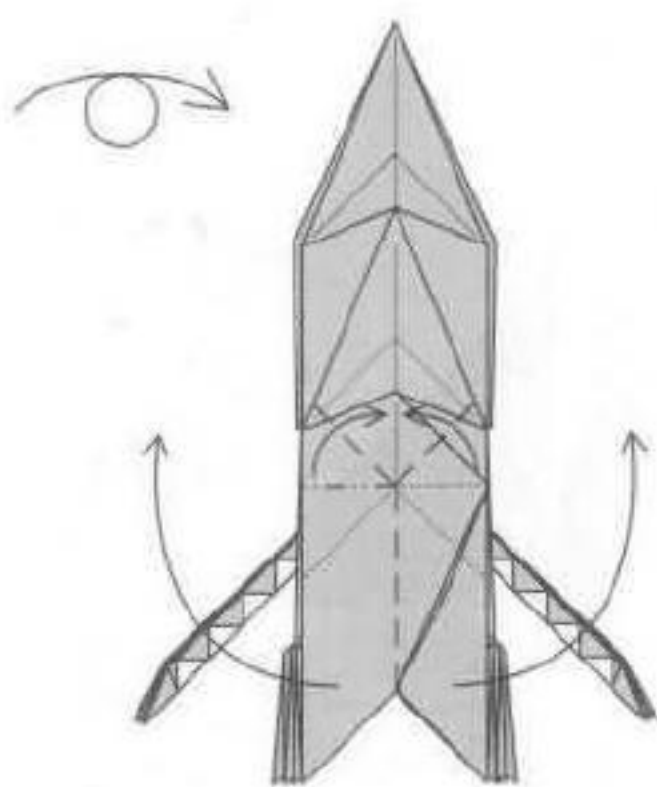
47. Repeat on the left.
左側でも40-45と同様に折る。



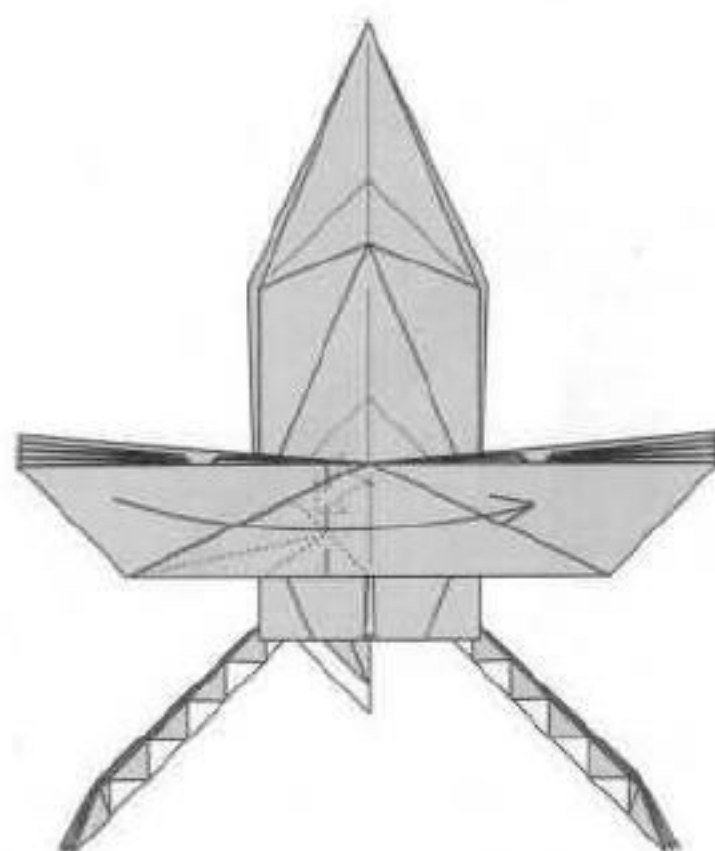
48. Fold the flap down so that its edge lies along the center line.
カドを縁が中心線に合うように折る。



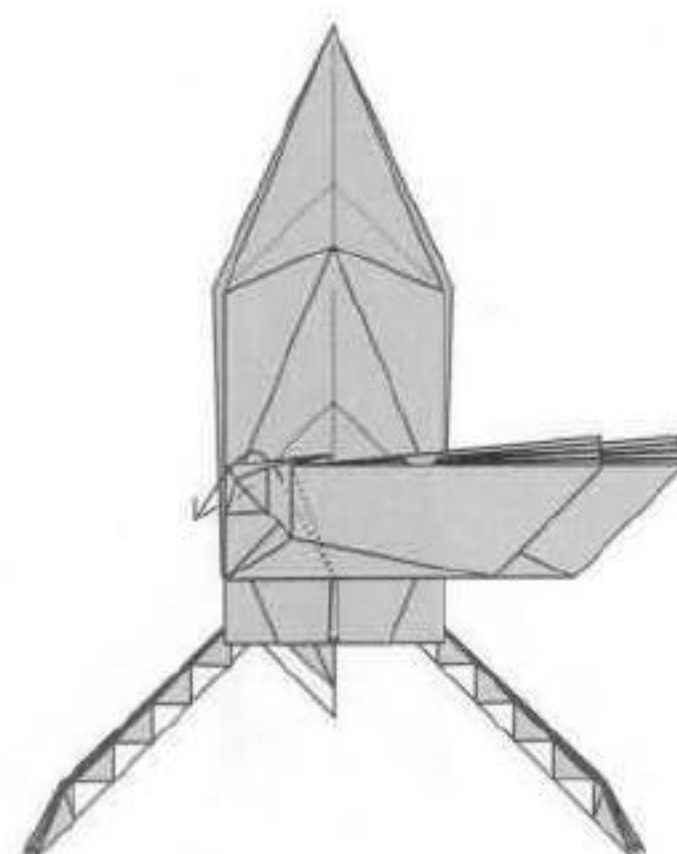
49. Turn the model over.
裏返す。



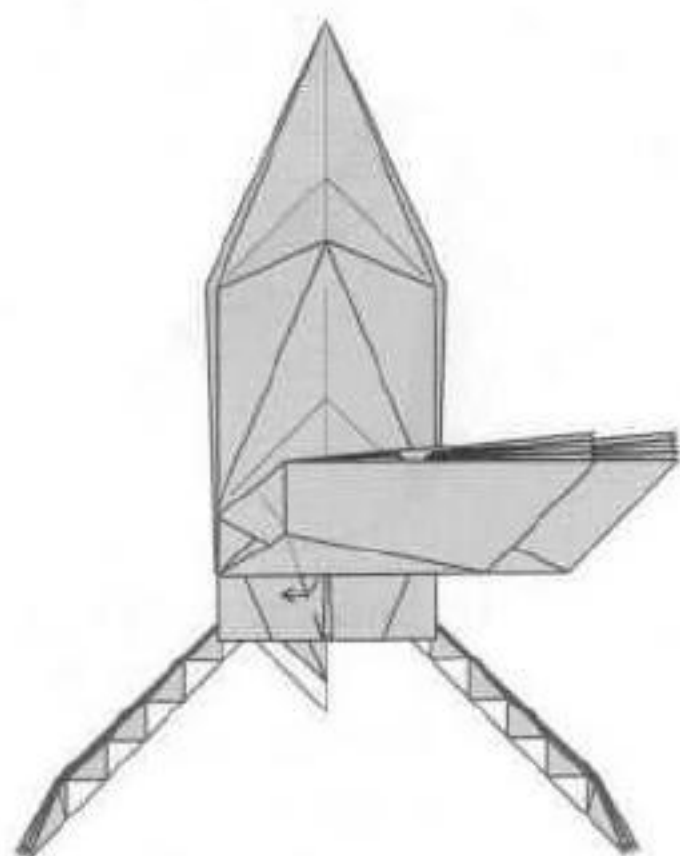
50. Fold the wings up and out to the sides.
翼を図のようにまとめて横に出す。



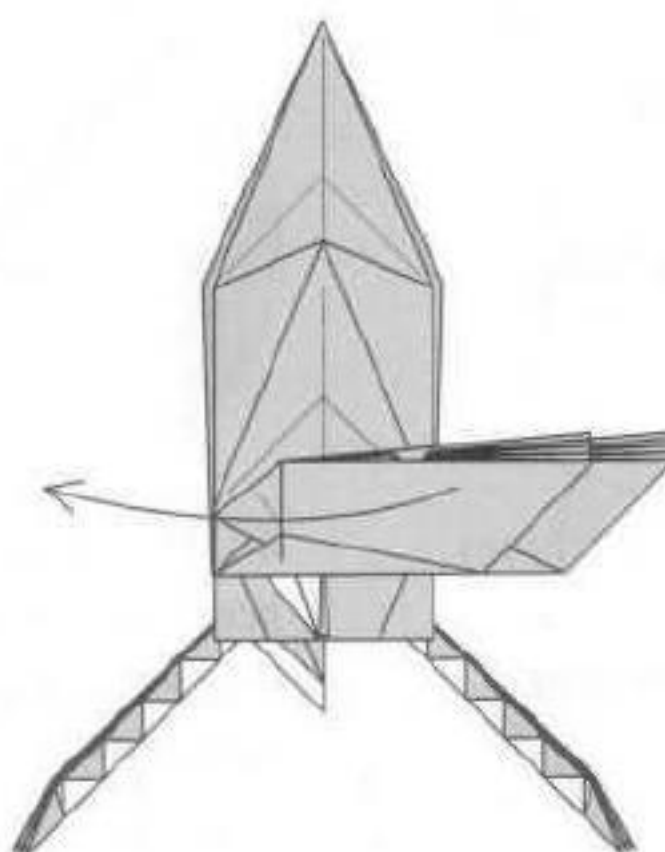
51. Fold the left wing over to the right, swivel-folding at its base.
左翼を右翼の上に折り返す。
このとき翼の下根元を引き寄せ折り。



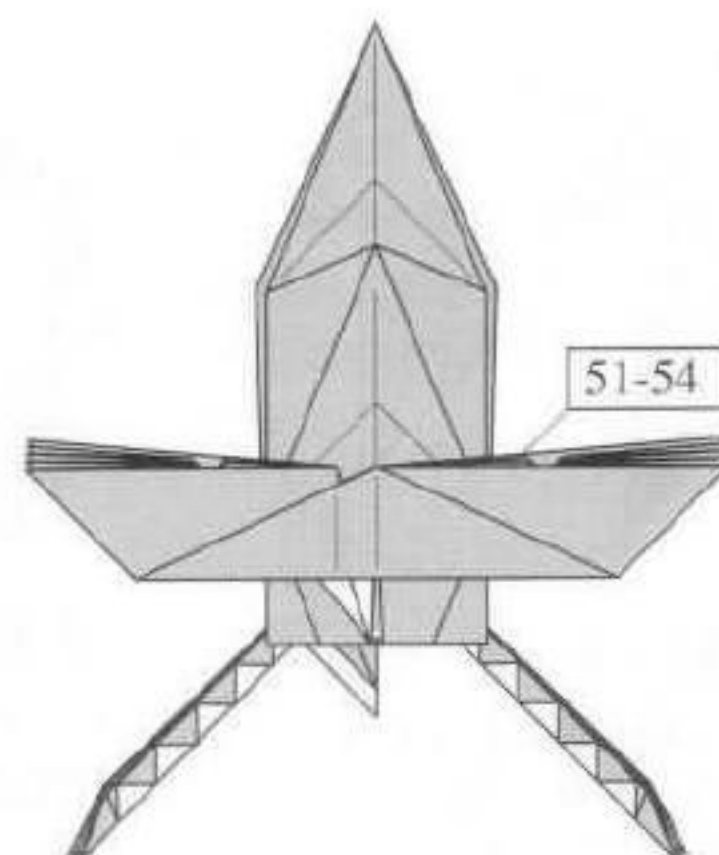
52. Slide a group of layers downward as far as possible.
すべての層を斜め下にいけるところまでずらす。



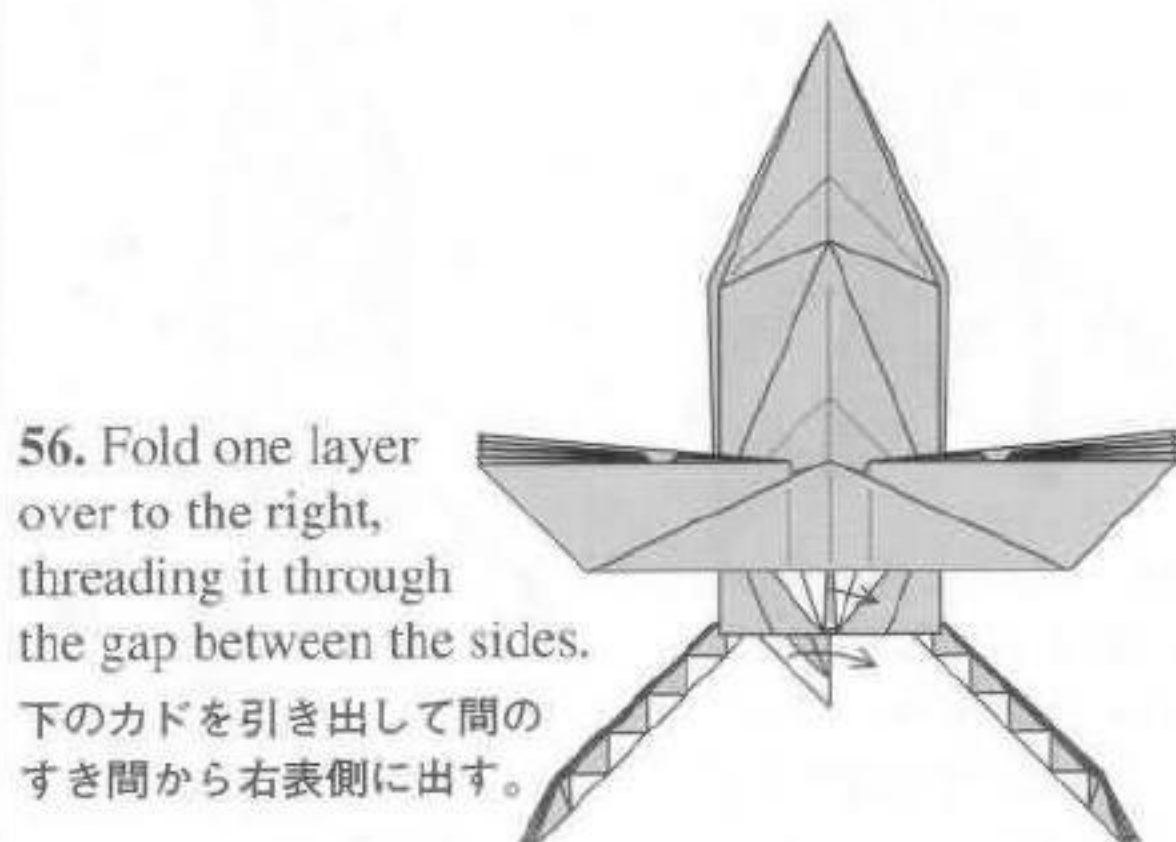
53. Fold a raw edge over to the left as far as possible.
1枚一杯のところまで折る。



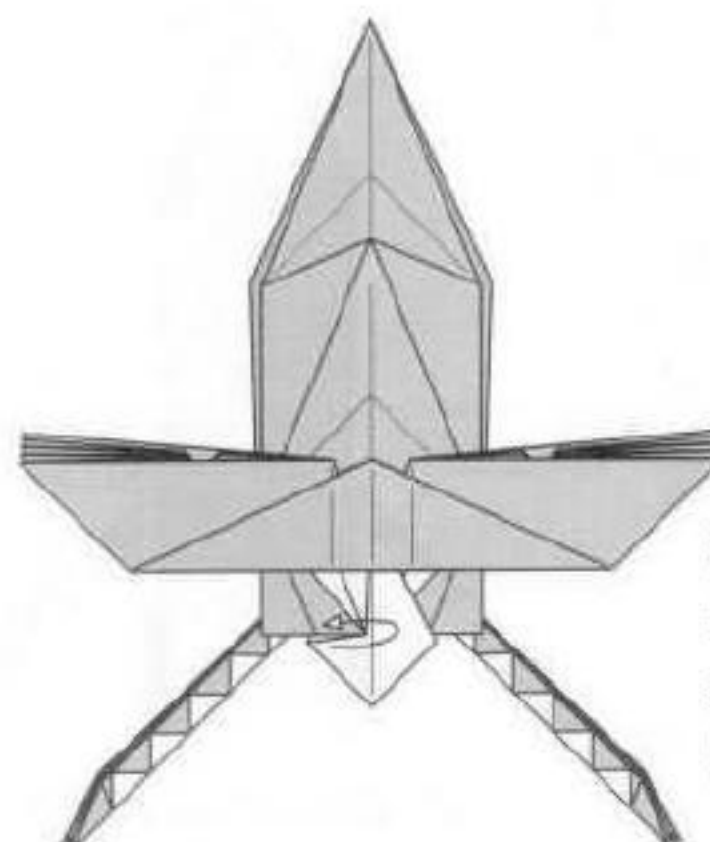
54. Fold the wing back to the left.
左翼を元に戻す。



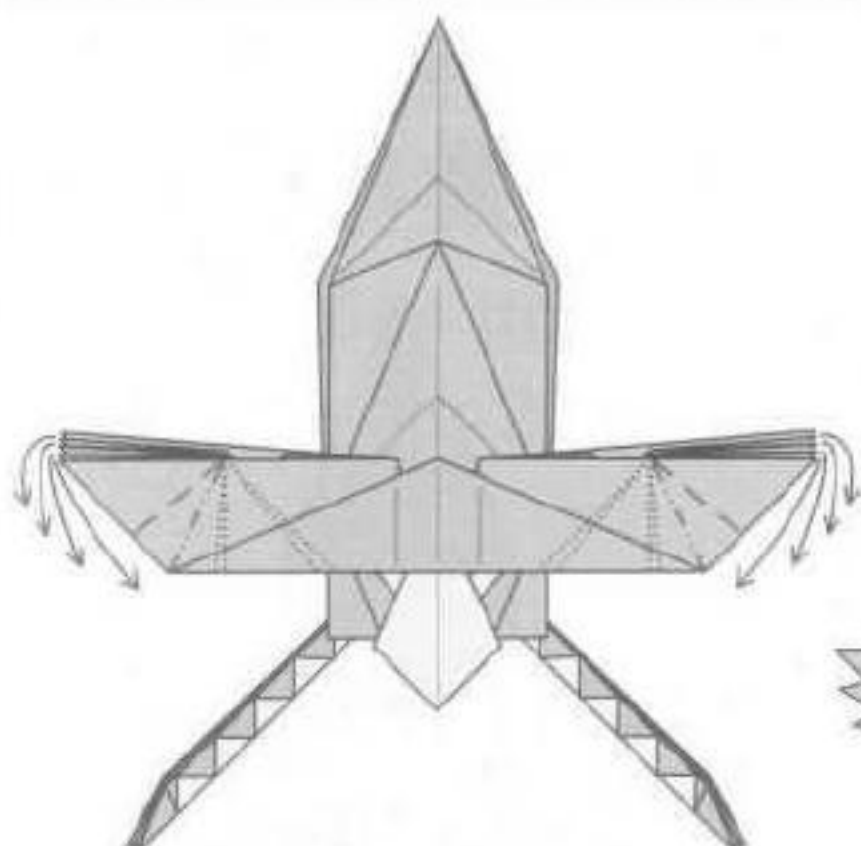
55. Repeat on the right.
右側も51-54と同様に折る。



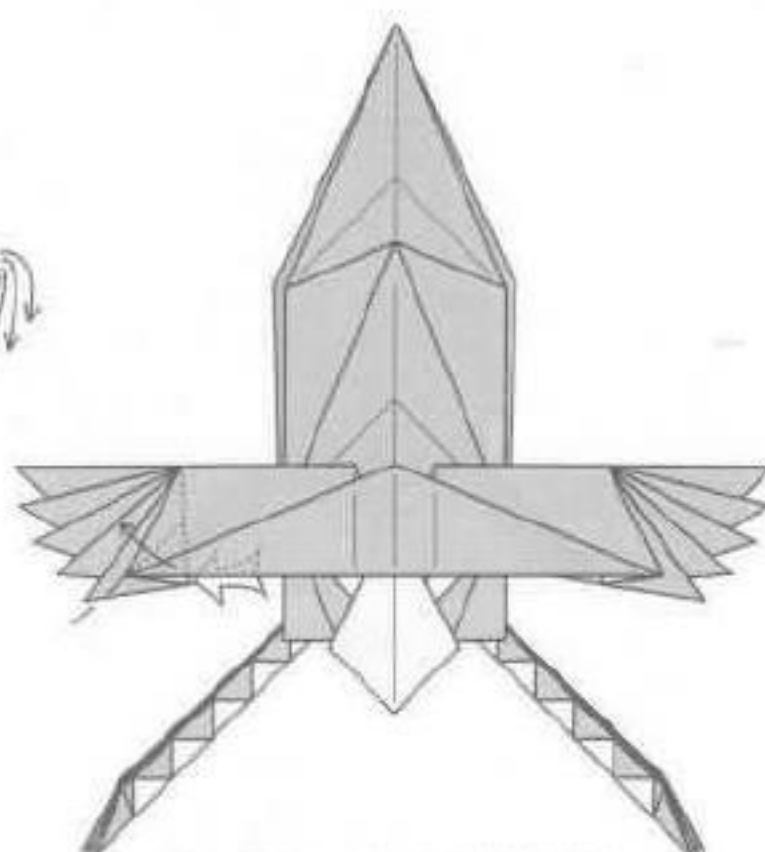
56. Fold one layer over to the right, threading it through the gap between the sides.
下のカドを引き出して間のすき間から右表側に出す。



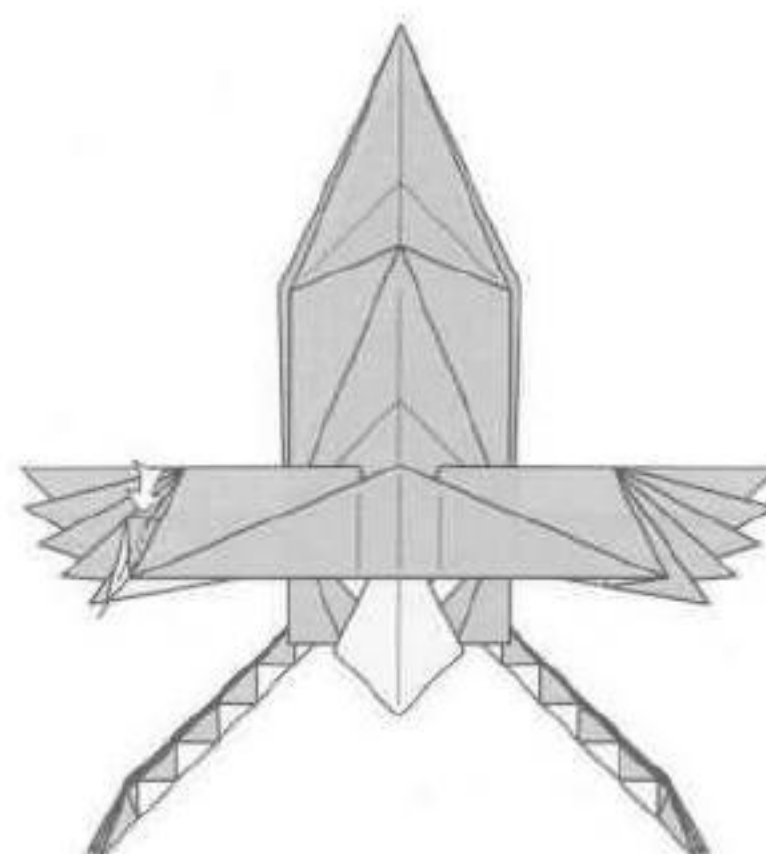
57. Bring the left side to the front.
左側のカドも表側に出す。



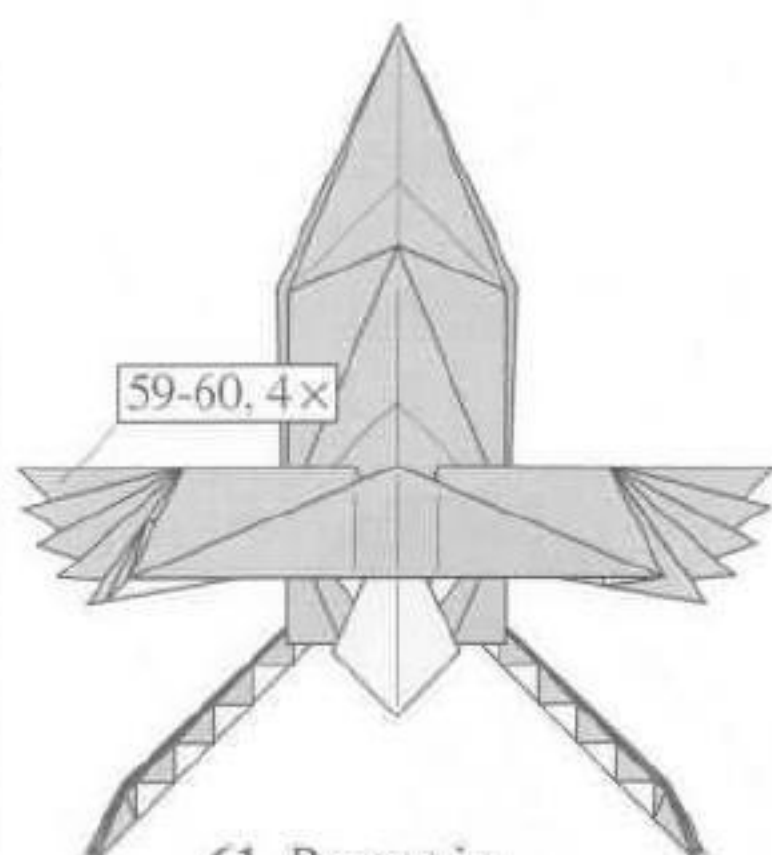
58. Spread the tips of the wings, forming pleats internally to take up the excess paper.
カドを段折りするようにずらす。



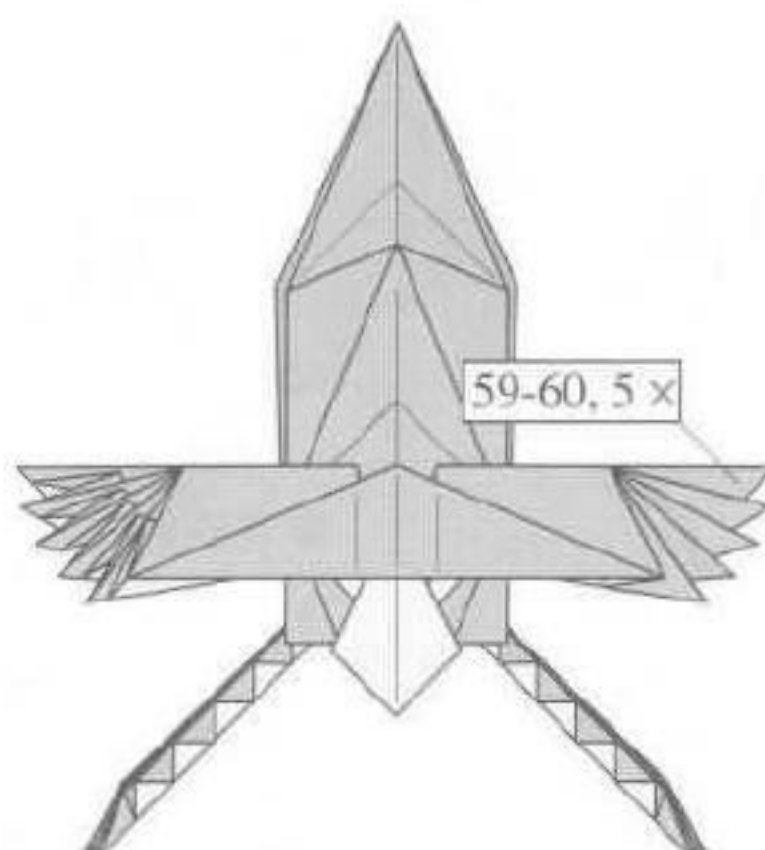
59. Reverse-fold the corner.
カドを中割り折り。



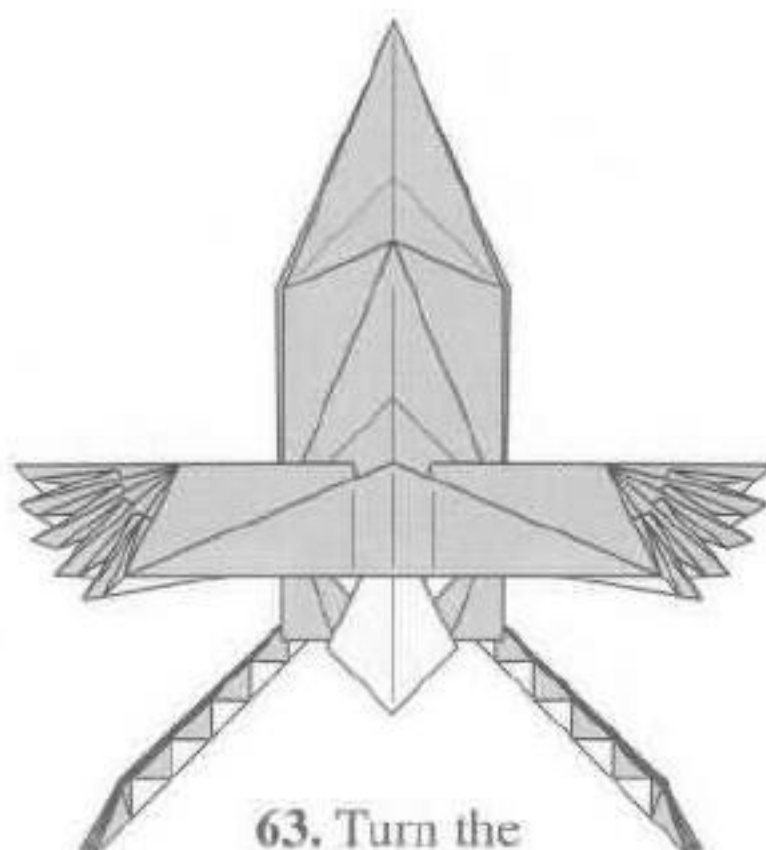
60. Reverse-fold the corner.
カドを中割り折り。



61. Repeat in four places.
残り四箇所のすき間でも59-60のように中割り折りを繰り返す。



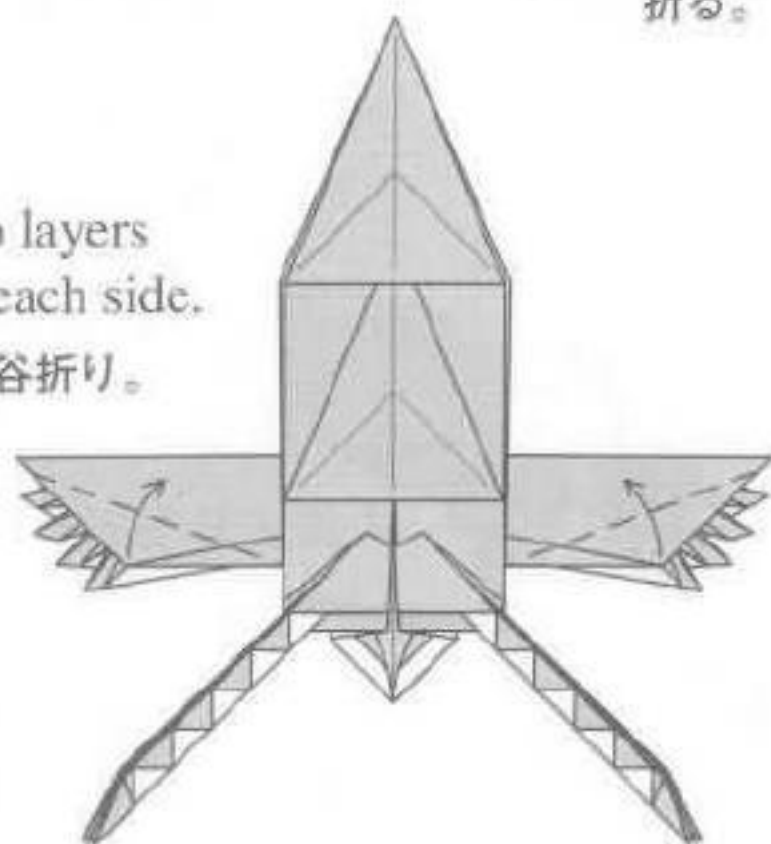
62. Repeat on the right side.
右翼も59-61と同様に折る。



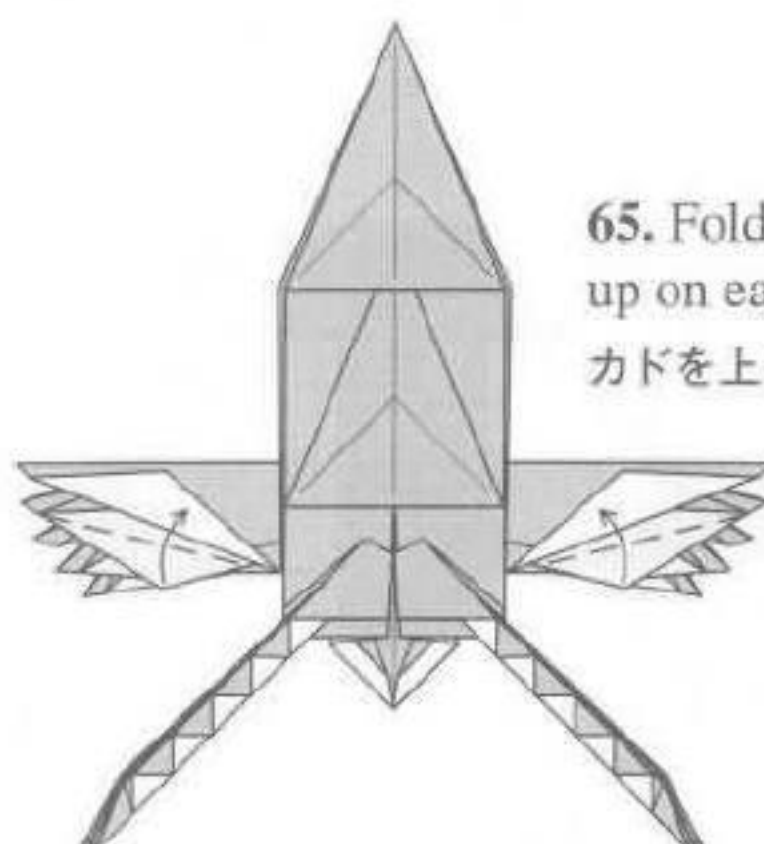
63. Turn the model over.
裏返す。

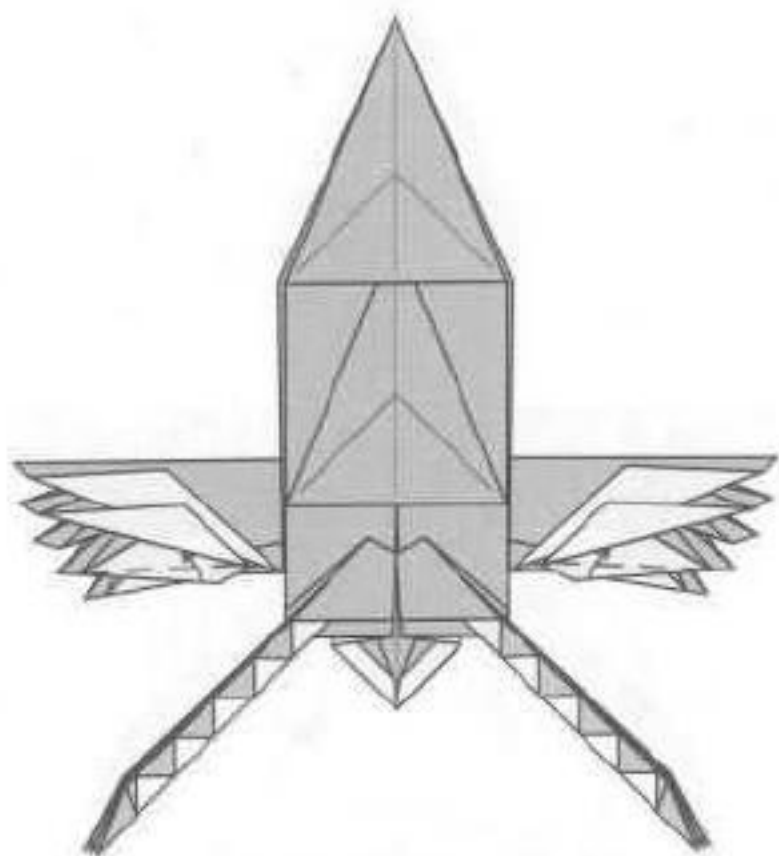


64. Fold two layers together on each side.
左右二枚ずつ谷折り。

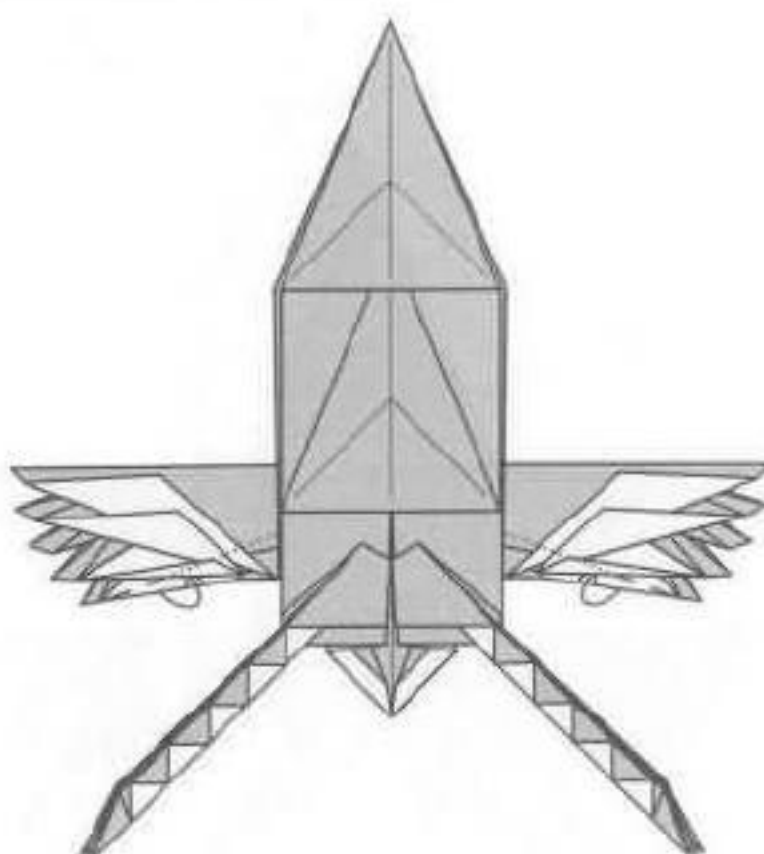


65. Fold one layer up on each side.
カドを上へ折る。

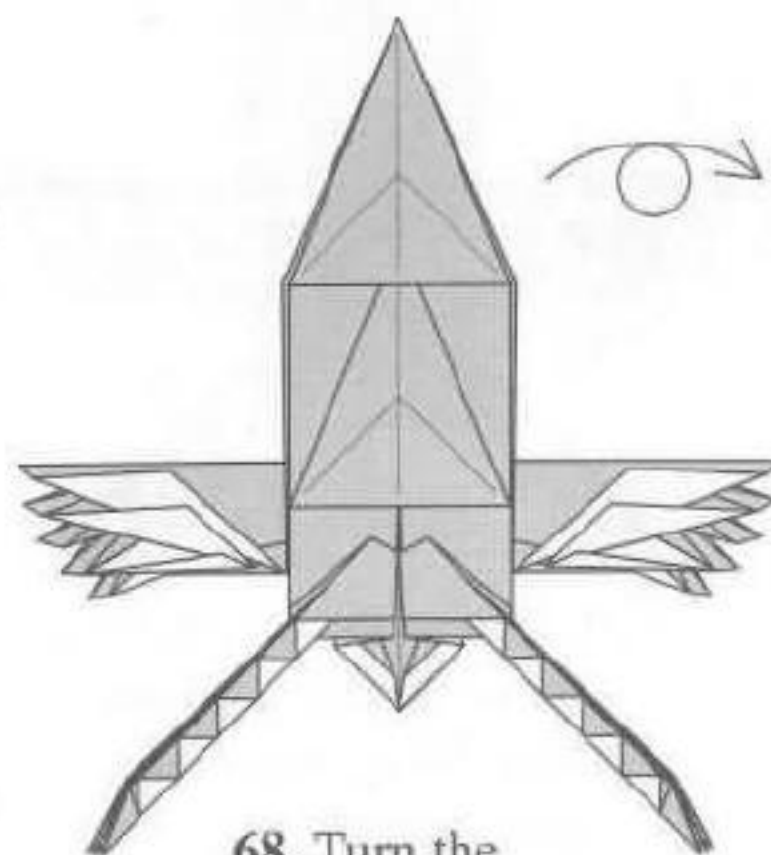




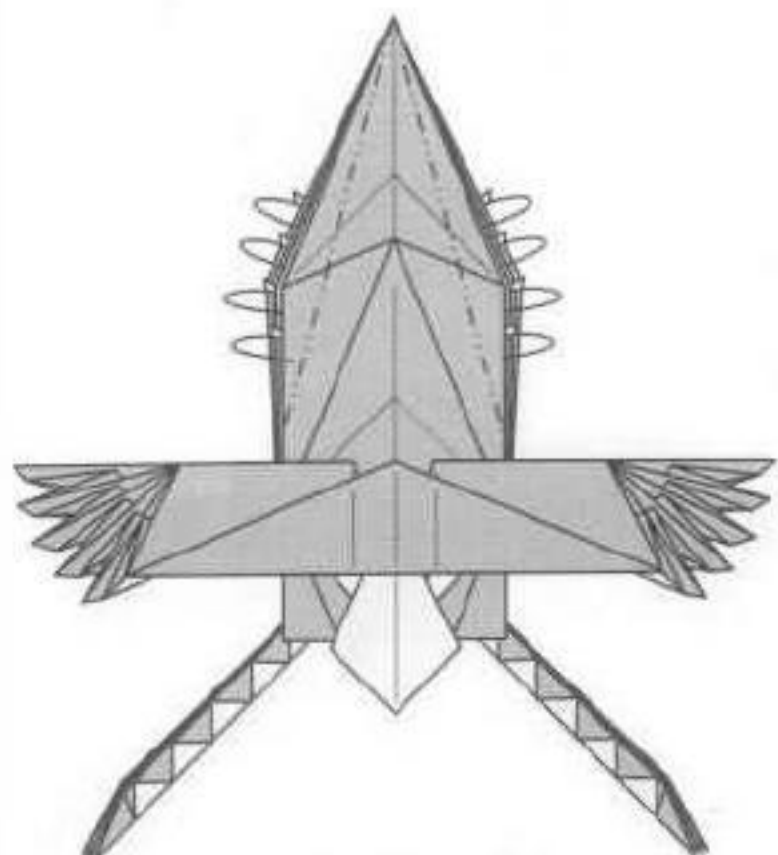
66. Fold the next layer up as far as possible.
次のカドも一杯のところまで折る。



67. Fold the remaining layer up inside the wing.
最後に翼の内部でカドを同様に折る。

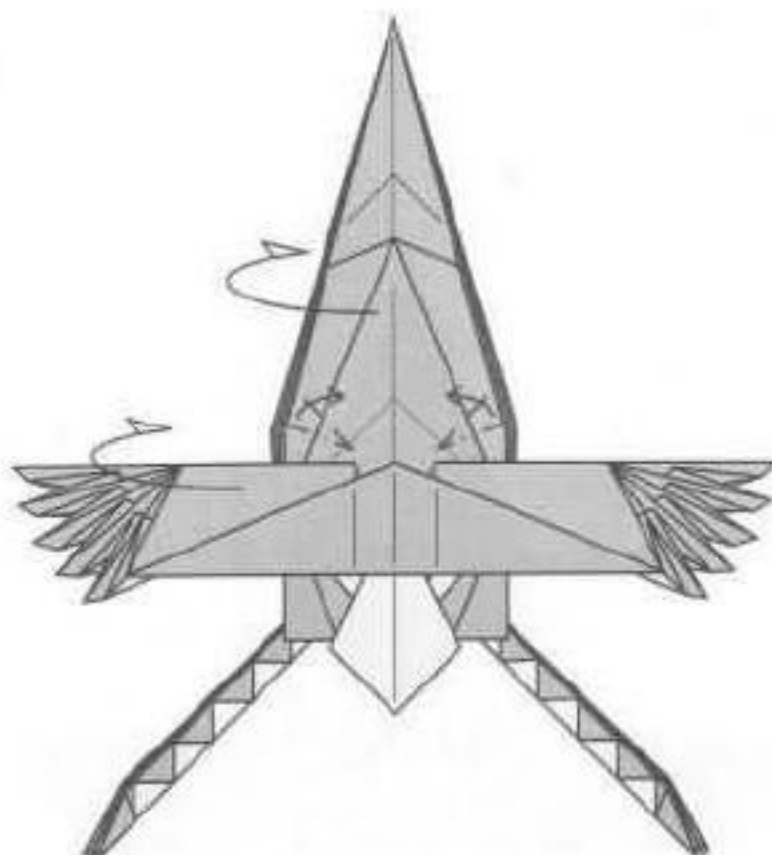


68. Turn the model back over.
裏返す。



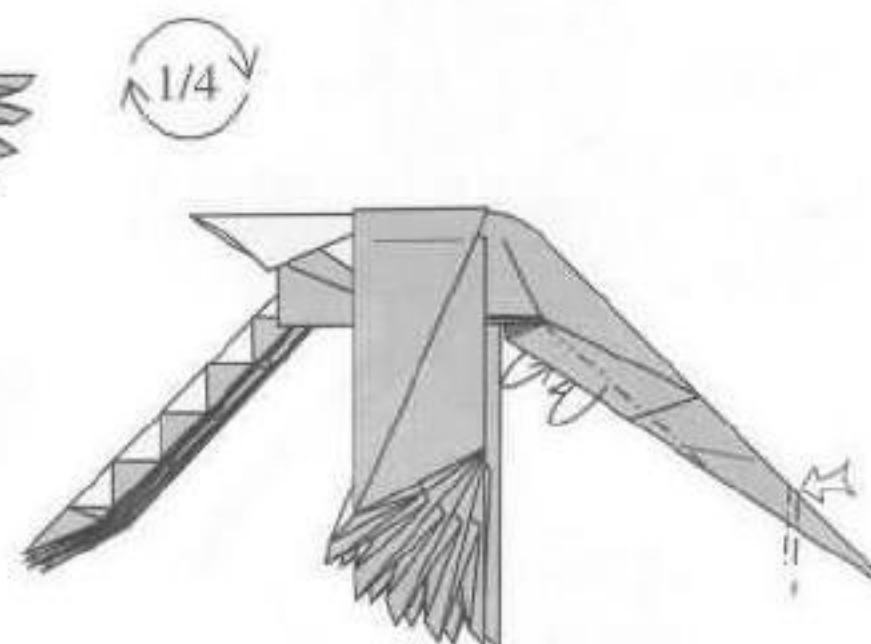
69. Narrow the point by 1/3, folding each layer individually.

カドを層ごとに別に山折り。角度は中心線と縁の角度の1/3。



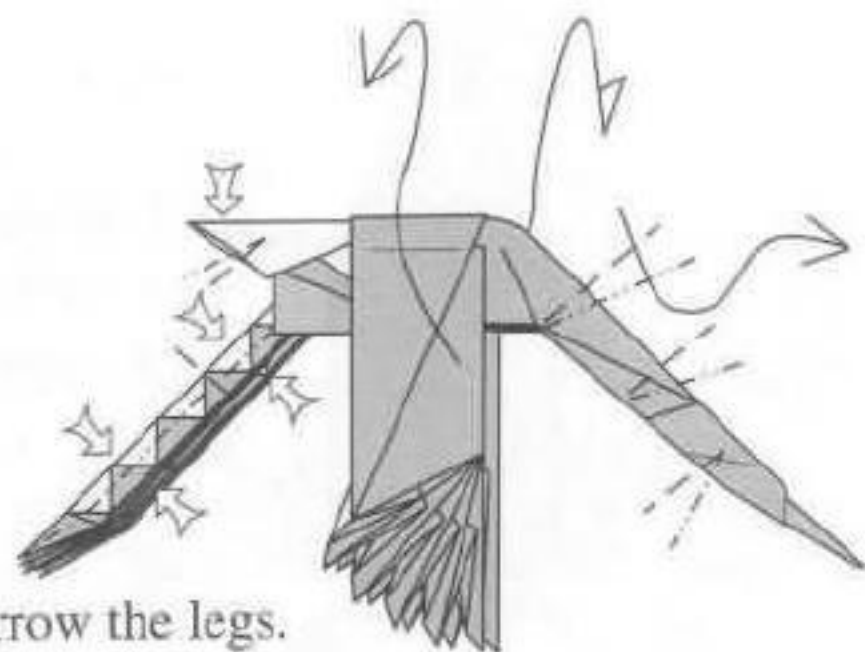
70. Form the body into a U shape while crimping the neck. Rotate 1/4 turn.

首の根元を段折りして、全体をU字状に丸める。次からは横向きを図。



71. Narrow the neck with mountain folds. Crimp the beak.

首を山折りで細くする。くちばしを段折りで作る。



72. Narrow the legs. Crimp the neck and tail. Position the wings and head.

足を細く形作る。首を段折りで曲げる。頭と翼の位置を決める。



73. Finished Dancing Crane.
出来上がり。

日本折紙学会(JOAS)

15期事業報告と16期予定

JOAS 2004 (the 15th year) Report and
Projects for 2005

1) 会員・定期購読者

第15期は前期に比べ購読者横ばい、会員微増で推移しております。この傾向は11期以降連続して続いているもので、この5年で会員数はおよそ100名増加になりました。15期会員の皆さまへは、配付資料として2005年カレンダーを送付させていただいております。また、来期より購読料、会費ともに消費税相当額の値上げをすることになりますが、ご了承のほどお願いいたします。

16期につきましても引き続きご購読・会員継続していただけますようお願いいたします。なお、16期分の受付から購読料、会費の振替口座番号と加入者名を変更しております。同封の振替用紙をご利用いただければ問題ございませんが、ご確認いただけますようお願いいたします。

2) 吉野一生基金

「吉野一生基金」には2004年度も多くのご皆様のご寄付をいただいております。改めてお礼申し上げます。「吉野一生基金」では昨年8月、デビッド・ブリル氏(イギリス)、エリック・ジョワゼル氏(フランス)、トム・ハル氏(アメリカ)、ネイサン・ゲラー氏(アメリカ)を第10回記念折紙探偵団国際コンベンションに迎えることができました。2005年は折紙探偵団コンベンション第11回大会において、2名の海外招待(1名を公募)を予定してお

吉野一生基金2004年度収支報告

残高合計	2,469,687
寄付等入金計	733,661
支出	800,000
	(海外招待4名)

ります。また、日本人の海外渡航助成につきましては、2004年度も応募がございませんでした。随時1-2名の渡航助成を行う計画にしておりますので、ご希望の方は事務局まで応募用紙をご請求下さい。

また、基金の収入源、使途に関する吉野一生基金規約の一部を2005年3月20日付で一部改訂しています。同封の寄付金募集要項をご確認下さい。

吉野一生基金

海外渡航助成要項

1. 趣旨

・折紙の普及、研究、交流を目的として渡航を希望する者、数名に日本折紙学会が各5万円を助成するものとする。

2. 支援対象者

・日本国籍を有するものおよび日本在住のもの。その他は不問。

3. 応募、選考

- ・応募に当っては、個人の住所氏名を書いた封筒に返信用の切手を貼り、応募用紙を請求すること。
- ・応募用紙に記入の上、「日本折紙学会」に郵送のこと。
- ・選考は一生基金選考委員が行う。

4. 義務

・申請が許諾されたものは報告書を作成すること。報告書は雑誌『折紙探偵団』あるいはその他学会の発行する研究誌等へ掲載される。

3) 折紙探偵団コンベンション

2004年8月20-22日に第10回記念折紙探偵団国際コンベンションを東洋大

学で開催いたしました。記念大会である本大会では、初日に吉澤章氏を迎えることができ、国内外から400名以上のご参加をいただきました。この大会にあわせて企画した妖怪折り紙コンテストにはおよそ50作品の参加をいただくなど、記念大会を盛会に行うことができましたのも愛好家の皆さまの支援の賜です。今後ともよろしくお願いいたします。

2005年は8月26-28日に第11回折紙探偵団コンベンションを、同じ東洋大学をお借りして開催することが決定いたしました。また、折紙探偵団地方コンベンションでは、関西コンベンションの開催(4月30日・5月1日の2日間、神戸大学)を既に誌上、web上でご案内していますが、2005年度の静岡に関しましては会場の都合から開催できません。

現在、11月頃の名古屋近郊での開催も検討中ですが、詳細は今後、誌上等でお知らせしてまいります。世話役をしてくださっている友の会の皆様には、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

4) その他の事業計画

■折紙資料のライブラリー構築を目的として、折紙図書館(仮称)の設立に向けて検討を進めており、現在2005年6月頃の仮運用に向けて準備中です。

■創作者の知的所有権/財産権の保護と作品利用の利便性の向上を志し、折紙作品の利用に関するガイドラインを策定いたしました。年度内の公開を目指して作業を進めております。また、ガイドラインと並行して、現評議員を中心とした作家による「作品利用に対するアンケート」も実施しており、併せて公開準備中です。

■2004年度に新たにスタートさせた折

紙指導員制度につきましては、40余名の方に資格認定をさせていただきました。2004年度認定取得の皆さま(合格通知を受け取り、認定料を振り込んでいただいた方)は、16期の会員継続をいただきますと初回更新料は頂かず自動的に更新とし、2005年4月1日-2006年3月31日の期間有効の指導員認定証を送らせていただきます。2006年4月1日以降の更新料等に関しましては現在検討中です。受験されたコンベンションによって認定期間に差が生じることとなりますがご了承下さい。本制度につきましては、さらに有用なものとなりますよう検討を継続いたします。

5) 総会・その他

■日本折紙学会2004年度の会計報告につきましては、第11回折紙探偵団コンベンション開催期間中に予定しております総会においてご報告いたします。2005年6月30日までに第16期会員に登録いただきました皆様には、追って総会のご案内を送付申し上げます。

■現規約に知的財産に関する文言を盛り込むため規約改訂案を作成いたしました。改訂規約については2005年度の総会資料として配付いたします。

■2004年8月21日の総会で岡村昌夫、山口真両名の評議員退任・顧問への就任の承認を受け、15期中より川崎敏和、川畑文昭、木村良寿、西川誠司、羽鳥公士郎、立石浩一、北條高史、前川淳の8名の評議員体制で運営を進めております。現評議員会としましては、本業多忙のため16期より川畑文昭の評議員退任、川村みゆき氏の新評議員への推薦を決めたことをご報告させていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

1) Membership

The number of subscribers has not changed much, while the number of JOAS members are increasing. This trend has been continuing to be the case for five years in a row, and the number of JOAS members is one hundred more than five years ago. As our expression of gratitude to the 2004 JOAS members, we have sent an origami calendar for 2005.

We ask you to keep on being a JOAS member for 2005, too. However, due to the change in local tax laws, we will raise the fees (both subscription and JOAS membership) to make up for taxes, so please understand that.

2) The Yoshino Issei Fund

We appreciate your contribution to the Yoshino Issei Fund for the year 2004. In the year 2004, we invited David Brill (UK), Eric Joisel (France), Tom Hull (USA) and Nathan Geller (USA) to the 10th Origami Tanteidan Convention with the fund. For the year 2005, we plan to invite two folders from abroad to our 11th Convention. As for the travel fund for our Japanese members, there were no applications in 2004, either. We can aid one or two prospective folders going abroad for origami studies. Contact the JOAS secretary for application.

The Yoshino Issei Fund Financial Report 2004

Earnings by Contribution	733,661
Expense (Four Folders Invited)	800,000
Balance	2,469,687

We revised regulations for the Yoshino Fund as of March 20, 2005. Revisions are about the source of revenues and use of the fund. For details, read a document enclosed with the magazine.

3) The Origami Tanteidan Convention

The 10th Origami Tanteidan International Convention was held at Toyo University on August 20-22, 2004. We had the late Master Yoshizawa Akira as our guest, and more than four hundred participants were there. The Yokai Origami Competition also had more than fifty models enrolled, so we can say that the Convention was in success. We thank you members and subscribers for your cooperation and help.

This year, the 11th Origami Tanteidan Convention will be at Toyo University on August 26-28, 2005. As for our local conventions, the Kansai Convention will be held on April 30th and May 1st at Kobe University, as already announced in the magazine and on the web, but we cannot have the Shizuoka Convention this year because the site of the convention was closed. We are seeking for a possibility of having a convention in Nagoya in November. Details are to be announced in later issues. We thank organizers of local conventions from the bottom of our heart.

4) Other Projects

We are planning to found the Origami Library (the name provisional) for archiving various documents on origami. We will start running it provisionally in June, 2005.

郵便振替口座変更のお知らせ

2005年4月1日より日本折紙学会の郵便振替口座の加入者名と口座番号が変わります。ご注意ください。また、バックナンバー等の注文も新しい口座になり、消費税相当額が加算されます。なお、今回同封した振替用紙には新加入者名・口座番号が印刷されています。

加入者名：日本折紙学会

口座番号：00170-7-260699

As for copyright issues, we have almost finished compiling guidelines, and they will be documented and publicized this year. We are also doing surveys to creators on the use of models and diagrams. The results of the surveys will also be publicized soon.

We have licensed more than 40 JOAS Origami Instructors in 2004. As the license is of one-year term, they have to renew it this year. However, we have decided that the current licensees do not need any special action to take for their renewal. Just renewing their JOAS memberships will be regarded renewing the Instructor license. As for the 3rd year

renewal and later, we are still seeking for the best way, so please wait for the announcement.

5) The General Meeting and the Board

The Fiscal Report for the year 2004 will be done in the JOAS General Meeting immediately before the 11th Origami Tanteidan Convention. If you are a registered member for our 16th year, you will be notified of the General Meeting.

The JOAS regulations (revised) were made and the documentation thereof will

be distributed in the General Meeting 2005.

Approved in the General Meeting in Aug. 21, 2004, the Board of JOAS now consists of Kawasaki Toshikazu, Kawahata Fumiaki, Kimura Yoshihisa, Nishikawa Seiji, Hatori Koshiro, Tateishi Koichi, Hojyo Takashi, and Maekawa Jun. Okamura Masao and Yamaguchi Makoto have become a member of an Advisory Board. However, Kawahata Fumiaki will resign because his regular job is too busy, and we will recommend Kawamura Miyuki for our new member to the General Meeting 2005.



Orisuzi ("Fold-Creases")

大切な趣味 My Precious Pastime

伊藤 崇
Ito Takashi

私と折り紙は15年ほどの付き合いになるのだろうか。折り紙を始めた頃の記憶はないのだが、きっかけはたまたま家にあった一冊の本なのだと思う。それから新しい本がほしくなり、母がどこからかおりがみはうすのことを調べてくれ、ちよくちよく通うようになって、今に至るのだろう。

今までたくさんの作家さんのすばらしい折り紙作品に出会い感動し、そのつと私も折って楽しんできた。また、私の折ったものを親や小学校の先生に見せると、とても驚きほめてくれた。それがまたうれしかった。しかしあるときなんとなく物足りなさを感じるようになった。たしかに、折る作業は楽し

いし、作品が出来た時の達成感もいい。ただ、自分のやっていることは模写であって、100%が自分の作品ではないということを感じ始めたのだ。だから人に折ったものを見せる時も、胸を張って自分の作品だともいえないことが悔しかった。

それからは、折り紙は一つの趣味として一人で楽しんでいたのだが、去年の夏に「折紙指導員認定審査」というものがあることを知った。以前、学校の行事で簡単な折り紙を人に教えたことがあったこともあり、軽い気持ちで受けてみることにした。そしてコンベンションの日に、ジョン・モンテローラ氏のティラノサウルスを10人程のお客さんと折った。慣れない黒板を使つての折り紙に、私もてこずってし

まい途中焦ったが、なんとか全員が完成することが出来た。講習が終わったあとに「ありがとうございました」とお客さんに言ってもらえたときは、なんともいえない充実感があった。審査にも合格でき、自分の中の折り紙への向き合い方もなんとなく変わった気がする。私が出会ってきたたくさんのすばらしい折り紙作品を、今度は伝えていく側になったのだ。

折り紙との付き合い方は人それぞれで、超難解折り紙を何時間もかけて楽しむのもいいし、簡単な作品をわいわいいいながら大人数で楽しむのもいいものだ。私はこのすばらしい趣味を、これからも大切にしていきたいと思う。

展開図折りに

Crease Pattern
Challenge

挑戦

第35回

水瓶座 (2005年版)

Aquarius 2005

北條高史

Hojyo Takashi

Created : 2005.02.13

Paper Size : 79 x 79 cm

Height : 27cm

本 作の旧バージョンは1993年に創作したのですが、頭部や手足、水瓶となる基本的なカドの配置はほとんどそのまま同様です。

「ガブリエル」の頭部が辺の中央部から折り出されているのに対し、本作ではカドから頭部をつくる必要がありましたが、対角線の左右で非対称な構造を組み込むことにより、非常に近いイメージの頭部デザインを得ることができました。

水流と人体の区別を明確にするために、それぞれの作り込み密度を敢えて大きく変えてみましたが、今後さらに作品全体の密度バランスを調整する必要があると思っています。

図の太い線を山折り、細い線を谷折りにすると、用紙上面が顔の表面になり、裏面が水流の表面となります。用紙の両面が作品表面にあられるため、表裏同色の紙を使用してください。

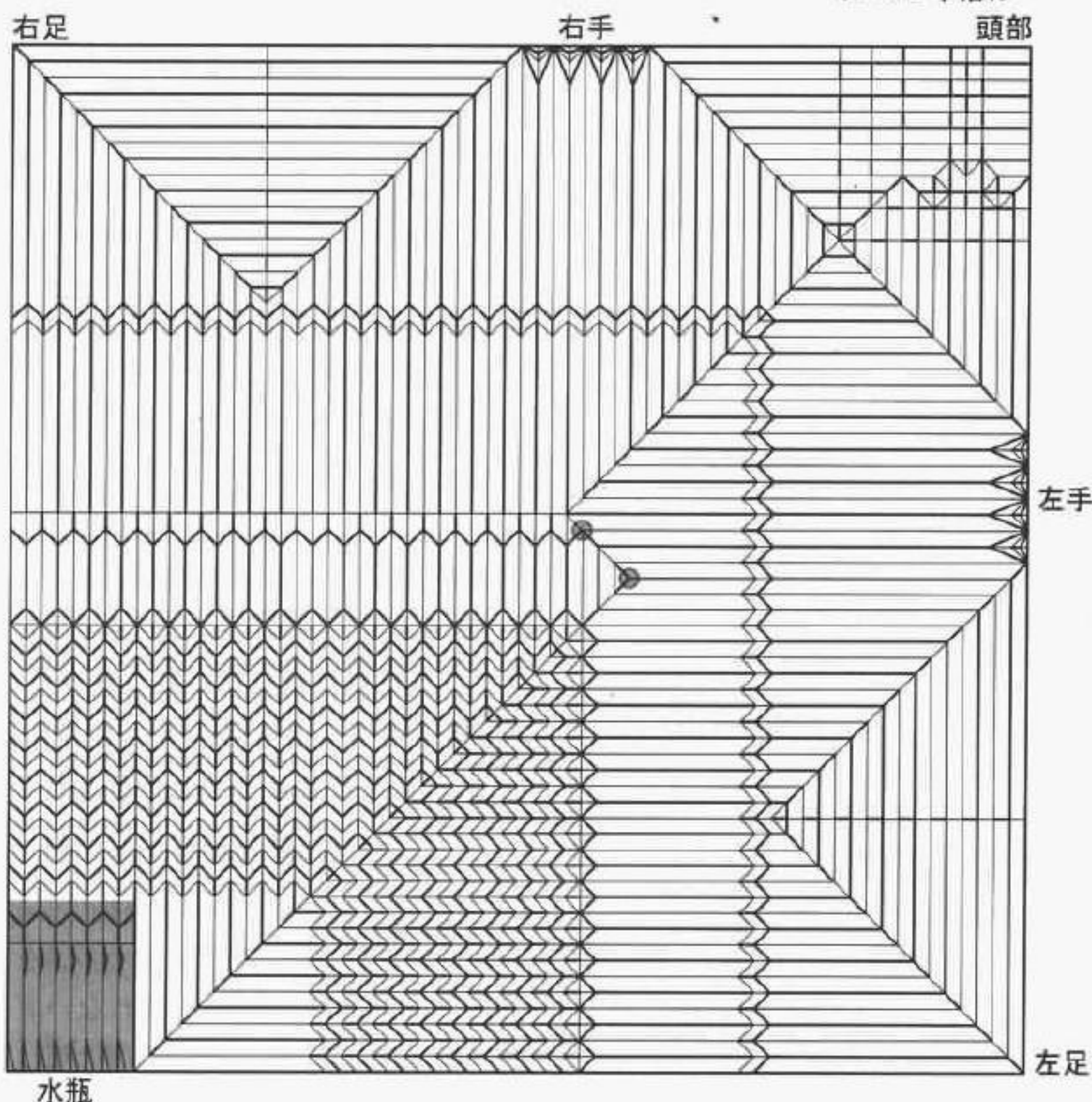
まず全ての折り目を付けてから、灰色の長方形で示す領域以外を一気に組み上げますが、図中に灰色の丸で示す部分は平面にきちんと折りたたむことができないため、立体的

なままで作業を進めます。最後に灰色の長方形部分にある折り線で、数枚重なった部分と一緒に折って水瓶を成形します。

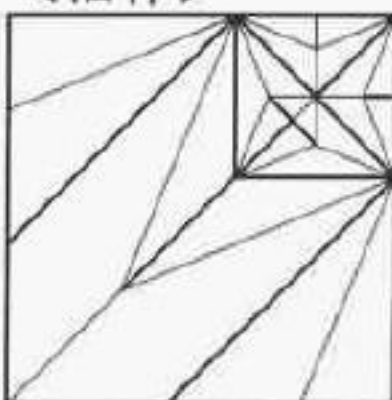
旧作の「水瓶座」に関しては、作者ホームページ「現代折り紙」<http://www11.ocn.ne.jp/origami/> をご覧ください。



<2005年版>



<旧作>



File-14

吉澤 章さんご逝去

Obituary: Yoshizawa Akira

Origamiを国際語にした近代折り紙の功労者と言っても過言ではない吉澤章氏が逝ってしまった。国内の活動はもとより海外での活動は誰もが知るところだった。国際交流基金などで派遣され出向いた国も50を超すと聞く。どこの国でも熱く折り紙を伝えていたようであるがその姿はもう見る事ができない。氏の影響を受けたペーパーフォルダーは数えきれず、多くの海外折り紙作家を生み出した。中でも私の好きな作家であるイギリスのデビッド・ブリル氏が代表的ではないだろうか。ブリル氏の作風には吉澤氏の持っていた温もりや大胆さが感じられる。

なお、氏を偲んで次号では「吉澤章の世界」を特集してお伝えしたい。(やまぐち真)

折り紙との出会い ◆川崎敏和◆

30年前、吉澤章氏の「白鳥」と出会いました。折り紙と無縁だった高校生の私は、雑誌で偶然この作品を目にして、虜になりました。解説無用、作品としての折り紙がそこに存在していたのです。折り紙の何たるかを「白鳥」に教えられました。立体的にまとめること。込み入った折りを使わないこと。今でも吉澤折り紙の影響を受け続けています。時とともに折り紙も変わっていくことでしょう。しかしいつの時代も、その中心に吉澤折り紙が存在し続けることでしょう。吉澤章氏の御冥福を心よりお祈りいたします。合掌。

◆北條高史◆

ぐらい折りを駆使した「しわ」を自在に使いこなすことができたのは、後にも先にも吉澤氏以外にいないだろう。決して手の届かない技術を持った雲の上の人が、また別の、決して手の届かないところに行ってしまった。去年のコンベンションで、車いすで通路の段差越えをするときにお手伝いしたのが、お会いした最後の機会となってしまったのか…。謹んで、ご冥福を祈ります。

◆羽鳥公士郎◆

私はここ何年か折り紙の歴史を調べていますが、1950年代以降の折り紙について考えるたびに、吉澤章こそが今日の折り紙界

の父であると確信します。吉澤さんは国際交流の中心に位置し、その作品は世界中の折り紙人にとって目標となってきました。もしも吉澤さんがいなかったら、今日のような国際的な折り紙の盛り上がりはなく、世界中で優れた作品が次々と生まれるということもなかったでしょう。偉大な足跡を残された吉澤さん、今はただ、ゆっくりとお休みください。

◆前川 淳◆

わたしが生まれて初めて買ってもらった折り紙の本は吉澤章氏のものでした。裏表紙に父の文字で「まえかわじゅん」と書かれた本が、いまでも手もとにあります。吉澤氏は、わたしが折り紙を知ったときから、常に輝く存在としてありました。そして、これからもそうあり続けるでしょう。ご冥福をお祈りします。

大きな星 ◆布施知子◆

私は、吉澤章さんの著書で折り紙好きへの蒙を啓いていただいた。今は言葉も無い。お目にかかった際のあれこれの言葉と、手のひらの感触を思い出している。大きな大きな星です。いつまでも。本当にありがとうございました。安らかにとお休みください。

◆木村良寿◆

吉澤氏の業績は表現の芸術性ばかり語られがちですが、いわゆる基本形の複合や正三角形等の変形用紙への適用、蛇腹折りのみで構成された作品など、技法面でも様々な先進性を提示された方でした。表現、技法ともに後進に多大な恩恵を与えて下さいました。ありがとうございました。

◆ジューン・サカモト◆

私は、大変名誉なことに吉澤章先生と何度もお会いし、コーディネーター・通訳として、先生と一緒に働かせていただきました。先生はまるで私を娘のようにかわいがって下さいましたが、どちらかというと、本当の娘に対するように、厳格で時には厳しく叱る様な

吉澤 章(よしざわ・あきら)=1911年栃木県生まれ。日本の伝統文化「折り紙」を、造形美術「ORIGAMI」に昇華させ、世界中の折り紙愛好家から尊敬され続けてきた。2005年3月14日午前2時25分、永眠。享年94歳。



「父親」でした。はじめは戸惑いましたが、すぐに、折り紙の折り手として上達するための、先生の知る最善の方法を教えようとして下さっていたのだと分かりました。

去年の夏が最後にお会いする機会となってしまいました。すでにお体も弱り、ご自分で立つことも出来ず、またあまり周りのことがお分かりにならない様子でしたが、奥様が目の前に先生が折られた作品を差し出すと、急に顔色が冴え、生き生きとし始めたのです。それを見ていた私たちは大変驚きましたが、このことで私達は、先生は、折り紙に本当に人生を捧げられたのだということが分かりました。これからも、数々の作品を通じて、吉澤先生は私達の中に生き続ける事と思います。

I have had the honor of meeting Master Yoshizawa on numerous occasions and worked with him and his staff as translator and coordinator. He treated me like a daughter. However, like all concerned fathers, he was strict and scolded me often. Although at first taken aback, I quickly learned that he was only trying to teach me the best way he knew to make me become a better origami folder.

Last summer was the last time we met. He was feeble and unable to walk on his own. He was clearly not mentally alert. However, when Mrs. Yoshizawa brought out his models, Master Yoshizawa immediately recognized his work and perked up. It was amazing to see the transformation take place before my eyes. It was obvious that Master Yoshizawa lived for origami. He will continue to live on through his work.

(June Sakamoto)

会場に据えられたモニターに流される吉澤氏のビデオの前で弔辞を述べるジューン・サカモト氏



お別れ会の会場。入り口には吉澤氏の気持ちを表すかのように大きな木が立っていた



Rabbit Ear

つまみおり

Information

第11回 折紙探偵団コンベンション

8月26(金)、27(土)、28(日)

会場:東洋大学(東京都文京区白山)

参加申し込み書は6月より配布

11th Origami Tanteidan Convention
2005 August 26-28 at Toyo University, Tokyo.

今年もついにコンベンションの季節が近づいてきた。折り紙初心者も熟練者も同じ立場で楽しむことができる、年に1度の折り紙大会。海外からの参加者も多く、国際色も豊かなイベントとしても定着しつつある。ボランティアだけで運営されている大会だが、スタッフ一同、今年も充実したイベントの開催を目指している。

折り紙教室

今年もシンプルな作品からスーパーコンプレックスまで幅広い作品の講習を予定している。作者自ら講師になる教室では、最新作や未発表作品が講習されたり、なかなか直接教わる機会のない海外作家の教室もある。また、今年は展開図折り大好き人間のための専用教室も企画している。

教室は定員制で、受講申し込みは当日になる。この教室受付の順番は、コンベンション参加申し込み到着順となる。希望の講習を受けるためにも、参加申し込みは早めが基本。91号に参加申し込み用紙が同封され、受付スタートとなる。

懇親会

「懇親会」というと何となくカタいが、要するに折り紙好きのための親睦パーティーだ。大人だけの集まりではなく、老若男女区別なく折り紙の話題で盛り上げられる場所となっている。ビュッフェ形式で食べ盛りの若者も満足できる食事に、昼間の折り紙教室とはまた違った、折り紙好きならではの会話が飛び交う。是非交流の輪を広げてほしい。

折り紙オークション

近年は27日、28日を通して行う入札式オークションも加わって好評のイベント。また閉会式の際に行われる公開オークションも見逃せない。過去には「ビバ! おりがみ」などの絶版本も出品されている。今年も幻の逸品が登場するのか? 折り紙関連グッズ提供者募集中。

恒例アフターツアー

恒例となりつつあるコンベンション後のツアーを今年も予定している。基本的に海外参加者のためのツアーなので、彼らが興味を持つような企画が中心となる。今年は愛知県で開催中の「愛・地球博」を含めたツアーを企画 중이다。

折り紙講師大募集

27日、28日の折り紙教室は、1コマ50分の教室を、同時に10教室、2日間で110コマを開講する。簡単な作品からコンプレックスまでバラエティーに富んだプログラムを予定している。そこで、今年も広く講師を募集する。創作をして自分の作品を折ってもらいたいという人、教えることが好きな人、自分の好きな作

品を他の人にも伝えたいという人、ずっと受講生として参加していた人も、是非講師としても参加して頂きたい。

●条件

特になし。講習作品が自分で創作した作品でなくてもかまわない。もちろん自分の創作作品を教えた人も大歓迎。

●他人の創作作品を教える場合

著作権のことなどが煩わしい、作者の許可などを取るのが大変だ、と思う方も多いだろう。今年も昨年同様、学会で、そういった手続きをお手伝いする予定。ただし作家によっては不可能な場合もある。(P.31「日本折紙学会15期事業報告と16期予定」に関連事項掲載)

●折紙指導員

昨年からはじまった日本折紙学会が認定する折紙指導員の資格を取るチャンス。コンベンションで講師をして審査を受けることも「折紙指導員」認定の条件の1つ。まだ講師経験のない方にもぜひ挑戦して頂きたい。

※やむを得ない事情により、プログラム、料金等の予定が変更される場合があります。予めご了承ください。

■会場 東洋大学
(東京都文京区白山)

■日程

●8月26日(金) 特別講演会
受付=12:00~
講演=13:30~17:00
(講演会のみ参加=無料)
●8月27日(土)
受付=9:00~
折り紙教室=13:10~17:00

お楽しみ懇親会=18:00~
●8月28日(日)

受付=9:00~
折り紙教室=10:40~16:20
オークション=16:30~
■参加費(折り紙用紙、バッジなど含む)
大人=5,000円
学生(小、中、高、大学生)=4,000円
※折り図集別売:予価2,000円
親子割引:保護者に同伴される小学生以

下の児童は半額となります。但し折り紙用紙等の配布はされません。
■お楽しみ懇親会(希望者のみ)
●8月27日(土)18:00~ 会場:未定
●参加費=大人5,000円(予定)
小学生以下4,000円(予定)
■宿泊(希望者のみ)
1泊素泊まり=5,700円(予定)
26日・27日及び前泊、後泊を含めて予約を受け付けます。

◆コンベンションボランティアスタッフ大募集

皆さんご存知の通り、コンベンションはボランティアのスタッフにより運営されている。今年はより組織的な運営を目指し、スタッフは事前の完全登録制にすることとなった。東京近辺に在住で、開催前からお手伝いしてもらえ人は勿論、遠方在住で当日のみのスタッフも大歓迎。大小様々な仕事があるので、スタッフとしてコンベンションを楽しんでください。

今回募集しているのは以下の項目。各担当責任者とその下で活動してもらえスタッフを求めている。興味のある仕事があれば、事務局までお問い合わせ願いたい。

●事前の準備その1(5月よりスタート)

1. 参加申し込みデータ登録・管理
2. 講師申し込みデータ登録・管理

この仕事は事前準備の中でも一番大切な仕事だ。データ入力事務局内のパソコンで行うので、事務局へ定期的に通うこととパソコンが扱えることが必要条件となる。

●事前の準備その2(7月よりスタート)

3. 参加申し込み受理票発送作業
 4. 作品展示申し込み受付・データ登録
- こちらも1、2と同じく定期的に事務局へ通える方を募集。

●事前の準備その3(8月中旬)

5. バッジ制作(2~3名)
6. 名札作り(2~3名)
7. その他必要書類制作補助

5のバッジ制作は体力勝負。6は主にプリントされた名札のラミネート加工。7は名札シールの切り取りや、受付の際に渡す名札バックのセッティングなど。特別なノウハウは必要なし。それぞれ約1日の作業。

●当日スタッフ(5月からの定期ミーティングに参加できる人)

8. 受付(金・土・日の朝、もしくは終日)
9. 教室受付(土・日朝)
10. 作品展示(土・日終日)
11. オークション管理・運営(土・日終日)
12. インフォメーション(金・土・日終日)

13. 通訳(土・日)

8の受付は参加・宿泊・懇親会・学会入会などで、各1名以上の担当者を募集。

9の教室受付は数名でチームを作り、作業を分担する。声の大きい人大歓迎。10は数名でチームを作り交代で管理する。特別な技術・能力は必要なし。11は、オークションへ出される品物の管理、全体会でのルール説明、最終日の目玉商品オークションの運営が主な仕事。責任者1人と補助スタッフを数名募集。12は初の試み。参加者の問い合わせに答えるコーナーを設置する。中心になる評議員の補助的な仕事。13は、遠方在住の方でもOK、語学が得意な方は是非ご連絡を。

●当日スタッフ(当日参加のみの人)

14. 荷物の移動と片づけ(金・土・日)
 15. 折り紙セットの袋詰め・配布(土曜日)
- 8~12の補助スタッフとして動いてもらうことになる。作業は当日のみ、責任者の指示に従ってもらえば良いが、事前から責任者とメールなどで連絡がとれることが必要。

◆Yoshino Issei Fund invites foreign origamists to our conventions 第9回吉野一生基金海外招待作家募集

海外の折り紙作家との交流を目的として設立されたこの基金は、折り紙愛好家の支えによって成り立っている。第9回となる2005年は2名の招待を予定している。今回は誌面の都合上英語版の案内のみを掲載させて頂く。日本語版は折紙探偵団のウェブサイトに掲載の予定。

Yoshino Issei Fund, named in commemoration of the talented origami designer, aims at exchanges of ideas with the world's origamists, supported by contributions from Tanteidan members, and we have invited foreign origamists to our conventions.

This year, we would like to invite two foreign origamists to the 11th convention.

We are accepting candidates until the end of this April. We accept both recom-

mendations and direct applications. The selection committee will decide who we invite and announce the conclusion this May in the magazine, our web site and directly to the winners. The members of the committee are, Kawasaki Toshikazu, Kawahata Fumiaki, Kawamura Miyuki, Kimura Yoshihisa, Nishikawa Seiji, Tateishi Koichi, Maekawa Jun, and Yamaguchi Makoto.

The selected guests must attend the 11th convention and instruct some

models. They must also supervise an exhibition at Gallery Origami House.

Yoshino Issei Fund offers them 200,000 yen for traveling and staying expenses. We also advise on their stay.

Send us your application with the candidate's name, age, address, telephone number, fax number, e-mail address, and some works (photographs of the model, diagrams, or books).

Yoshino Issei Fund
c/o Gallery Origami House
1-33-8-216, Hakusan, Bunkyo-ku,
Tokyo, 113-0001, JAPAN
Mail: webman@origami.gr.jp

◆第11回「コンベンション折り図集」原稿大募集

今年もコンベンション折り図集への作品投稿を広く一般から募集する。毎年のように投稿作品数が多くなり、特に海外編はかなりの競争率となっている。国内も負けられないような気合いの入った折り図を待っている。

●応募資格

アマ・プロ、年齢不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要なし。コンベンション参加の可否不問。採用者(ページ数の条件あり)には、掲載作品数に関係なく「折紙探偵団コンベンション折り図集」Vol.11を1冊進呈。

●応募作品の条件

創作もしくはアレンジの作品で、自作の折り図に限る。(アレンジ作品の場合は、オリジナルの創作者の了解を取った上で、名前も明記すること。)原稿はデジタルデータ、手描きどちらでも可。

投稿規定:「折り図投稿マニュアル(4月より配布開始予定)」に沿って投稿申し込み手続き及び原稿作成を行うこと。

●「折り図投稿マニュアル」入手方法

ダウンロード=折紙探偵団ウェブサイト「新着情報」ページから/郵便での取り寄せ=返信用封筒に80円切手を貼って送り先を記入の上、請求のこと。

Convention Book Vol.11

We are accepting diagrams for Origami Tanteidan Convention Book volume 11. The selected models will be published in this book. The format of diagrams is available from our web site. They can be computer-generated or handwritten.

●問い合わせ先
TEL&FAX:03-5684-6080(事務局)
URL: <http://www.origami.gr.jp/>
e-mail: conv@origami.gr.jp

◆第6回折紙探偵団関西コンベンション情報

The 6th Origami Tanteidan Kansai Convention

前回お知らせした関西コンベンション、スペースの都合で掲載できなかった英語での案内を掲載する。引き続き参加申し込みを受け付けており、また教室の講師も募集している。自分で創作した作品でなくてもかまわないので、気軽に参加してほしい。指導員認定審査も実施されるので、この機会に挑戦してみては?

期日/2005年4月30日・5月1日

場所/神戸大学百年記念館

詳細は前号(89号)、もしくはウェブサイトをご覧ください。

●関西友の会ウェブサイト

<http://kobe.cool.ne.jp/tatekoo/>

連絡先:立石浩一(JOAS評議員)

TEL:078-861-6337

編注)一般家庭でするので、夜遅くのお問い

合せはご遠慮ください

Eメール:koichi_tateishi_@kcc.zaq.ne.jp

The 6th Kansai Convention will be held in Kobe University, the same place as the last year's. Those who want to join can contact: Koichi Tateishi (JOAS Board Member)

E-mail: koichi_tateishi_@kcc.zaq.ne.jp or the Kansai Homepage:

<http://kobe.cool.ne.jp/tatekoo/>

(Japanese only site) has a downloadable application forms and guidances (written in Japanese PDF format).

Early application can guarantee your early class registration (Note: Unlike Tokyo Tanteidan Convention, we do NOT make fees exempt for foreign applicants, nor do we make you foreign applicants register for the classes earlier).

Date: Apr. 30 (Sat.), May 1 (Sun.), 2005

Place: Kobe University Hyakunen Kinenkan (Details about the place to be announced to the applicants)

Planned Schedule:

Apr. 30 (Sat.)

9:45 Registration

10:10 Class Registration

12:10 General Meeting

12:40- Origami Classes (50 minutes X 4 classes)

17:30 Party (Optional; Separate Fees)

May 1 (Sun.)

9:45 Class Registration

10:45- Origami Classes (50 minutes X 4 classes)

16:00 General Closing Meeting

Fees:

Registration (To be Paid On-Site)

Adults 4,000 yen

Children (Junior High Student or younger) 3,000 yen

Party:Adults 5,000 yen

Children 3,000 yen

おりがみはうす 緊急スタッフ募集

業務拡張のためスタッフを募集しています。「折り紙が好き」「折紙探偵団に興味がある」「日本折紙学会を盛り上げていきたい」など、折り紙に情熱を持つ方を求めています。女性で近隣に在住、パソコンによるデザイン業務ができる25~28歳位までの方を希望です。職種はデザイン、編集、雑務。ハード(?)ですが楽しくもあります。折り紙の仕事に関わりた方には面白い職場です。

03-5684-6040 おりがみはうす 山口まで。

編集後記

■偉大な方の葬儀に参列した。ご自分の誕生日に亡くなったそうである。■偉大な世界を引き継いでいってくれる方がいるのか心配になった。■今後を心配するのは私だけではないだろう。■ご冥福をお祈りします。■葬儀のためにアメリカから来たJune Sakamotoさんの折り紙に対する気持ちを改めて感じ取ることができた。(や)

ホームページ

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字別)

折紙探偵団

2005年3月25日発行 第15巻6号通巻90号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価 600 円

◆ジョアン・サラス氏来日

羽鳥公士郎

欧米では「the hat man(帽子男)」の愛称で知られ、気さくな人柄で人気のあるジョアン・サラス氏が来日した。彼はスペイン生まれ、ドイツ在住のプロの折り紙作家。今回は、フィリピンから客船に乗り込み、エンターテイナーとして折り紙を教えながら日本を訪れた。

船が横浜に寄港する日が、ちょうど折紙探偵団東京友の会例会と重なったので、会に招待した。その日は高井弘明氏の講習が予定されていたが、氏の講習時間を分けてもらい、トイレットペーパーの芯を使った作品「靴」と、細長い紙を使った、お辞儀をする「鳥」の講習をした。どちらも簡単に折れるほほ笑ましい作品で、短い講習時間だったが会場は楽しい雰囲気に包まれていた。

サラス氏が来日するのは初めてで、「自分が日本にいるなんて信じられない」と、興奮した様子だった。船の出航時間の関係で、会に最後まで参加できなかったのが残念だが、来

年も船で日本に来て、皆さんを船上パーティーに招待したいといっていた。



▲トイレットペーパーの芯を使った作品を講習するジョアン・サラス氏

▲サラス氏の作品

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=文京シビックセンター/参加費=300円(中学生以下100円)/講習会=14:00~ /研究会=16:00~

●4月2日(土)/地下1階生涯学習センター・学習室/講師:宮本宙也/作品:ピョビーヨ(ひよこの箱)

●5月7日(土)/地下1階生涯学習センター・学習室/講師:未定/作品:未定

関西友の会

●6月19日(日)/会場=長岡京市立産業文化会館/14:00~17:00/参加費=500円/講師:坪 正/作品:意地悪ペンギン

静岡友の会

●5月1日(日)会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F/参加費=500円/時間=10:30~12:00/問い合わせ:054-254-4541(増武内 山口16~20時)

■ORIGAMITANTEIDAN / No.90 / Published on 25, March 2005 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Aquarius 2005" Produced by Hojo Takashi / Photographed by Matsuura Eiko / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

I ♥ ORIGAMI おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/> E-mail = info@origamihouse.jp

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only. For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10

日本折紙学会 編 / 2,000円 / 送料420円
B5判 / 全256頁

国内・外から集まった秀作55作品を収録

好評発売中!

王蟲:津田良夫、フレキシブル・ボール:川崎敏和、コス
モスフィア:川村みゆき、ガメラ:笹出晋司、猿の面:霞 誠
志、ネコ:デビッド・プリル、ラット:エリック・ジョワゼル、
ハクトウワシ:ネイサン・ゲラー 他

神谷哲史作品集 神谷哲史 著

山口 真 編 立石浩一 訳

4,000円 / 送料420円

B5判 / 全228頁 / カラー口絵4頁 / 19作品収録
超複雑系折り紙を得意とする神谷氏の8年間の集大成。
大幅に加筆されて折りやすくなったバハムート、初期バー
ジョンから改良されたエンシェントドラゴンの折り図等
19作品の折り方を収録。

大好評発売中!

※第10回折り図集と神谷作品集の
2冊同時注文の送料は530円です。

書籍名 / 著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円	国内一律 1冊 420円 (梱包込) ※ 複数冊は 異なります	B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵 4頁 / 17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
折り紙色紙百花 田中具子 著 山口 真 編	2,500円		B5判 / 全120頁 / カラー口絵8頁 / 31作品収録 色紙に貼り込んで飾る花の折り紙作品集
一生 スーパーコンプレックス おりがみ 吉野一生 著	2,900円		B5判 / 全200頁 / カラー口絵8頁 トリケラトプス全身骨格を含む14作品収録
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
第9回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.9 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録
第8回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.8 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作45作品を収録
第7回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.7 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外の創作家の秀作51作品を収録

※第1回~第6回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「冊子小包」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

書籍複数の送料ご案内
 書籍2冊の送料は530円になります。(同じ書籍2冊でも同様)
 書籍3冊の送料は670円になります。(例外を除く・右記参照)

例 「折り図集」又は「色紙百花」だけを3冊の場合
 (例:折り図集8、9と色紙百花各1冊)のみ530円です

上記以外の場合はお問い合わせください / 書籍と紙製品は別発送となりますのでご了承ください

商品名	価格(税込)	送料	内 容
洋紙にエンボス加工をしたちよがみ 花だより 30cm判	490円	国内一律 1~3セット 440円※	30×30cm / 16枚入(2色×8枚) 桜柄の春らしい色調 ※和紙ではありません
洋紙にエンボス加工をしたちよがみ 木の葉 30cm判	490円		30×30cm / 16枚入(4色×4枚) 葉っぱをモチーフにしたシックな柄 ※和紙ではありません
恐竜柄おりがみ用紙	1,000円	国内一律 1~2セット 440円	35×35cm / 10枚入 / 70kgの 洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 3種類から 折り図つきセット 選べます	1,200円	3~5セット 630円※	1. ドラゴン(北條高史作) 2. ティラノサウルス(神谷哲史作) 3. カルノタウルス(神谷哲史作)

※紙製品は定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送になります)。
送料には梱包材代が含まれています

只今制作中 発行日は未定です。気長に待っていて下さい
 折紙図鑑「犬」 / 佐野康博・著 犬の折り紙第一人者の作品集
 北條高史作品集 / 北條高史・著 あの名作の折り図も掲載予定

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください

ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216

TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080

E-mail: info@origamihouse.jp 10時~18時 日・祝休

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
 ※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
 ※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
 ※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。



豪華金箔調 おりがみ

金/赤

おもて



うら



315円 (本体価格300円)



豪華金箔調 おりがみ

金/緑

おもて



うら



315円 (本体価格300円)



株式会社トヨー

ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡営業所 / 札幌出張所 / 松山出張所

日本折紙学会発行

定価 600円